河内長野市遺跡調査会報XIII

ジョウノマエ遺跡
尾　崎　遺　跡
尾崎北遺跡
菱子尻遺跡
市町東遺跡

１９９６年3月

河内長野市遺跡調査会

序　　文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向う街道の要衝として発展してきた街です。この為市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市も大阪市内への通勤圏に位置しているため住宅都市として近年、開発の波が押し寄せて来ています。この開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。このような状況の中で、遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、更には未来の市民へ伝えていく事は、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市に於いては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達のメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成８年３月

河内長野市遺跡調査会

理事長　中　尾　謙　二

例　　言

1．本報告書は昭和62年度から平成５年度に河内長野市遺跡調査会が下記の通り委託を受けて実施した遺跡の調査報告書である。

ジョウノマエ遺跡・1987年度尾崎遺跡(大阪府)、1993年度尾崎遺跡(エッソ石油株式会社)、尾崎北遺跡(奥野フサエ)、菱子尻遺跡(開発観光株式会社)、市町東遺跡(河内長野市)

2．本報告にかかる事務は調査会事務局長松垣孝康が主担した。

3．調査及び本書の執筆は、河内長野市教育委員会尾谷雅彦が鳥羽正剛、杉本(中村)清美(現大阪府教育委員会)の協力のもとに行った。編集は杉本祐子がこれを補佐した。尚、本書の文責は尾谷が負うものである。

4．遺物の写真撮影は中西和子が行った。

5．外業調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。(敬称略)

池田武・今西(杉山)和良・嘉悦真紀子・喜多順子・楠木理恵・久保八重子・古島亮介・小谷陽子・小森光・佐々木恵里・重野真紀・甚口博美・鈴木(明地)奈緒美・鈴木雅子・高田加容子・田川富子・田中良明・田村知子・中尾智行・中田文・中野雅美・中村嘉彦・林和宏・坂東正法・東田幸子・東原美佳・平井令子・福島里浦・福永(田中)美千代・藤井美佐子・古井晶子・古池陽子・枡本裕子・松尾和代・松村佳映・三井義勝・牟田口京子・山本有佳子・結城(阪本)桂子

6．発掘調査及び内業整理については下記の方々の協力、指導を得た。記して感謝する。

(敬称略)

粟田薫(富田林市教育委員会)・奥野フサエ・堀江門也(大阪府教育委員会)・大阪府富田林土木事務所・エッソ石油株式会社・開発観光株式会社・株式会社島田組

7．航空測量については写測エンジニアリング株式会社・株式会社エアロが実施した。

8．本調査については、写真・実測図等の記録及びカラースライドを作成した。また、出土遺物については市教育委員会で保管し、一部は市立郷土資料館で展示している。広く一般の方々に利用されることを希望する。

凡　　例

1．本報告書に掲載されている標高はＴＰを基準としている。

2．土色については、新版標準土色帖1990年度版による。

3．平面測量基準は国家座標第Ⅵ系による５ｍメッシュを基に実施したものである。

4．図中の北は座標北である。

5．遺構実測図の縮尺率は、1/30・1/40・1/60・1/80・1/100・1/120・1/300とした。

6．本書の遺構名は下記の略記号をもちいた。

ＳＢ‥‥掘立柱建物　ＳＤ‥‥溝　ＳＥ‥‥井戸　ＳＫ‥‥土坑
ＳＰ‥‥ピット　ＳＵ‥‥集石遺構　ＮＲ‥‥自然流路　ＳＸ‥‥その他

7．遺構番号は、各遺構ごとに既往の調査を含めて一連番号を記した。この為本書では番号が途中からである。

8．遺物実測図の縮尺率は、土器1/4、石器2/3を基準に各遺物の状況により、縮尺は変えている。

9．須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器の断面は黒塗り、土師器・土師質土器・黒色土器の断面は白抜きである。又、黒色土器の黒色部分にはスクリーントーンを付した。

10. 瓦器椀の形式分類は、尾上実氏の和泉型瓦器椀の編年に基づくものである。

11. 遺物番号と写真図版の番号とは一致する。

目　　次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次
付図目次
第１章　はじめに…… 1
　第１節　調査に至る経過…… 1
　第２節　歴史的環境…… 1
第２章　調査の結果…… 5
　第１節　ジョウノマエ遺跡（ＪＮM88）…… 5
　　1　概略…… 5
　　2　層序…… 6
　　3　遺構と遺物…… 9
　　4　まとめ…… 15
　第２節　尾崎遺跡（ＯＳＫ87）…… 16
　　1　概略…… 16
　　2　層序…… 17
　　3　遺構と遺物…… 17
　　4　まとめ…… 24
　第３節　尾崎遺跡（ＯＳＫ93－１）…… 26
　　1　概略…… 26
　　2　層序…… 27
　　3　遺構と遺物…… 28
　　4　まとめ…… 32
　第４節　尾崎北遺跡（ＯＳＮ93－１）…… 33
　　1　概略…… 33
　　2　層序…… 33
　　3　遺構と遺物…… 34

4　まとめ…… 37
第５節　菱子尻遺跡（ＨＳＫ90－２）…… 39
1　概略…… 39
2　層序…… 40
3　遺構と遺物…… 40
4　まとめ…… 43
第６節　市町東遺跡（ＩＣＨ90－１）…… 45
1　概略…… 45
2　層序…… 46
3　遺構と遺物…… 46
4　まとめ…… 47

挿　図　目　次

第１図　河内長野市遺跡分布図(1/40000)…… 2
ジョウノマエ遺跡(ＪＮM88)
第２図　ＪＮＭ　調査区位置図(1/5000)…… 5
第３図　ＪＮＭ　第１調査区北西壁・北東壁土層断面実測図(1/60)…… 6
第４図　ＪＮＭ　第２調査区西壁土層断面実測図(1/60)…… 6
第５図　ＪＮＭ　遺構配置図(1/300)…… 7～8
第６図　ＪＮＭ　ＳＢ１出土遺物実測図…… 9
第７図　ＪＮＭ　ＳＢ１遺構実測図(1/60)…… 9
第８図　ＪＮＭ　ＳＢ２遺構実測図(1/60)…… 9
第９図　ＪＮＭ　ＳＤ８～10出土遺物実測図…… 10
第10図　ＪＮＭ　ＳＤ９～11・13遺構断面実測図(1/40)…… 11
第11図　ＪＮＭ　ＳＥ３遺構実測図(1/60)…… 12
第12図　ＪＮＭ　ＳＥ３出土遺物実測図…… 12
第13図　ＪＮＭ　ＳＫ４・５出土遺物実測図…… 13
第14図　ＪＮＭ　ＳＫ３遺構実測図(1/30)…… 13
第15図　ＪＮＭ　ＳＰ２～６出土遺物実測図…… 13
第16図　ＪＮＭ　包含層出土遺物実測図…… 14
尾崎遺跡(ＯＳＫ87)
第17図　ＯＳＫ　調査区位置図(1/5000)…… 16

第18図　ＯＳＫ　遺構配置図(1/300) …… 16
第19図　ＯＳＫ　西壁土層断面実測図(1/60) …… 17
第20図　ＯＳＫ　ＳＢ１・３出土遺物実測図 …… 17
第21図　ＯＳＫ　ＳＢ１遺構断面実測図(1/120) …… 18
第22図　ＯＳＫ　ＳＢ２遺構実測図(1/60) …… 19
第23図　ＯＳＫ　ＳＢ３遺構実測図(1/60) …… 19
第24図　ＯＳＫ　ＳＢ４遺構実測図(1/60) …… 20
第25図　ＯＳＫ　ＳＤ４出土遺物実測図 …… 21
第26図　ＯＳＫ　ＳＥ１遺構実測図(1/30) …… 21
第27図　ＯＳＫ　ＳＥ１出土遺物実測図 …… 21
第28図　ＯＳＫ　ＳＫ１遺構断面実測図(1/40) …… 22
第29図　ＯＳＫ　ＳＫ２遺構実測図(1/30) …… 22
第30図　ＯＳＫ　ＳＫ４遺構実測図(1/30) …… 22
第31図　ＯＳＫ　ＳＰ１出土遺物実測図 …… 23
第32図　ＯＳＫ　ＳＰ１遺構実測図(1/30) …… 23
第33図　ＯＳＫ　ＳＸ１遺構実測図 …… 23
第34図　ＯＳＫ　ＳＸ１出土遺物実測図 …… 24
第35図　ＯＳＫ　包含層出土遺物実測図 …… 25
尾崎遺跡(ＯＳＫ93－１)
第36図　ＯＳＫ　調査区位置図(1/5000) …… 26
第37図　ＯＳＫ　遺構配置図(1/300) …… 26
第38図　ＯＳＫ　西壁土層断面実測図(1/80) …… 27
第39図　ＯＳＫ　ＳＤ３出土遺物実測図 …… 28
第40図　ＯＳＫ　ＳＤ19出土遺物実測図 …… 30
第41図　ＯＳＫ　ＳＥ２出土遺物実測図 …… 30
第42図　ＯＳＫ　ＳＫ５出土遺物実測図 …… 31
第43図　ＯＳＫ　包含層出土遺物実測図 …… 32
尾崎北遺跡(ＯＳＮ93－１)
第44図　ＯＳＮ　調査区位置図(1/5000) …… 33
第45図　ＯＳＮ　遺構配置図(1/200) …… 33
第46図　ＯＳＮ　北西壁・北東壁土層断面実測図(1/60) …… 34
第47図　ＯＳＮ　ＳＤ１遺構実測図(1/40) …… 35
第48図　ＯＳＮ　ＳＤ２遺構実測図(1/40) …… 35
第49図　ＯＳＮ　ＳＤ１・２出土遺物実測図 …… 35
第50図　ＯＳＮ　ＳＫ１～３出土遺物実測図 …… 36

第51図　ＯＳＮ　ＳＰ１出土遺物実測図……37
第52図　ＯＳＮ　ＮＲ１出土遺物実測図……37
第53図　ＯＳＮ　包含層出土遺物実測図……37
菱子尻遺跡（ＨＳＫ90－２）
第54図　ＨＳＫ　調査区位置図(1/5000)……39
第55図　ＨＳＫ　遺構配置図(1/300)……39
第56図　ＨＳＫ　南西壁土層断面実測図(1/60)……40
第57図　ＨＳＫ　ＳＫ３遺構実測図(1/30)……41
第58図　ＨＳＫ　ＳＫ１～４出土遺物実測図……42
第59図　ＨＳＫ　ＳＸ２遺構断面実測図(1/40)……42
第60図　ＨＳＫ　ＳＸ３遺構断面実測図(1/40)……42
第61図　ＨＳＫ　ＳＸ１～４出土遺物実測図……43
第62図　ＨＳＫ　ＳＸ４遺構断面実測図(1/40)……43
第63図　ＨＳＫ　包含層出土遺物実測図……43
市町東遺跡（ＩＣＨ90－１）
第64図　ＩＣＨ　調査区位置図(1/5000)……45
第65図　ＩＣＨ　遺構配置図(1/60)……45
第66図　ＩＣＨ　南西壁土層断面実測図(1/60)……46
第67図　ＩＣＨ　ＳＢ１遺構実測図(1/60)……46
第68図　ＩＣＨ　ＳＫ１出土遺物実測図……46
第69図　ＩＣＨ　包含層出土遺物実測図……47

表　目　次

第１表　河内長野市遺跡地名表……3

図　版　目　次

ジョウノマエ遺跡（ＪＮＭ88）
図版１　遺構　第１・２調査区　全景（真上から）、第１調査区全景（北から）
図版２　遺構　第１調査区　全景（南から）、ＳＢ１（西から）

図版３　遺構　第２調査区　全景(南東から)、全景(西から)

図版４　遺構　第２調査区　ＳＥ３(西から)、ＳＤ10(北から)

図版５　遺構　第２調査区　ＳＫ３(北から)、ＳＫ４(西から)

図版６　遺物　第１・２調査区　ＳＢ１(１)、ＳＤ８(４)、ＳＤ９(２・６)、ＳＤ10(３・５・７～11)

図版７　遺物　第１・２調査区　ＳＥ３(12・13)、ＳＫ４(16)、ＳＫ５(17)、ＳＰ２(23)、ＳＰ３(24)、ＳＰ４(18)、ＳＰ５(25)、ＳＰ６(19～22)

図版８　遺物　第１・２調査区　包含層(26～33・35～39)

尾崎遺跡(ＯＳＫ87)

図版９　遺構　全景(北から)、ＳＢ１(南から)

図版10　遺構　ＳＢ２～４、ＳＸ１(北から)、ＳＤ２(北西から)

図版11　遺構　ＳＥ１(北から)、ＳＫ１(北から)

図版12　遺構　ＳＫ２(西から)、ＳＫ３

図版13　遺構　ＳＰ１(西から)

遺物　ＳＢ１(１・２)、ＳＢ３(３～５)、ＳＤ４(６・７)、ＳＥ１(８～10)

図版14　遺物　ＳＥ１(11～14)、ＳＰ１(15)、ＳＸ１(16～29)、包含層(30・33)

図版15　遺物　包含層(31・32・35～46・48～50・52～59)

図版16　遺構　全景(西から)

尾崎遺跡(ＯＳＫ93－１)

図版17　遺構　ＳＤ３・６・７、ＳＥ２、ＳＫ７・９(東から)、ＳＥ２(南から)

図版18　遺構　ＳＤ18(東から)

遺物　ＳＤ３(60)、ＳＤ19(61)、ＳＥ２(62～67)、ＳＫ５(68・69・71・73)、包含層(74～76・79～84)

尾崎北遺跡(ＯＳＮ93－１)

図版19　遺構　全景(北から)、ＳＤ１(南から)

図版20　遺構　ＳＤ１遺物出土状況(南から)

遺物　ＳＤ１(１～９)

図版21　遺物　ＳＤ２(10・11)、ＳＫ１(12～15)、ＳＫ２(16)、ＳＫ３(17)、ＳＰ１(18～20)、ＮＲ１(21～24・26～30)、包含層(31～33)

菱子尻遺跡(ＨＳＫ90－２)

図版22　遺構　全景(北から)、全景(南から)

図版23　遺構　全景(西から)、ＳＤ２(南西から)

図版24　遺物　ＳＫ１(５)、ＳＫ２(６)、ＳＫ３(７)、ＳＫ４(１～４)、ＳＸ１(17)、ＳＸ２(14～16)、ＳＸ３(11～13)、ＳＸ４(８～10)、包含層(18)

市町東遺跡(ＩＣＨ90－１)

図版25　遺構　全景(北から)、ＳＫ１(北から)
図版26　遺構　ＳＵ１(北から)
　　遺物　ＳＫ１(１～３)、包含層(４～６)

付　図　目　次

付図１　ジョウノマエ遺跡遺構全体図(1/100)
付図２　尾崎遺跡遺構全体図(1/100)

第1章　はじめに

第1節　調査に至る経過

河内長野市は近年の著しい人口増加も一段落し、成熟した住宅都市としての様相を呈してきた。しかし、まだまだそれにともなう都市の基盤整備を進めなければならない。このような状況の中で、市は公共上下水道、アクセス道路、公園等の都市機能の整備、文化会館などの文化施設の充実に努めている。

しかし、このような公共関係の整備も一般の開発と同じように埋蔵文化財を避けて通ることはできないものである。教育委員会と都市整備部局は、公共事業に関連する埋蔵文化財の取り扱いについては計画段階からの保存協議を進め、文化財保護と開発の調整に力を注いでいる。

第2節　歴史的環境

和泉山脈、金剛山地に源を発する石川の各支流や西除川は狭小な河谷を形成しながら北流する。河内長野市はこれら河川によって作られた谷や河岸段丘上に集落が発達している。特に中心となる長野や三日市は谷口の集落として、また、各谷筋を通る街道の要衝として発達してきたものである。

遺跡もまた、谷筋ごとに分布している。縄文時代の遺跡は最近増加しているが、石川本流から天見川沿いに北から向野遺跡、喜多町遺跡、三日市遺跡、小塩遺跡の4遺跡があり、後期を中心とする土器が出土している。また、石川本流には高向遺跡や宮山遺跡があり、宮山遺跡からは中期後半の土器と共に竪穴住居も確認されている。さらに、三日市遺跡や小塩遺跡からは早期の押型文土器が出土している。これらの遺跡以外に高木遺跡、寺ヶ池遺跡、菱子尻遺跡からはサヌカイト片や石器が出土している。

弥生時代は石川左岸の塩谷遺跡や天見川右岸の三日市遺跡から中期の遺物が、大師山遺跡からは後期の遺物が出土している。

古墳時代は天見川を見下ろす位置に前期の前方後円墳の大師山古墳、中期の三日市遺跡の古墳群、後期の烏帽子形古墳が分布している。石川本流の向野町から寿町にかけては五ノ木古墳、法師塚古墳、双子塚古墳などの古墳が分布していた。また、石川の左岸の上原町には塚穴古墳が現存している。集落遺跡では前期から中期にかけては天見川沿いに三日市遺跡があり、後期前半では同じく天見川沿いに喜多町遺跡、そして左岸の段丘上に近接

第１図　河内長野市遺跡分布図(1/40000)

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町
2	河合寺	社寺	
3	観心寺	社寺	平安～
4	大師山古墳	古墳	古墳（前期）
5	大師山南古墳	古墳？	古墳（後期）
6	大師山遺跡	集落	弥生（後期）
7	興禅寺	社寺	
8	烏帽子形八幡神社	社寺	室町
9	塚穴古墳	古墳	古墳（後期）
10	長池窯跡群	生産	平安～近世
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良
13	延命寺	社寺	
14	金剛寺	社寺	平安～
15	日野観音寺遺跡	社寺	中世
16	地蔵寺	社寺	
(17)	岩湧寺	社寺	平安～
18	五ノ木古墳	古墳	古墳（後期）
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世
20	烏帽子形城跡	城館	中世～近世
21	喜多町遺跡	集落	縄文～中世
22	烏帽子形古墳	古墳	古墳（後期）
23	末広窯跡	生産	
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～中世
25	流谷八幡神社	社寺	
26	蟹井淵南遺跡	散布地	中世
27	蟹井淵北遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世
29	千早口駅南遺跡	散布地	中世
30	岩瀬薬師寺	墳墓	近世
31	清水遺跡	散布地	中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳？	
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世
34	滝畑埋墓	墳墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	滝尻弥勒堂跡	社寺	近世
(40)	宮ノ下内墓	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳？	古墳
42	宮山遺跡	散布地	縄文～中世
43	西代藩陣屋跡	城館	江戸
		散布地	飛鳥～奈良
44	上原町墓地	墳墓	
45	惣持寺跡	社寺	鎌倉
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世
47	寺ケ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	中世
49	住吉神社遺跡	社寺	
50	高向神社遺跡	社寺	中世
51	青が原神社遺跡	社寺	
52	膳所藩河州出張所跡	城館	江戸
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳
54	菱子尻遺跡	散布地	縄文～中世
55	河合寺城跡	城館	
56	三日市遺跡	集落	旧石器～近世
57	日の谷城跡	城館	室町
58	高木遺跡	散布地	縄文
59	汐の山城跡	城館	中世
60	峰山城跡	城館	中世
61	稲荷山城跡	城館	中世
62	国見城跡	城館	中世
63	旗蔵城跡	城館	中世

番号	文化財名称	種類	時代
64	権現城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	
(66)	葛城第15経塚	経塚	
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
68	庚申堂	社寺	
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16経塚	経塚	
(73)	葛城第18経塚	経塚	
(74)	葛城第19経塚	経塚	
(75)	笹尾塞	城館	中世
(76)	大沢塞	城館	中世
(77)	三国山経塚	経塚	
(78)	光滝寺	社寺	
(79)	猿子城跡	城館	中世
80	蟹井淵神社遺跡	社寺	
(81)	川上神社遺跡	社寺	
82	千代田神社遺跡	社寺	
83	向野遺跡	集落・生産	縄文～室町
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	散布地	
86	大日寺遺跡	社寺	弥生・中世
87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
88	小塩遺跡	集落	縄文～奈良
89	加塩遺跡	集落	古墳（後期）
90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウノマエ遺跡	城館？	中世
92	仁王山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	生産	近世
96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
97	上田町窯跡	生産	近世
98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
99	西之山町遺跡	集落	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野塚	墳墓	
(105)	葛城第17経塚	経塚	
106	薬師堂跡	社寺	中世～
107	野作遺跡	集落	中世
108	寺元遺跡	集落	奈良・中世
(109)	鳩原遺跡	散布地	中世
110	法師塚古墳跡	古墳	
111	山上講山古墳跡	古墳	
112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
113	地福寺跡	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
115	栄町遺跡	散布地	弥生・古墳
116	錦町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	中世
118	錦町北遺跡	社寺	弥生・中世
119	市町西遺跡	散布地	縄文・中世
120	栄町南遺跡	散布地	中世
121	栄町東遺跡	散布地	
122	楠町東遺跡	散布地	
123	汐の宮町南遺跡	散布地	奈良
124	汐の宮町遺跡	散布地	中世
125	神ヶ丘近世墓	墳墓	近世
126	増福寺	社寺	中世
127	三昧城遺跡	墳墓・城館	中世・近世

（　）は地図範囲外

第1表　河内長野市遺跡地名表

して小塩遺跡、加塩遺跡がある。

奈良時代になると、高向遺跡や喜多町遺跡、小塩遺跡から掘立柱建物や土坑が検出されている。また、本市と大阪狭山市との市境の小山田町からは2基の火葬墓が発見されている。

平安時代の遺跡は向野遺跡や天見川沿いの尾崎遺跡の10世紀の掘立柱建物や三日市遺跡の11～12世紀の掘立柱建物、そして石川本流の野間里遺跡が確認されている。また市内にある観心寺や金剛寺などの寺院は平安時代末頃から伽藍が整い、多くの荘園を有していた。

中世になると交通路が整備され、各谷筋を通る高野街道や天野街道沿いに集落が分布している。特に、西高野街道では北から菱子尻遺跡や古野町遺跡があり、東高野街道では向野遺跡がある。西、東が一つとなって天見川沿いを南に伸びる高野街道では、合流付近の長野神社遺跡や喜多町遺跡、更に南に三日市遺跡、尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡、清水遺跡、千早口駅南遺跡(寺院跡も含む)、天見駅北方遺跡、蟹井淵北遺跡、蟹井淵南遺跡と続く。これらは明らかに街道と共に発達した遺跡である。集落跡以外では、同じように街道を見下ろす尾根上には南北朝から戦国時代にかけての城塞が20数ヵ所分布している。生産遺跡としては、平安時代から中世にかけての炭焼窯と思われる窯跡が市内の山間部に分布している。

近世になると近江膳所藩や河内西代藩の陣屋跡があり、さらに、確認数は少ないが在郷瓦師の瓦窯跡も、地元の伝承通り確認されている。

第2章　調査の結果

第1節　ジョウノマエ遺跡（ＪＮM88）

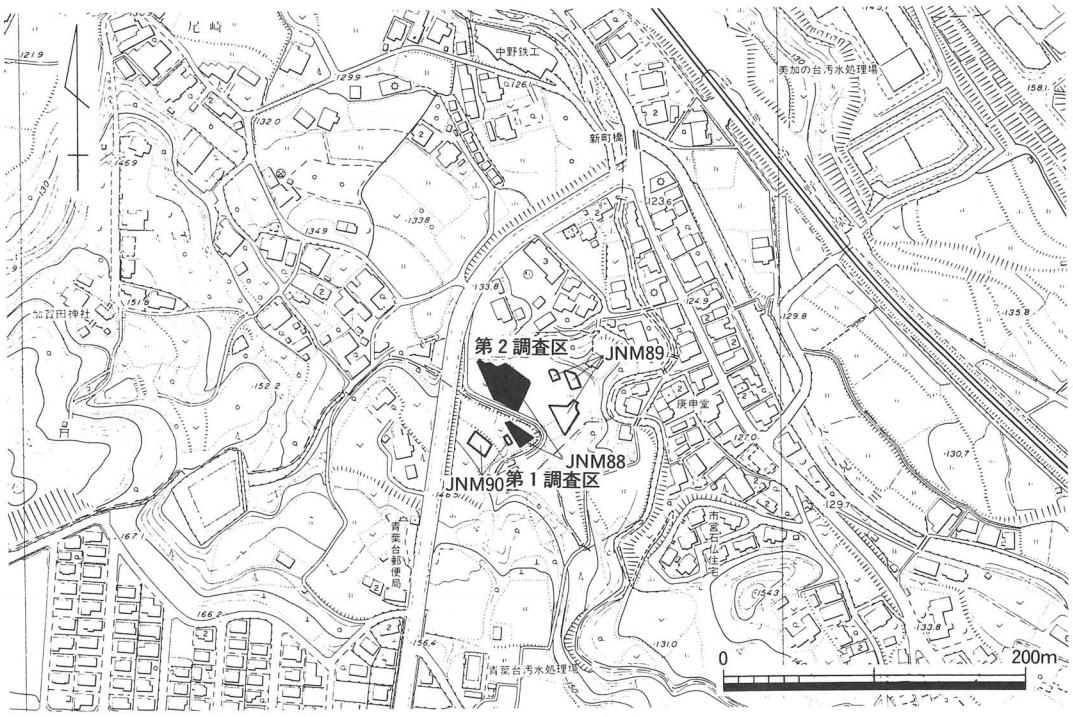
1　概略（第２・５図）

当調査地は大阪府河内長野市加賀田地内、天見川による狭小な谷の出口、川の左岸の河岸段丘上、標高140m付近に位置する。

昭和62年の３月に国道371号線バイパス工事によって、古墳時代後期の土師器、須恵器が若干出土し、尾崎北遺跡の存在が確認された。そして昭和63年に遺物確認地点より南側の国道371号線のバイパス工事延進に先立ち試掘調査を実施した。その結果、遺物出土地点から南100mに位置する尾崎地区と、更に南側のジョウノマエ地区から遺物及び遺構が確認され尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡とそれぞれ命名された。

この発見により工事着手前に本調査を実施した。調査面積約950m²、実施期間昭和63年４月26日～５月24日である。

当調査地区は第１調査区と第２調査区の２つの小調査区に区割りした。第１調査区からは建物１棟、遺物を伴うピット３ヵ所、第２調査区からは建物１棟、建物に付随すると思われる溝１条、その他の溝９条、井戸２ヵ所、遺物を伴う土坑３ヵ所、遺物を伴うピット２ヵ所が検出された。

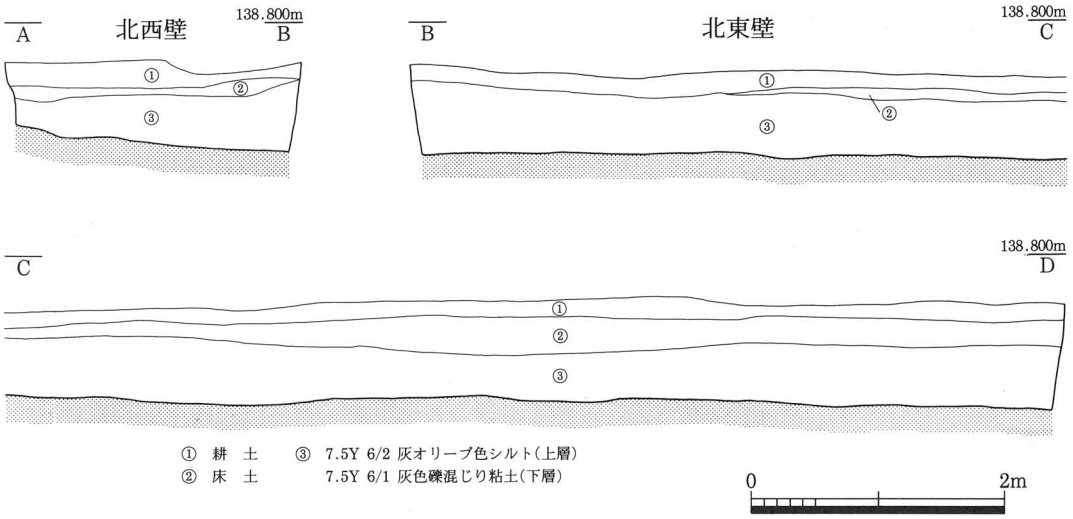


第２図　ＪＮＭ　調査区位置図（1/5000）

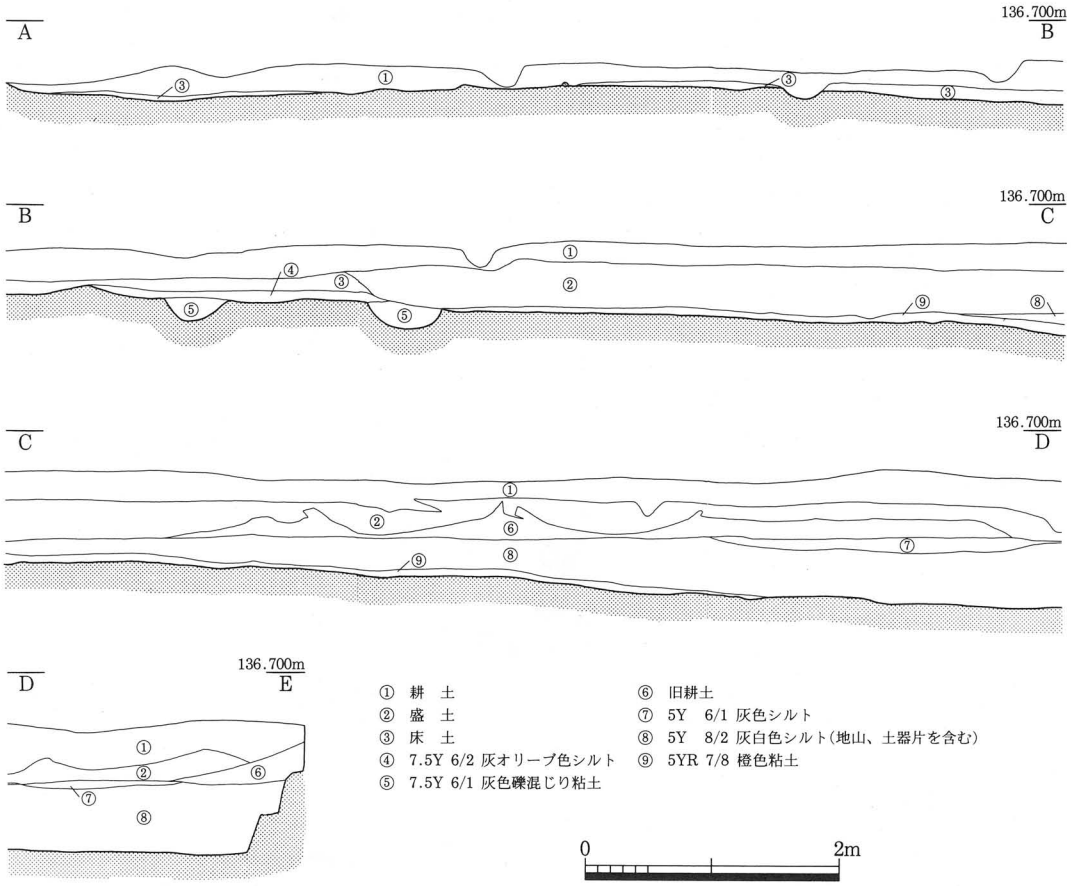
2　層序(第３・４図)

調査地の北側及び北東側がすぐに段丘崖になるため、第１調査区から第２調査区の北端に向かって標高を下げている。この為、層序は両調査区とも北側、北東側の層厚が厚い。

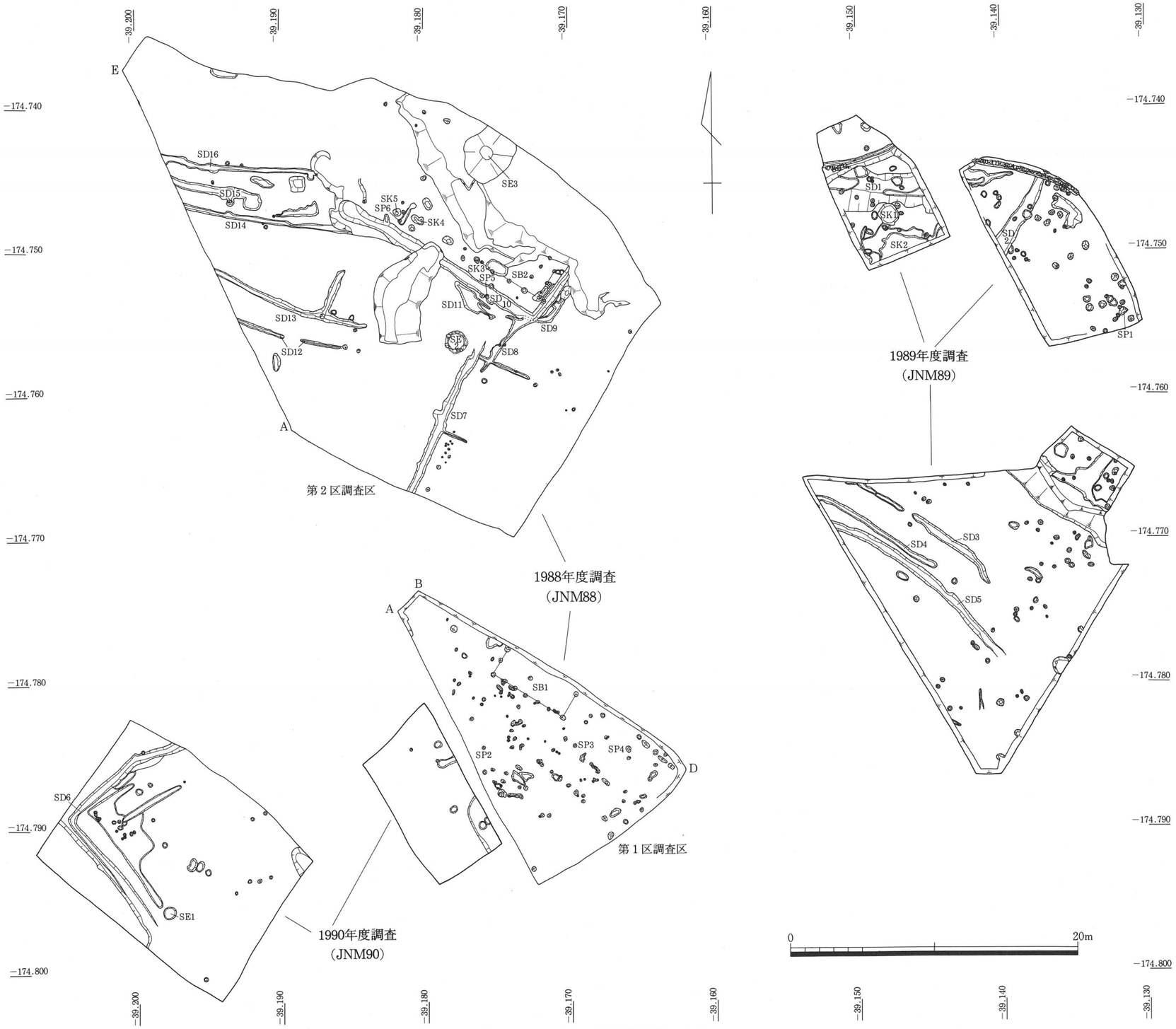
層順は基本的に耕土、床土、包含層となる灰オリーブ色シルトと灰色礫混じり粘土となる。第２調査区では最近、盛土して耕土を再度置き、畑にしている。また、北側は谷状の地形となるため、灰色シルト及び橙色粘土が層厚を厚くしながら堆積している。



第３図　ＪＮＭ　第１調査区北西壁・北東壁土層断面実測図(1/60)



第４図　ＪＮＭ　第２調査区西壁土層断面実測図(1/60)



第５図　ＪＮＭ　遺構配置図(1/300)

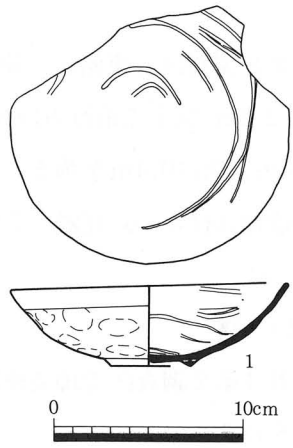
3　遺構と遺物

（1）　掘立柱建物

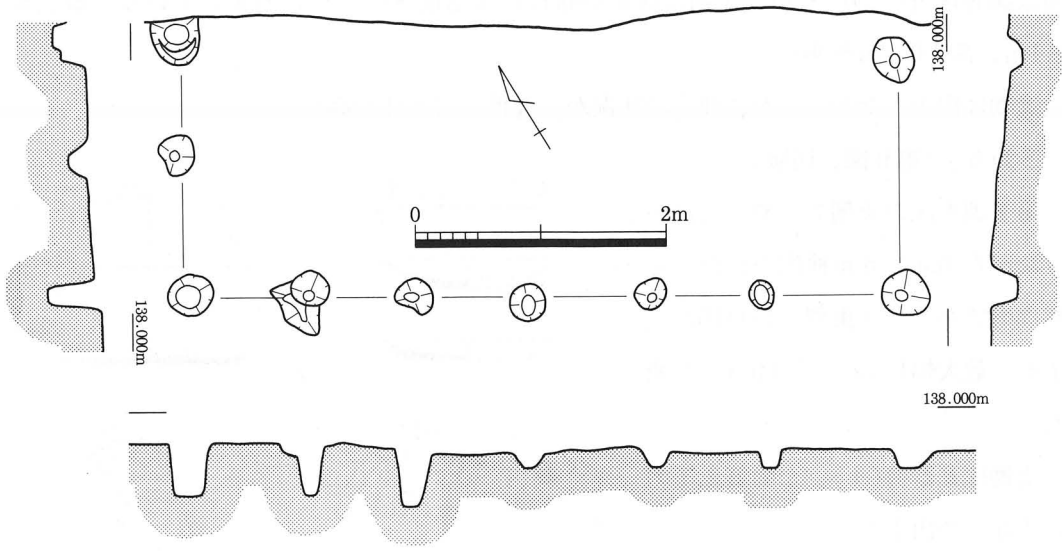
［ＳＢ１］（第６・７図、図版２・６）

第１調査区の北東側から検出され、北東側は調査区外にのびる。桁行６間(5.8m)×梁行２間(２m)以上で桁行方向N－59°－Wの建物である。柱間は桁行0.9m、梁行１m。柱穴の径0.3m、深さ0.2mを測る。第１調査区の柱穴は多数検出されたが確実に復元できたのはこの１棟だけである。

遺物は柱穴から、瓦器椀(１)などが出土した。

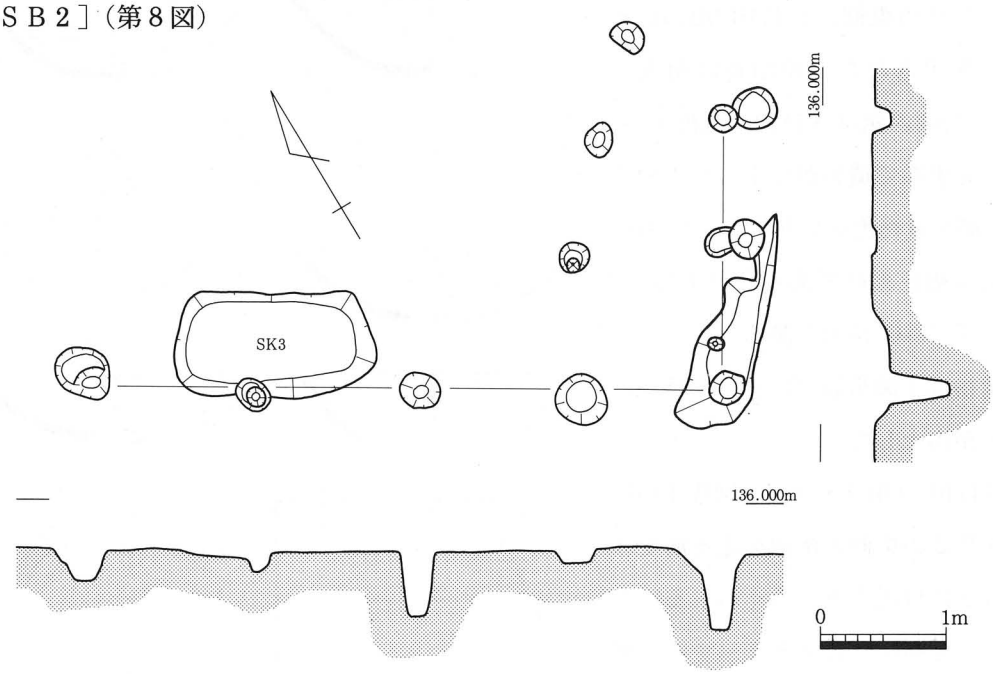


第6図　ＪＮＭ　ＳＢ１出土遺物実測図



第７図　ＪＮＭ　ＳＢ１遺構実測図(1/60)

［ＳＢ２］（第８図）



第８図　ＪＮＭ　ＳＢ２遺構実測図(1/60)

第２調査区の東側から検出され、北西側は削平されている。桁行４間(5.3m)×梁行２間(2.2m)以上で桁行方向N－59°－Wの建物である。柱間は桁行1.2m、梁行1.1m。柱径0.4m、深さ0.4mを測る。

遺物は柱穴から瓦器、須恵質土器の細片などが出土した。

（２） 溝

溝は第２調査区で10条検出された。内４条から遺物が出土した。

［ＳＤ７］

第２調査区の南側で、やや東に振りながら南北に12m検出された直行する溝である。南側は調査区外にのびるが、北側は後世の耕作による削平のために消失している。最大幅1.1m、深さ0.2mを測る。

遺物は出土しなかったが、埋土の状況から近世の可能性が高い。

［ＳＤ８］（第９図、図版６）

第２調査区の東側で、やや東に振りながら南北に５m検出された不定形な溝である。北東側はＳＤ10と接する。最大幅1.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器皿（４）、土師質土釜の細片などが出土した。

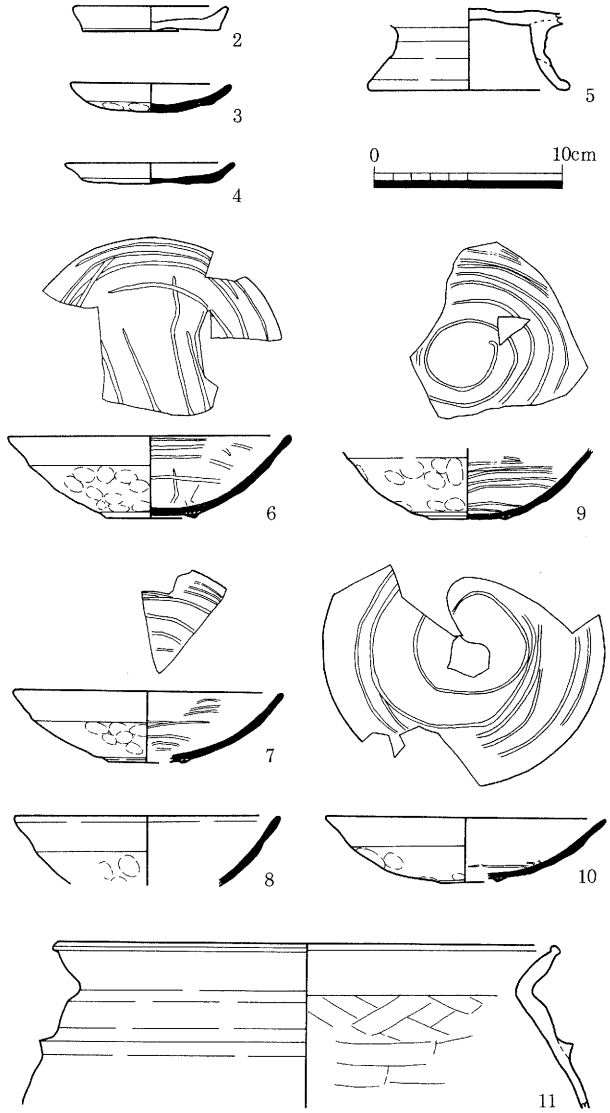
［ＳＤ９］（第９・10図、図版６）

ＳＢ２の東側、ＳＤ10の0.5m東側で検出された。検出長は南北に3.1mで南西側はＳＤ10と重複する。溝の北東端で遺物が出土した。埋土は上層が黄褐色シルト混じりの中砂、下層は褐色細砂である。最大幅0.7m、深さは0.15mを測る。

遺物は土師質皿（２）、瓦器椀（６）などが出土した。

［ＳＤ10］（第９・10図、図版４・６）

ＳＢ２の東側と南側を走る溝で、ＳＢ２に付属すると考えられる。この為、平面形はＬ字形を呈する。検出長は南北に４m、東西に15mを測



第９図　ＪＮＭ　ＳＤ８～10出土遺物実測図

る。西端の延長は確認されなかった。埋土は黄褐色系のシルト混じり中砂～粗砂が主体である。最大幅1.0m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質台付坏(５)、紀州系の土師質土釜(11)、瓦器皿(３)、瓦器椀(７～10)などが出土した。

［ＳＤ11］(第10図)

第２調査区の東側で、ＳＤ10の南側に位置する検出長４ｍの不定形な溝である。埋土は上層が灰黄褐色シルト、下層はにぶい黄褐色中砂～粗砂である。最大幅1.2m、深さ0.08ｍを測る。

遺物は瓦器、土師質土器の細片などが出土した。

［ＳＤ12］

第２調査区の西側で、ＳＤ11の西側９ｍに位置する。ＳＤ13と平行して北に振りながら東西に7.5m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＤ13］(第10図)

第２調査区の西側で、ＳＤ12の北側２ｍに位置する。ＳＤ12と平行して北に振りながら東西に11m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。埋土は上層がにぶい黄橙色礫混じりシルト、下層はにぶい黄橙色シルトである。最大幅0.5m、深さ0.26mを測る。

遺物は出土しなかった。

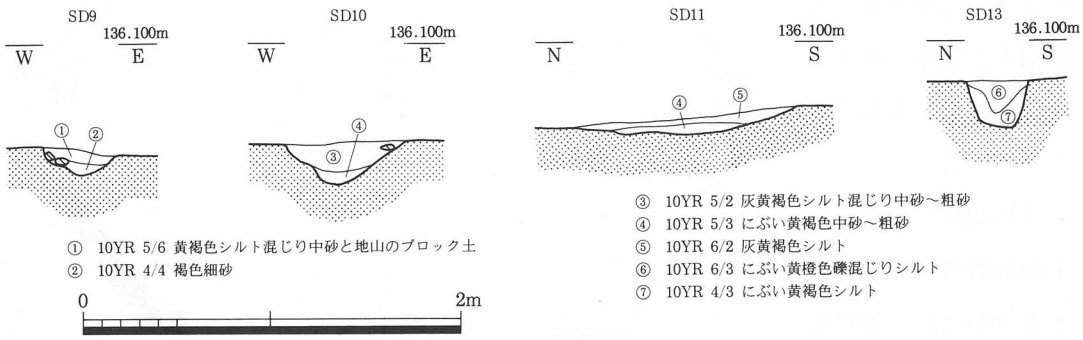
［ＳＤ14］

第２調査区の西側で、ＳＤ13の北側４ｍに位置する。ＳＤ15・16と平行して東西に12.5ｍ検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。最大幅0.5m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＤ15］

第２調査区の西側で、ＳＤ14の北側1.5mに位置する。ＳＤ14・16と平行して東西に6.5



第10図　ＪＮＭ　ＳＤ９～11・13遺構断面実測図(1/40)

m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。最大幅1.4m、深さ0.3mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＤ16］

第２調査区の西側で、ＳＤ15の北側1.5mに位置する。ＳＤ14・15と平行し東西に11m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。最大幅0.6m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

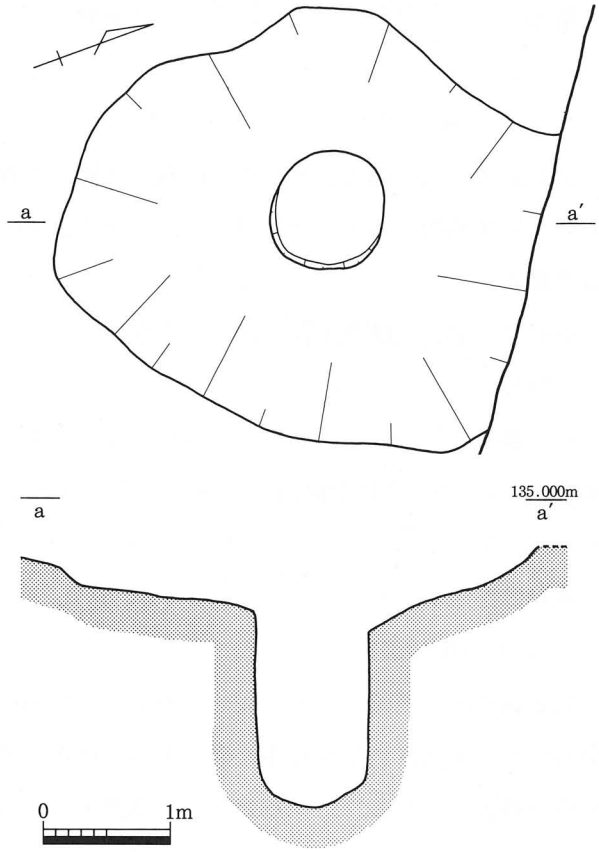
（３） 井戸

井戸は２基だけである。

［ＳＥ２］

第２調査区のＳＤ７の北西0.5mに位置する。平面形が円形を呈する、川原石を積み上げた石積井戸である。井戸の規模は内径1.0m、深さ1.0m、掘方径1.7mを測る。

遺物は出土しなかった。

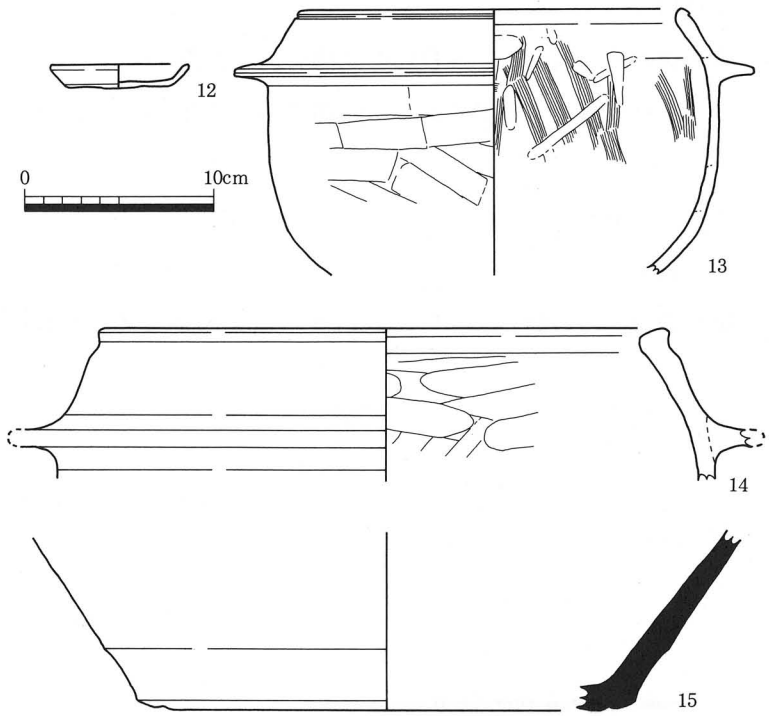


第11図　ＪＮＭ　ＳＥ３遺構実測図(1/60)

［ＳＥ３］（第11・12図、図版４・７）

第２調査区のＳＢ２の北側５mに位置する。平面形が不整円形を呈する、２段の素掘り井戸である。規模は長径3.5m、短径3.4m、深さ２mを測る。上端から１mで径0.9mの円形堀方となる。埋土は灰白色粘土と玉石が混じっている。

遺物は井戸内部から土師質皿(12)、土師質土釜(13・14)、須恵質甕底部(15)などが出土した。



第12図　ＪＮＭ　ＳＥ３出土遺物実測図

（４） 土坑

［ＳＫ３］（第14図、図版５）

第２調査区のＳＢ２の桁行中央に位置し、ＳＢ２の柱穴に切られている。平面形は隅丸方形を呈する。埋土には炭化物が挟在し、一部焼土も混じっている。主軸方向はＮ－73°－Ｗを示す。規模は長軸1.6m、短軸0.9m、深さ0.3mを測る。

遺物は須恵質土器の細片などが出土した。

［ＳＫ４］（第13図、図版５・７）

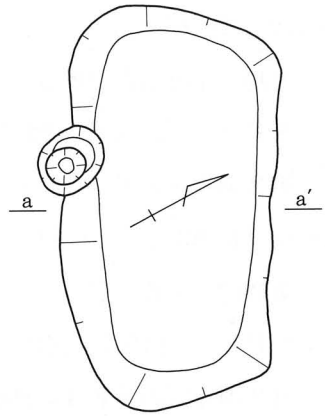
第２調査区のＳＢ２の西北側約５ｍに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。主軸方向はＮ－58°－Ｗを示す。規模は長径１ｍ、短径0.6m、深さ0.4mを測る。

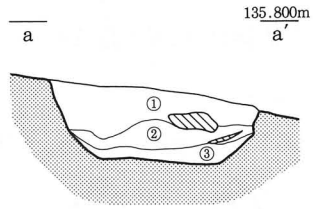
遺物は瓦器皿(16)が出土した。

［ＳＫ５］（第13図、図版７）

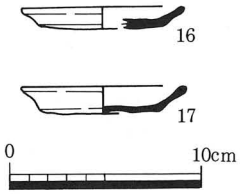
第２調査区のＳＫ４の西側約１ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。主軸方向はＮ－24°－Ｗを示す。規模は長径0.6m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器皿(17)が出土した。





① 10YR 6/3 にぶい黄橙色シルトと地山のブロック土（炭化物を含む）
② 10YR 4/6 褐色粘土（炭化物を含む）
③ 10YR 5/4 にぶい黄褐色粘土混じり中砂（炭化物を含む）



第13図　ＪＮＭ　ＳＫ４・５　出土遺物実測図

第14図　ＪＮＭ　ＳＫ３　遺構実測図(1/30)

（５） 遺物出土ピット

［ＳＰ２］（第15図、図版７）

第１調査区のＳＢ１の南側約５ｍに位置する。平面形は円形を呈する。規模は径0.2m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器椀(23)が出土した。

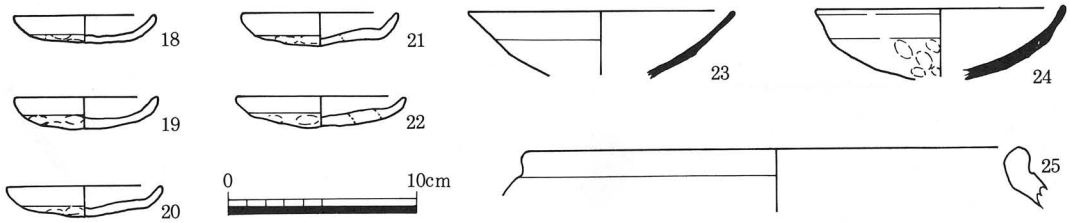
［ＳＰ３］（第15図、図版７）

第１調査区のＳＢ１の南側約２ｍに位置する。平面形は円形を呈する。規模は径0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器椀(24)が出土した。

［ＳＰ４）（第15図、図版７）

第１調査区のＳＰ３の東側約４ｍに位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径



第15図　ＪＮＭ　ＳＰ２～６出土遺物実測図

0.5m、短径0.4m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿(18)が出土した。

［ＳＰ５］(第15図、図版７)

第２調査区のＳＤ10の東西に走る溝の中央南側に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。

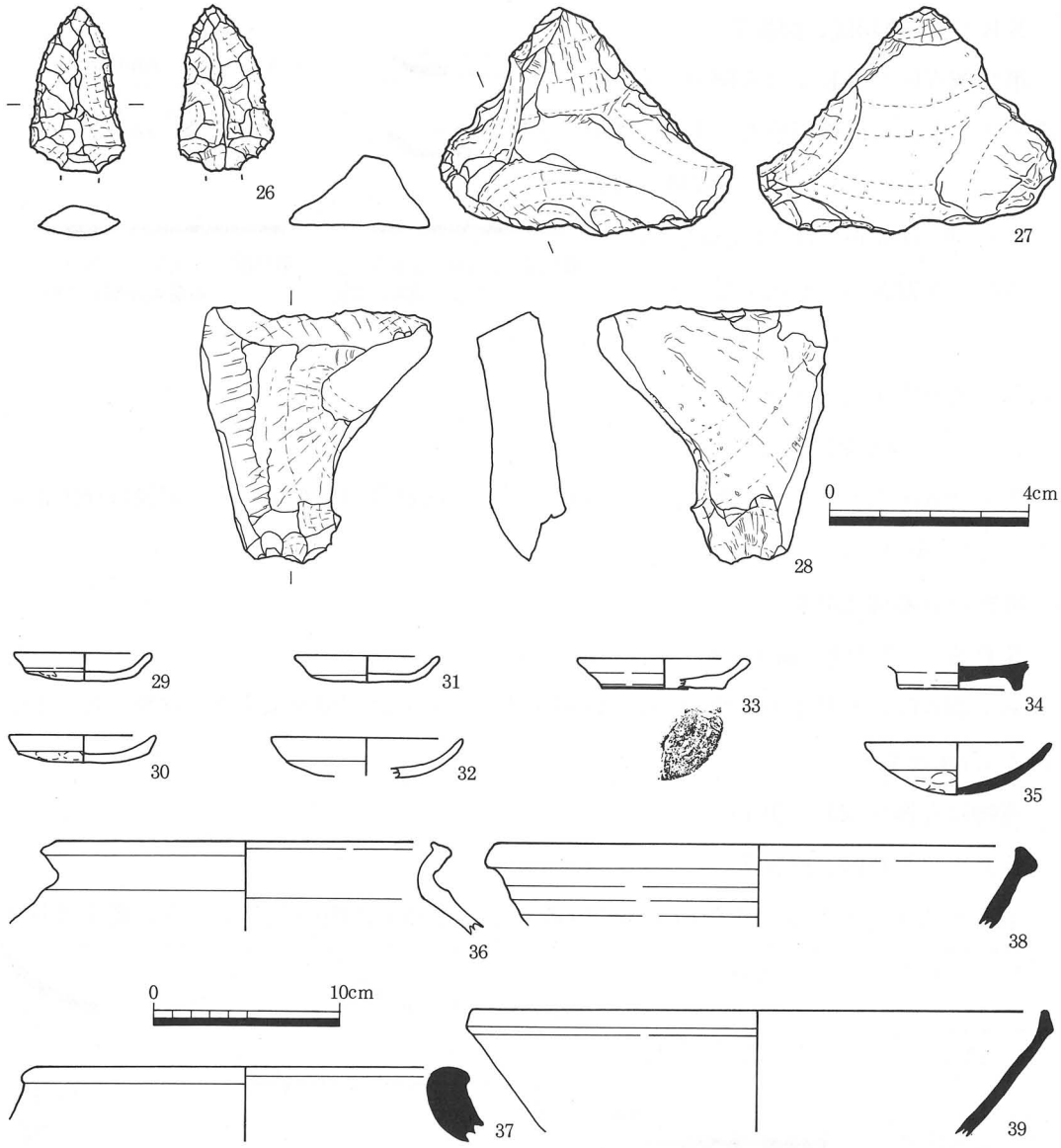
遺物は土師質土釜(25)が出土した。

［ＳＰ６］(第15図、図版７)

第２調査区のＳＫ４の西側約１mに位置する。平面形は円形を呈する。規模は径0.3m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿(19～22)が出土した。

（６） 包含層(第16図、図版８)



第16図　ＪＮＭ　包含層出土遺物実測図

包含層からは縄文時代と思われるサヌカイト製の石鏃(26)及びサヌカイトの剝片(27・28)が出土した。他に土師質土器としてⅢ(29～33)と土釜(36)がある。(33)には底部に糸切り痕が残り、(36)は紀州系である。(35)は瓦器埦、(37)は瓦質甕口縁部である。(38・39)は須恵質の練鉢で、(34)は青磁碗底部である。

4　まとめ

遺構については、出土する瓦器埦が尾上編年のⅢ－2を中心とするもので13世紀の前半を中心とする時期である。また、地理的には前面が段丘崖となるような小丘陵の突端部で限られた範囲の中に遺構が存在する。このことは一般的な居住域とは考えられず、小字名や地区の伝承から城砦と関係をもつ可能性も考えられる。

参考文献

『三日市遺跡調査報告書Ⅰ』　三日市遺跡調査会　1988年
『三日市遺跡調査報告書Ⅱ』　三日市遺跡調査会　1988年
『石仏遺跡発掘調査概要』　大阪府教育委員会　1982年

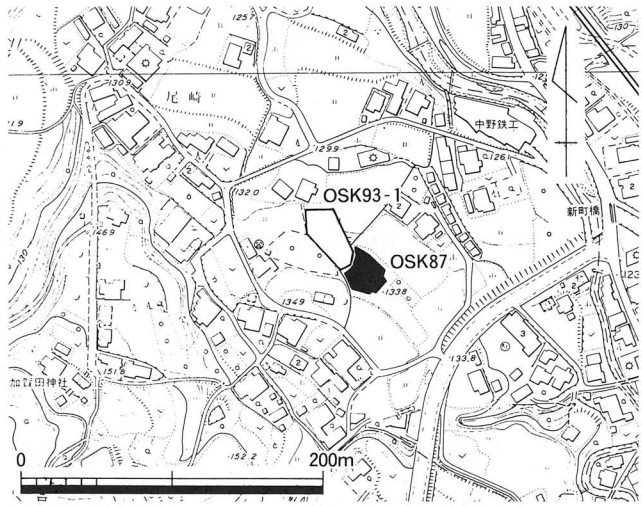
第２節　尾崎遺跡（ＯＳＫ87）

１　概略（第17・18図）

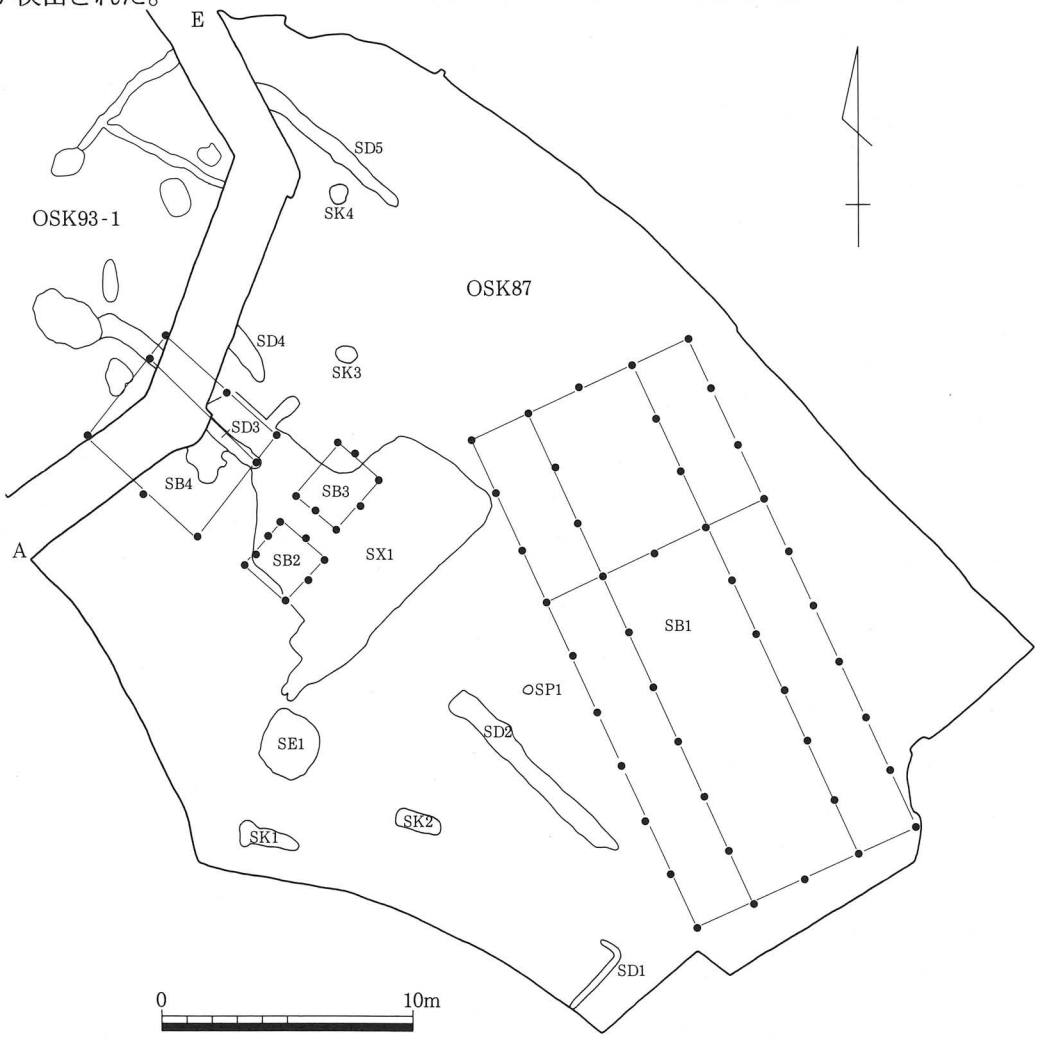
調査地は大阪府河内長野市加賀田地内、天見川左岸の河岸段丘上、標高135m付近に位置する。

調査は国道371号線バイパス工事に伴うもので調査面積約950m²、実施期間は昭和62年12月２日～12月25日である。

遺構は建物４棟、井戸１ヵ所、溝５条、炭化物や遺物を伴う土坑４ヵ所、遺物を伴うピット１ヵ所が検出された。



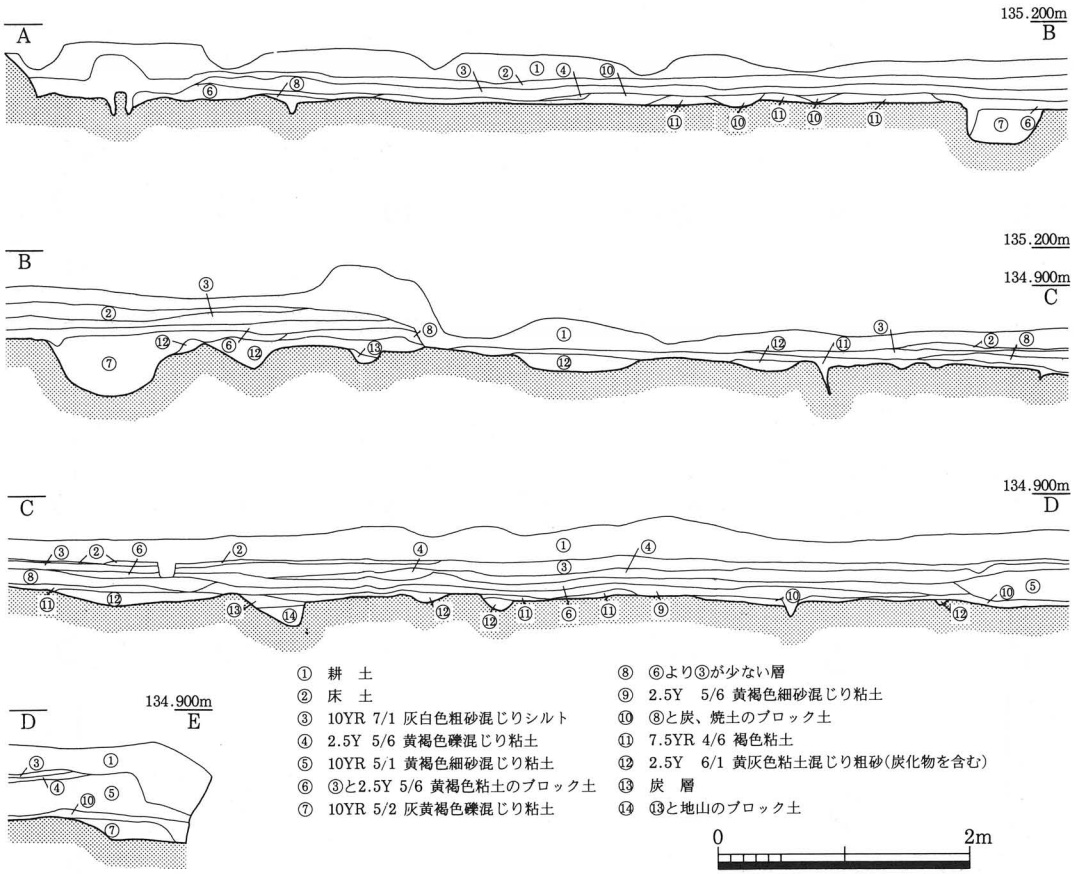
第17図　ＯＳＫ　調査区位置図（1/5000）



第18図　ＯＳＫ　遺構配置図（1/300）

2　層序(第19図)

層序は上層から耕土(約0.2m)、床土(約0.1m)、褐色系の包含層(約0.2m)、地山となっており、一部包含層が削平されている部分もあった。



第19図　ＯＳＫ　西壁土層断面実測図(1/60)

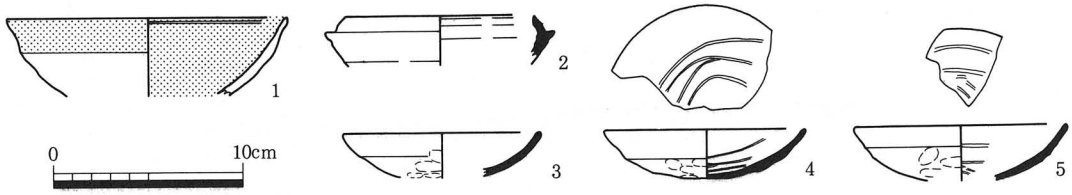
3　遺構と遺物

(1)　掘立柱建物

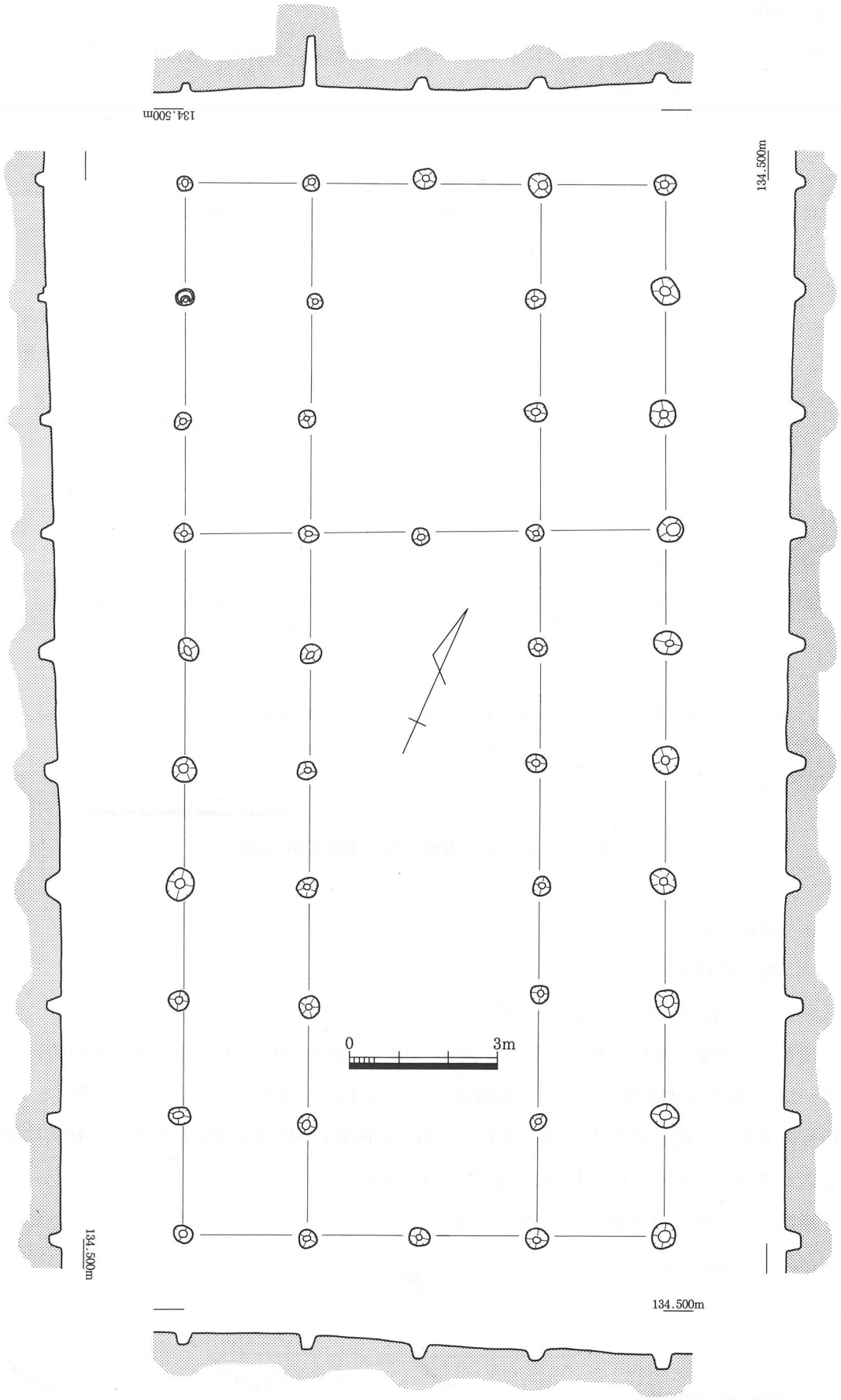
［ＳＢ１］(第20・21図、図版９・13)

調査区の南東で検出された。桁行９間(21.3m)×梁行２間(4.8m)の両庇で桁行方向はＮ－24°－Ｗを示す建物である。柱間は桁行７尺(2.1m)、梁行８尺(2.4m)に計測できる。桁行の北から３間目の中央に柱穴を有し、桁行の両側に幅2.4mの庇を有する。柱穴は確認されず掘方のみで平均径0.5m、深さ0.4mを測る。

遺物は柱穴から須恵器の坏身(２)、黒色土器Ａ類の埦(１)が出土した。



第20図　ＯＳＫ　ＳＢ１・３出土遺物実測図



第21図　ＯＳＫ　ＳＢ１遺構断面実測図(1/120)

［ＳＢ２］（第22図、図版10）

ＳＢ１の西側８ｍに位置する。桁行２間（2.2ｍ）×梁行２間（2.2ｍ）の建物である。北西側柱列には間に柱がある。桁行方向はＮ－50°－Ｗを示す。柱穴は平均径0.3ｍ、深さ0.1ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＢ３］（第20・23図、図版10・13）

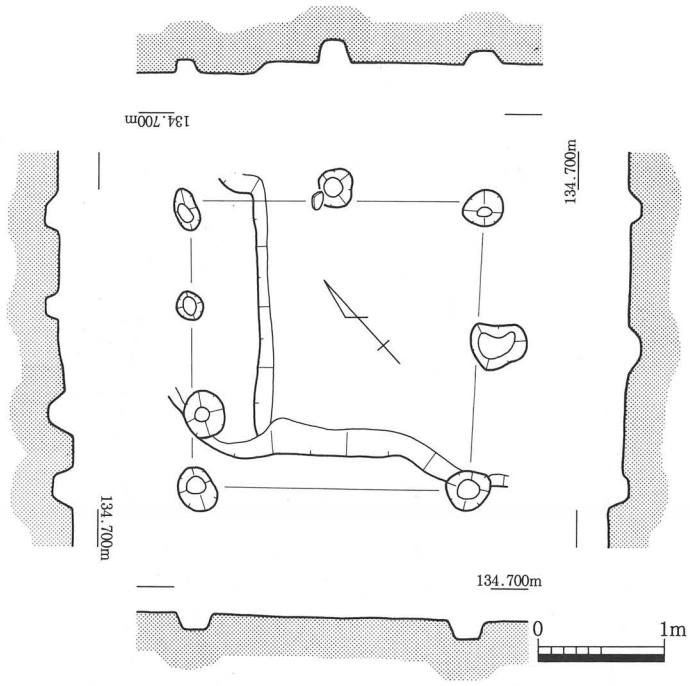
ＳＢ２の北東側に並ぶように位置する。桁行２間（2.7ｍ）×梁行２間（2.2ｍ）の建物である。柱列中央の柱穴の位置は一定していない。桁行方向はＮ－40°－Ｅを示す。柱穴は平均径0.3ｍ、深さ0.2ｍを測る。

遺物は柱穴から、瓦器椀（３～５）、土師質皿の細片が出土した。

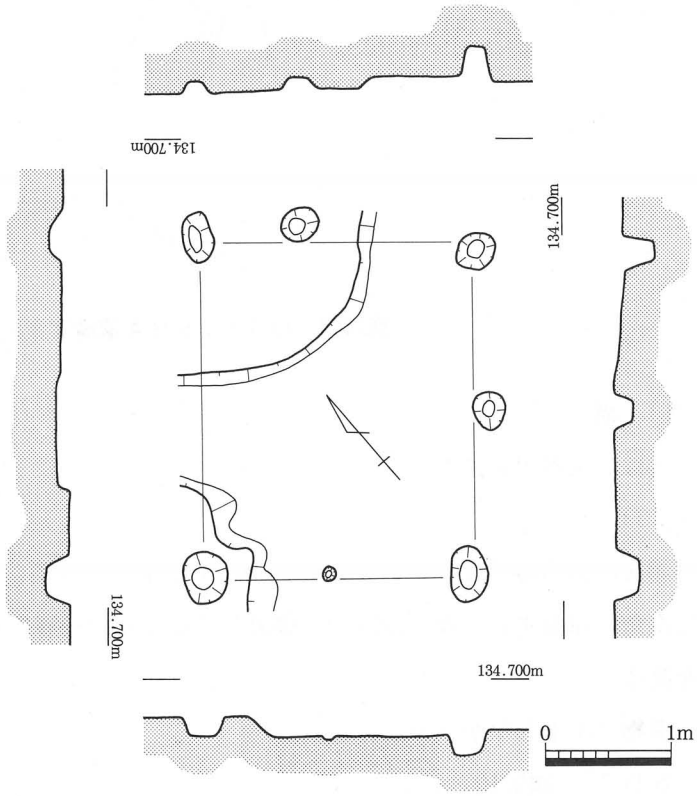
［ＳＢ４］（第24図、図版10）

ＳＢ２の北西側に並ぶように検出され、北西側の梁行はＯＳＫ９３－１に広がる。桁行２間（5.4ｍ）×梁行１間（3.8ｍ）の建物である。北東側の梁行１間は庇のようである。桁行方向はＮ－50°－Ｗを示す。柱穴は掘方だけで平均径0.4ｍ、深さ0.2ｍを測る。

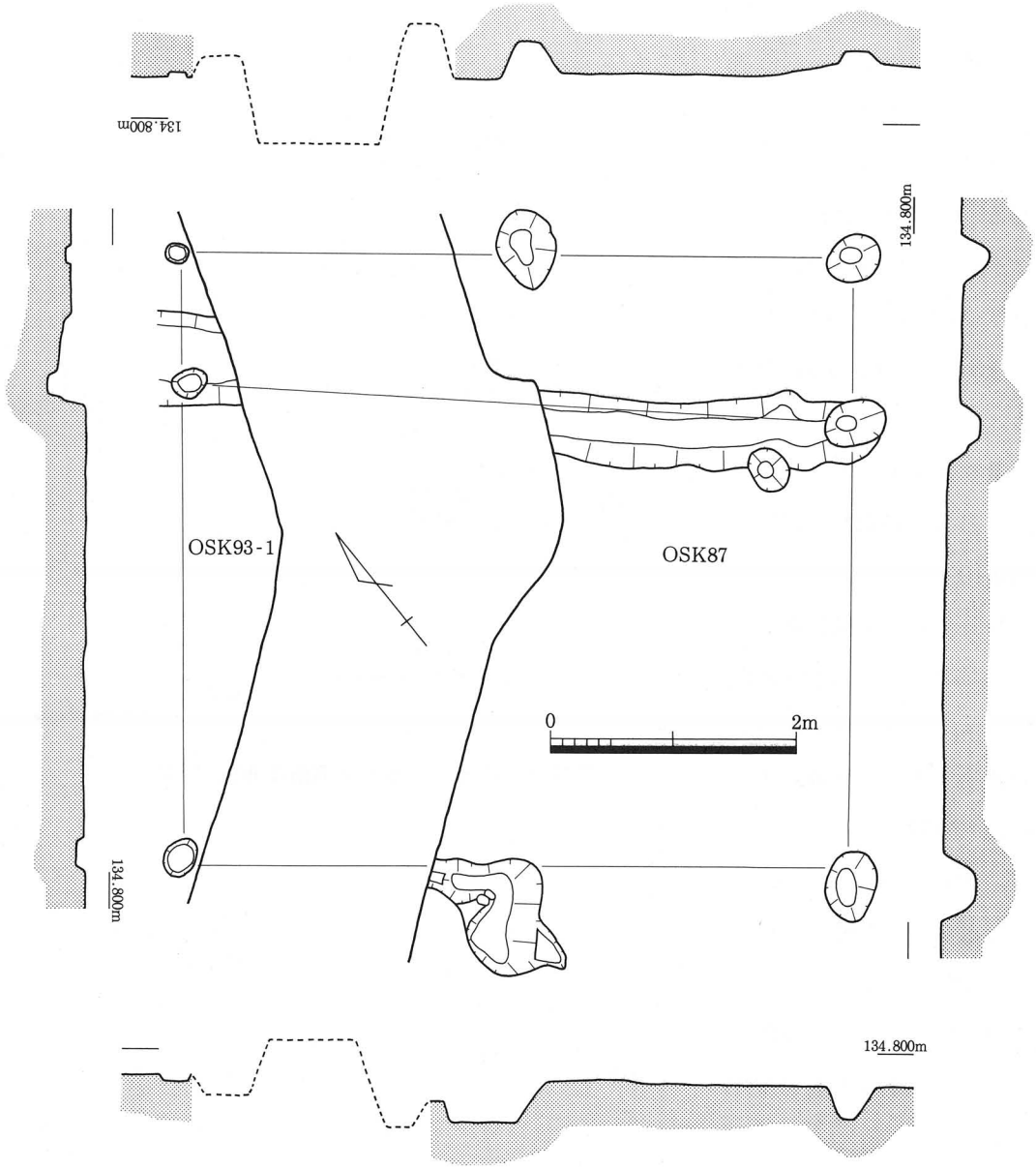
遺物は出土しなかった。



第22図　ＯＳＫ　ＳＢ２遺構実測図（1/60）



第23図　ＯＳＫ　ＳＢ３遺構実測図（1/60）



第24図　ＯＳＫ　ＳＢ４遺構実測図(1/60)

（２）　溝

溝は５条検出された。

［ＳＤ１］

調査区の南端で検出された。平面形はＬ字形を呈する。検出長3.5mで北東３ｍで北西に直角に屈曲する。埋土は灰白色礫混じりシルトの一層である。最大幅0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＤ２］(図版10)

調査区南側で検出された。溝は西に振りながら南北に走る。埋土は灰白色礫混じりシルトの一層である。検出長９ｍ、最大幅１ｍ、深さ0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＤ３］

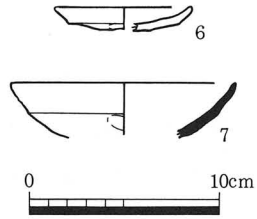
ＳＸ１の北側で重複し、ＳＢ４と同一方向に走る溝である。埋土は上層から褐色礫混じりシルト、にぶい黄橙色礫混じりシルト、にぶい黄橙色礫混じり細砂の順に堆積している。検出長2.5m、最大幅0.8m、深さ0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＤ４］（第25図、図版13）

ＳＸ１の北側１mで検出された。溝は直行しながら調査区外にのびる。埋土は灰黄色礫混じりシルトの一層である。検出長2.5m、最大幅0.9m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿（６）、瓦器椀（７）などが出土した。



第25図　ＯＳＫ　ＳＤ４
出土遺物実測図

［ＳＤ５］

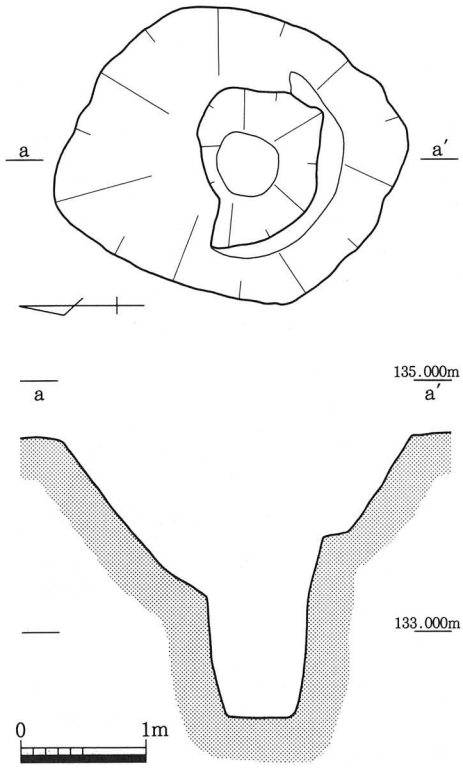
調査区北側で検出された。溝は西に振りながら直行し、調査区外にのびる。埋土は灰白色礫混じりシルトの一層である。検出長７m、最大幅0.7m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

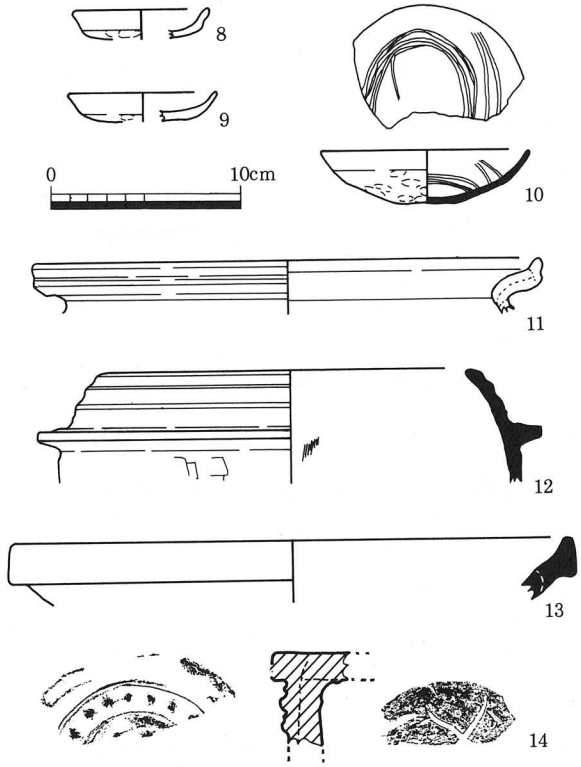
（３）　井戸

［ＳＥ１］（第26・27図、図版11・13・14）

ＳＫ１の北側２mに位置する。平面形が不整円形を呈する、２段の素掘り井戸である。



第26図　ＯＳＫ　ＳＥ１遺構実測図(1/30)



第27図　ＯＳＫ　ＳＥ１出土遺物実測図

埋土は上層が明褐色系の粘土混じりシルト、下層は褐色粘土混じり細砂層である。規模は長径2.8m、短径2.3m、深さ2.2m、中段での径0.9mを測る。

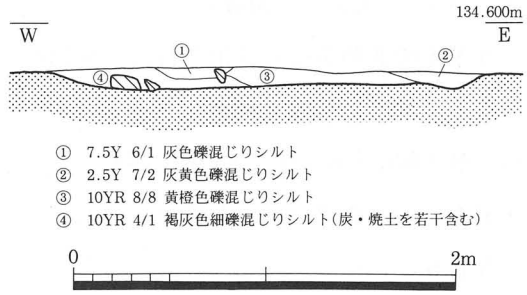
遺物は井戸内部から土師質皿(８・９)、土師質甕(11)、瓦器埦(10)、瓦質土釜(12)、須恵質練鉢(13)、軒丸瓦(14)の他に甕の体部片、自然木、漆器の漆膜が出土した。

（４） 土坑

［ＳＫ１］(第28図、図版11)

調査区の南西端、ＳＥ１の南側２mに位置する。平面形は不整形を呈する。主軸方向はＮ－75°－Ｗを示す。規模は長軸2.5m、短軸0.7m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器、土師質土器の細片が出土した。

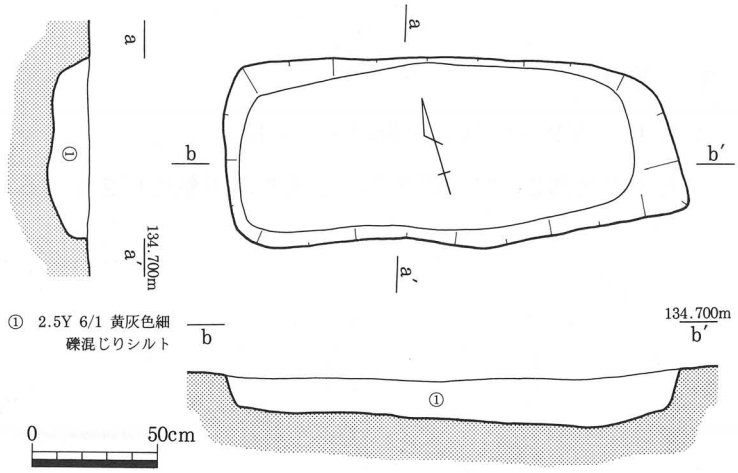


第28図　ＯＳＫ　ＳＫ１遺構断面実測図(1/40)

［ＳＫ２］(第29図、図版12)

調査区の南側、ＳＫ１の東側４mに位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。埋土は黄灰色細礫混じりシルトの一層である。主軸方向はＮ－75°－Ｗを示す。規模は長軸1.9m、短軸0.7m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器、土師質土器の細片が出土した。



第29図　ＯＳＫ　ＳＫ２遺構実測図(1/30)

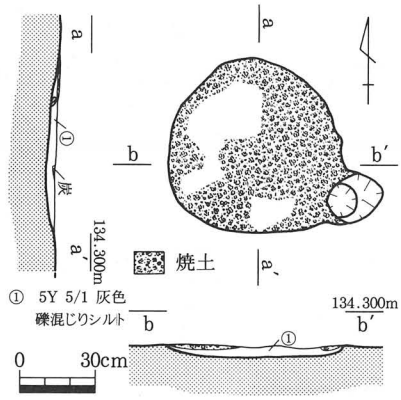
［ＳＫ３］(図版12)

ＳＢ３の北側３mで検出された。平面形は楕円形を呈する。埋土中に炭が混じり、底面は焼成を受けている。規模は長径0.9m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

［ＳＫ４］(第30図)

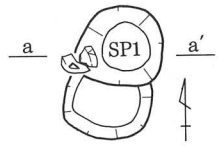
ＳＫ３の北側６mで検出された。平面形は円形を呈する。埋土は灰色礫混じりシルトの一層である。規模は径0.7m、深さ0.05mを測る。上部は削平され、底面は薄く炭が残存し、約１cmの厚さの粘土が張り付け



第30図　ＯＳＫ　ＳＫ４遺構実測図(1/30)

られ焼土となっていた。

遺物は出土しなかった。

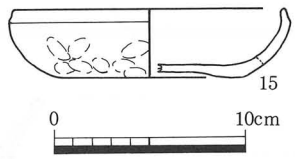


（5） 遺物出土ピット

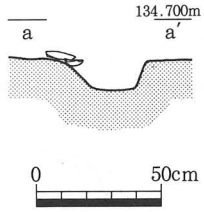
［ＳＰ１］（第31・32図、図版13・14）

ＳＢ１の西側２ｍで検出された。規模は径0.4m、深さ0.1mを測る。

遺物は埋土上層より、土師質皿(15)が出土した。



第31図 ＯＳＫ ＳＰ１ 出土遺物実測図

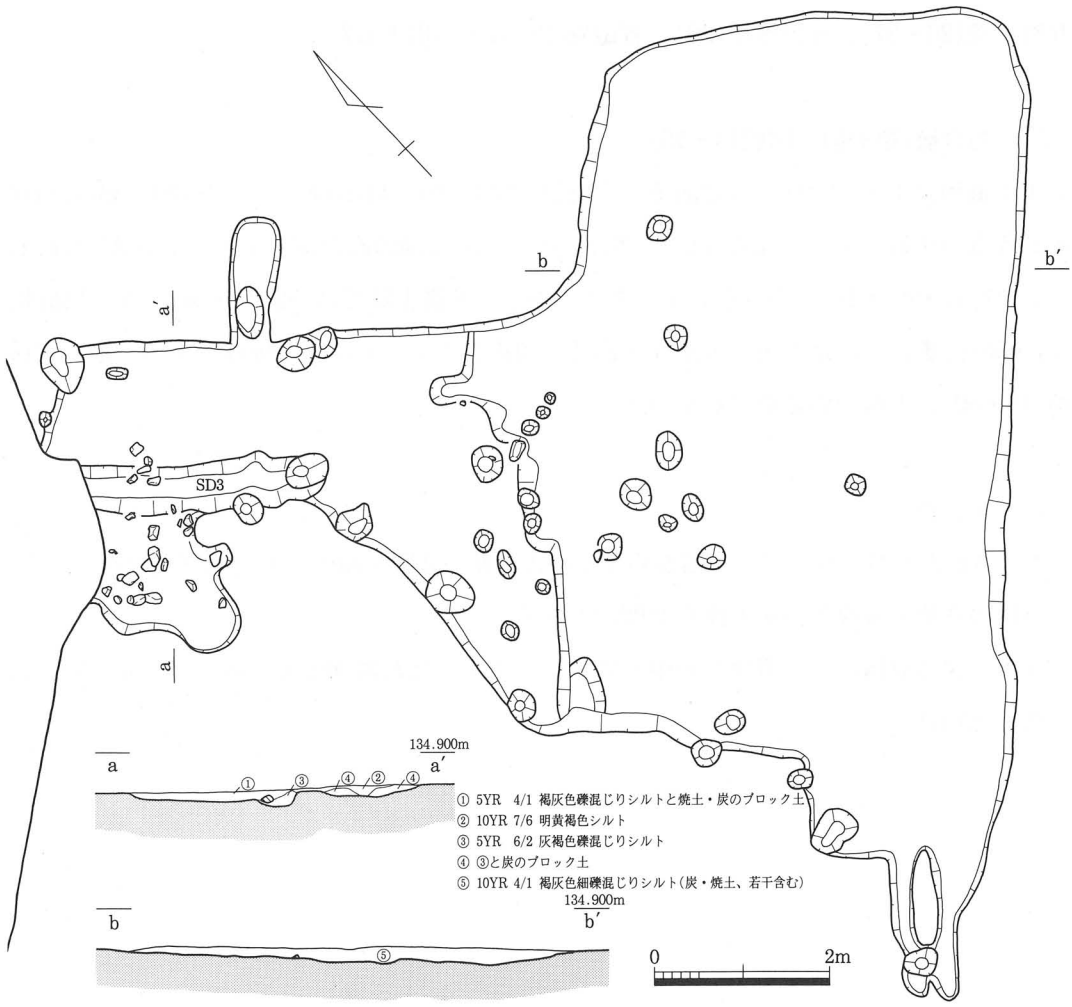


第32図 ＯＳＫ ＳＰ１ 遺構実測図(1/30)

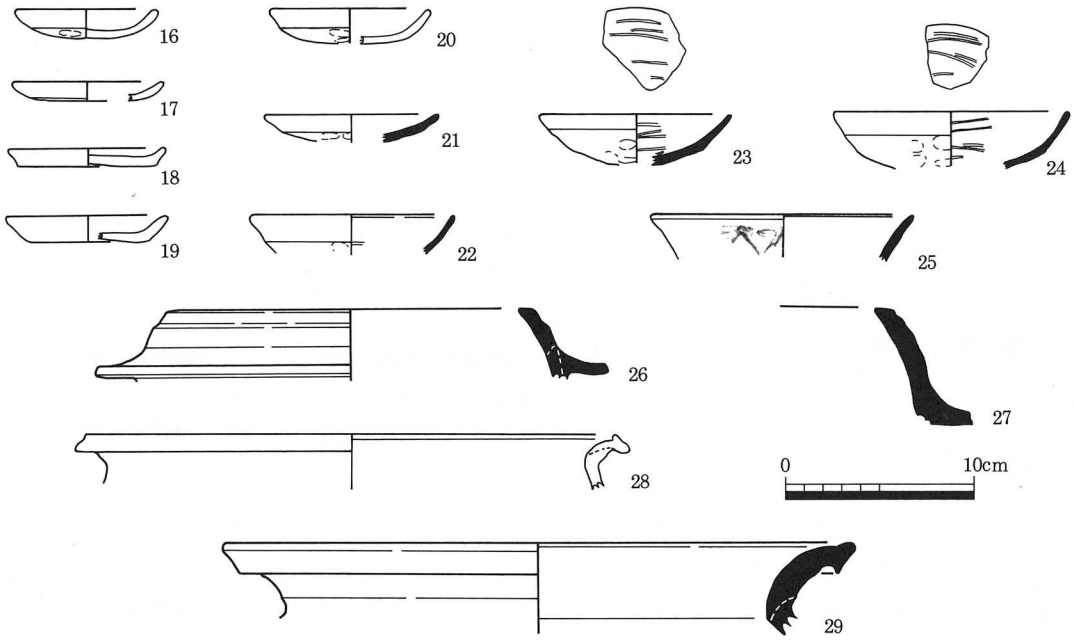
（6） その他

［ＳＸ１］（第33・34図、図版10・14）

調査区の西側で検出された。平面形はＬ字形を呈する。検出長11mで北東側最大幅5.0m、北西側最小幅2.0mで調査区外へのびる。埋土は褐灰色細礫混じりシルトで炭、焼土を含んでいる。深さは0.2mを測る。



第33図 ＯＳＫ ＳＸ１遺構実測図



第34図　ＯＳＫ　ＳＸ１出土遺物実測図

遺物は、土師質皿(16～20)、紀州系の土師質土釜(28)、瓦器皿(21)、瓦器埦(22～24)、瓦質土釜(26・27)、瓦質甕片(29)、青磁碗(25)などが出土した。

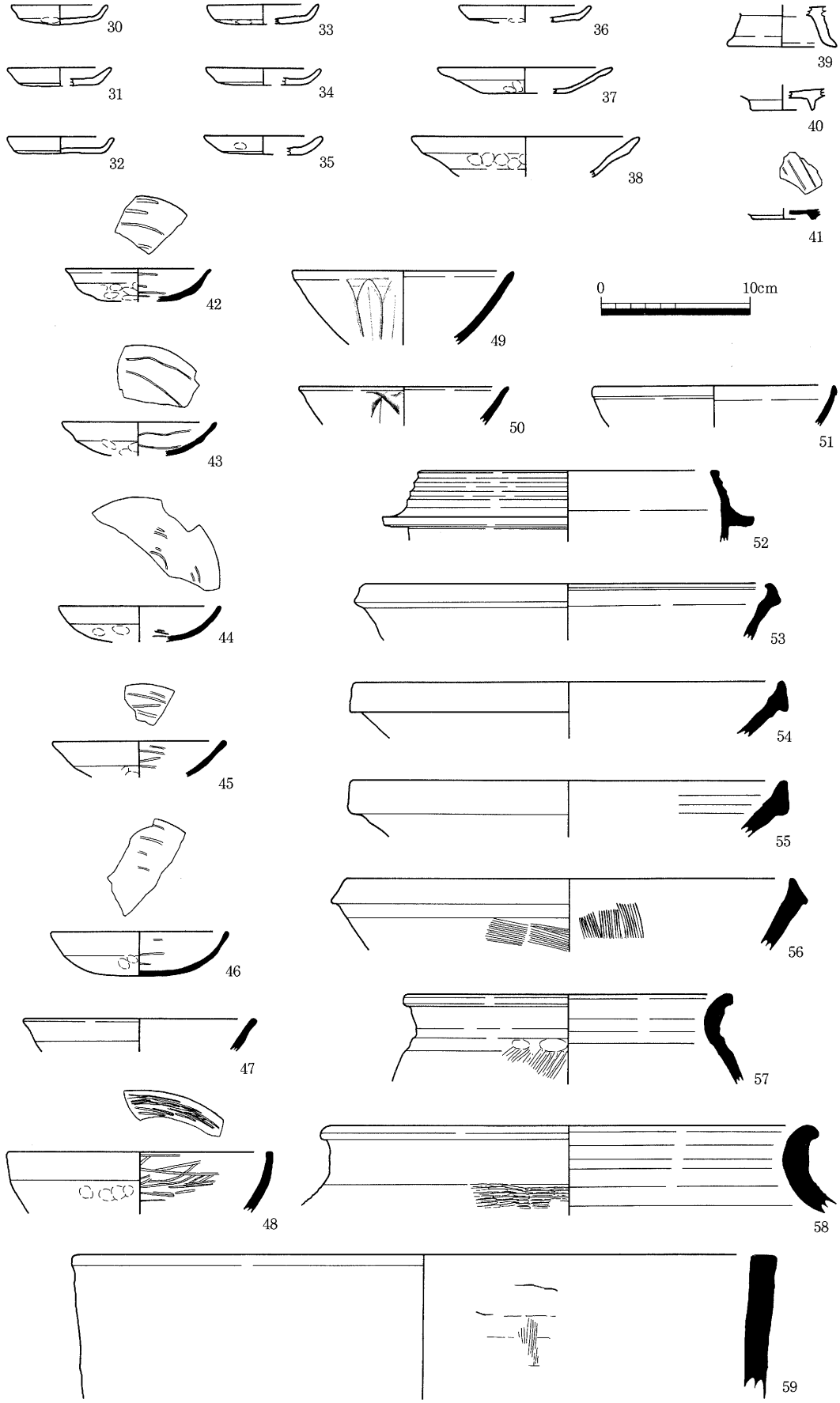
（７）　包含層(第35図、図版14・15)

出土遺物はすべて中世土器である。土師質では皿(30～38)があり、うち(30～36)は口径８㎝程度の小皿である。また(39)は高台付坏、(40)は埦の高台部分である。瓦器埦は(41～48)で(41・47・48)は高台を有するものである。瓦質土器では(52)が土釜、(56)は擂鉢、(57・58)は甕、(59)は火舎の可能性がある。須恵質では(53～55)が練鉢である。他に青磁碗(49・50)、玉縁の白磁碗(51)が出土した。

４　まとめ

検出されたＳＢ１は、出土土器から平安時代後期の９間２面の大型の掘立柱建物である。当遺跡の立地と規模からその性格が問題となる。

また、他の遺構は出土遺物から中世である。出土した瓦器埦は尾上編年Ⅳ－３で14世紀中葉と思われる。



第35図　ＯＳＫ　包含層出土遺物実測図

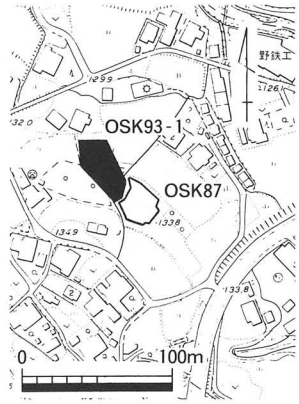
第３節　尾崎遺跡（ＯＳＫ93－１）

１　概略（第36・37図）

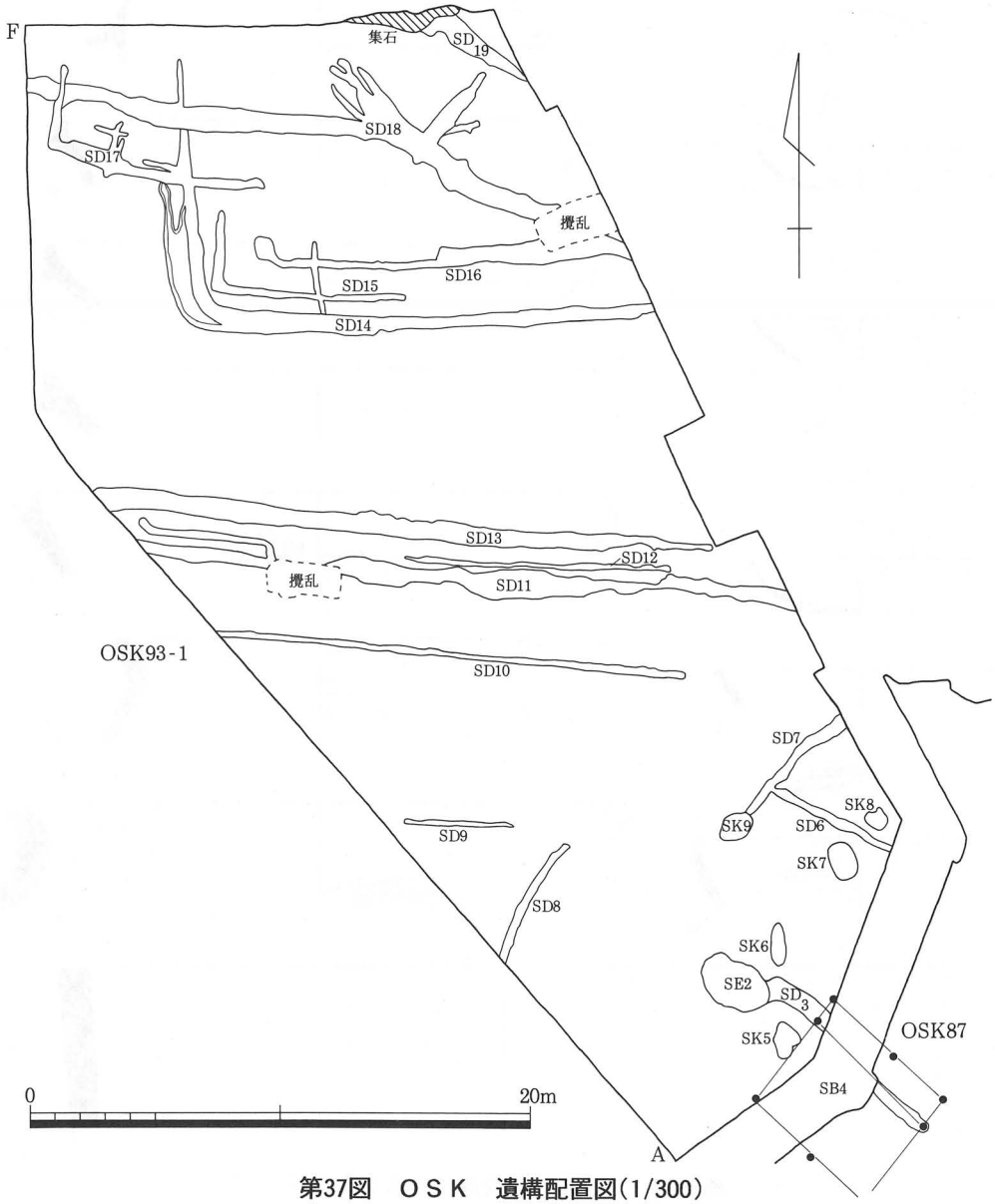
大阪府の東南端の和歌山県との境、紀見峠付近に源を発する石川の支流天見川が、狭小な河谷を刻みながら北流する。この天見川による谷の出口、川の左岸の河岸段丘上、標高135ｍ付近に位置する。

国道371号バイパスの開通により尾崎遺跡でガソリンスタンド建設が計画され、事前調査を行うことになった。調査面積は約750㎡、実施期間は平成５年４月１日～４月21日である。

当調査地区は南東側で既調査のＯＳＫ87と接しており、遺構



第36図　ＯＳＫ　調査区位置図（1/5000）

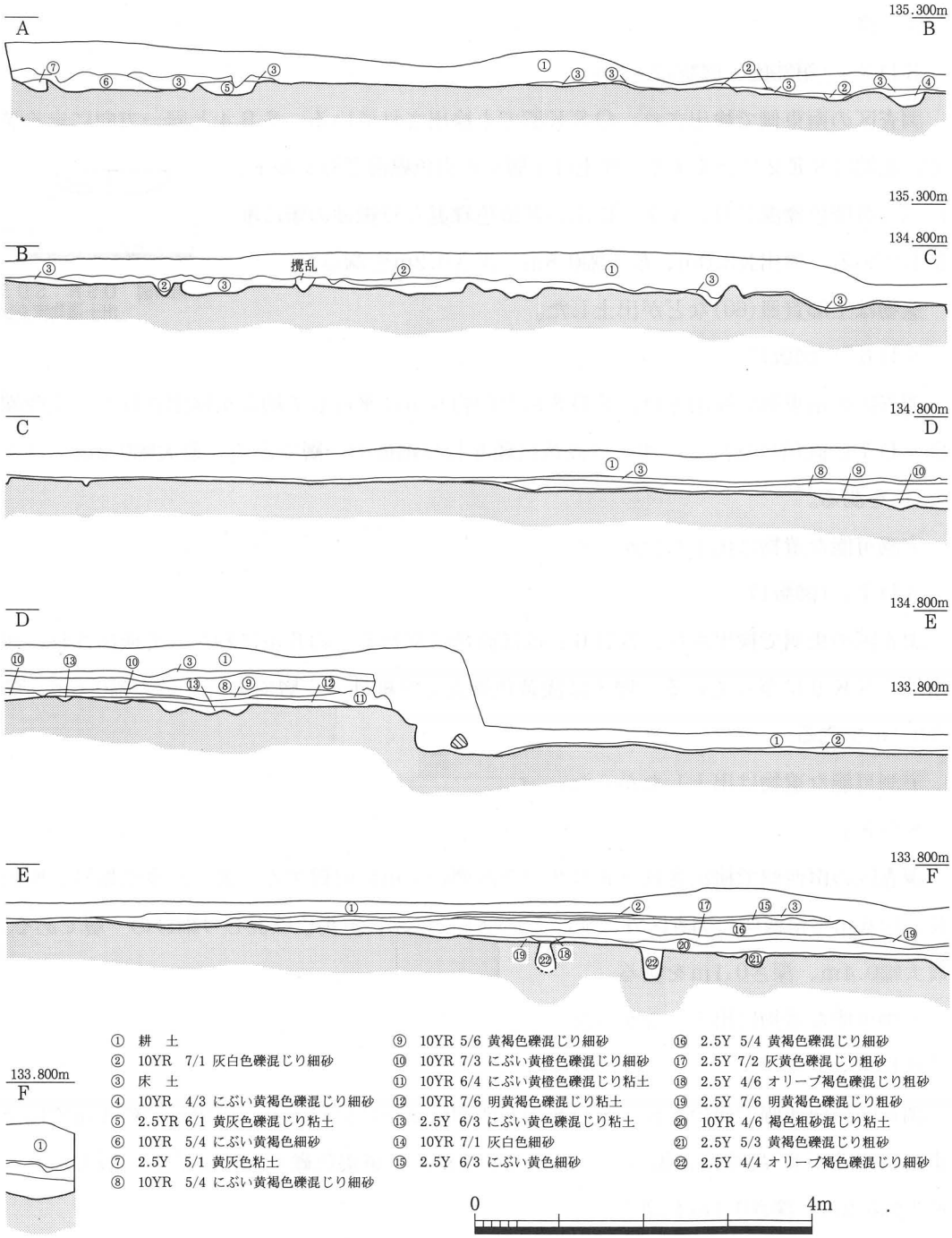


第37図　ＯＳＫ　遺構配置図（1/300）

には共通するものもある。遺構は南東側の水田下から検出されたＯＳＫ87と接するＳＢ４、ＳＤ３・６～８、ＳＥ２、ＳＫ５～９の一群と北側の水田下で検出された溝を中心とする一群とに分けられる。２つの遺構群は方位等も異なるようである。

２　層序（第38図）

調査区のもとの地形は北に標高を下げる２枚の水田であった。このことから遺構面の標高も北に向かって高度を下げている。層序は水田の北側が厚く、包含層（にぶい黄色礫混じり粘土・褐色粗砂混じり粘土）も北側で残存していた。



第38図　ＯＳＫ　西壁土層断面実測図（1/80）

3　遺構と遺物

（1）　掘立柱建物

［ＳＢ４］（第24図）

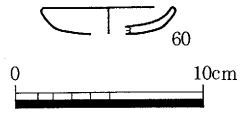
調査区の南側で北西側の梁行が検出され、建物の大部分はＯＳＫ87に広がる。桁行２間(5.4m)×梁行１間(3.8m)の建物である。北東側の桁行１間は庇のようである。桁行方向Ｎ－50°－Ｗ。柱穴は掘方だけで平均径0.4m、深さ0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

（2）　溝

［ＳＤ３］（第39図、図版17・18）

調査区の南東側で検出され、ＯＳＫ87でも検出されている。ＳＢ４と同一方向に走る溝で、北端はＳＥ２に合流する。埋土は上層から褐色礫混じりシルト、にぶい黄橙色礫混じりシルト、にぶい黄橙色礫混じり細砂の順に堆積している。検出長3.0m、最大幅0.8m、深さ0.2mを測る。



第39図　ＯＳＫ　ＳＤ３
出土遺物実測図

遺物は土師質皿(60)などが出土した。

［ＳＤ６］（図版17）

調査区の南東側で検出され、ＳＤ３の北側約６ｍに平行して約５ｍ検出された。北西端はＳＤ７と直角に交わる。埋土は浅黄色礫混じり細砂の一層である。最大幅0.5m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ７］（図版17）

調査区の東側で検出され、ＳＤ６とほぼ直角に交わる。約６ｍにわたって検出され、西南端はＳＫ９に至っている。埋土は浅黄色礫混じり細砂の一層である。最大幅0.6m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ８］

調査区の南西側で検出され、ＳＥ２の北西側約７ｍに位置する。溝は北東に振り、検出長は約６ｍで南西側の調査区外に延びる。埋土はにぶい黄褐色礫混じり細砂の一層である。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ９］

調査区の南西側で検出され、ＳＤ８の北西側約２ｍに位置する。検出長は約４ｍでほぼ東西に走るが３°程度南に振っている。埋土はにぶい黄褐色礫混じり細砂の一層である。最大幅0.2m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ10］

調査区の中央で検出され、ＳＤ９の北側約６ｍを東西に平行に走る。検出長は約19mである。西端は調査区外にのびる。埋土はにぶい黄褐色礫混じり微砂の一層である。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ11］

調査区の中央で検出され、ＳＤ10の北側の約３ｍを東西に平行に走る。検出長は約26mである。埋土は明黄褐色礫混じり粘土の一層である。最大幅1.3m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ12］

調査区の中央で検出され、ＳＤ11の北側に接するように東西に平行に走る。検出長は約10mである。埋土は明黄褐色礫混じり粘土の一層である。最大幅0.3m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ13］

調査区の中央で検出され、ＳＤ12の北側約１ｍを東西に平行に走る。検出長は約25mである。埋土は明黄褐色礫混じり粘土の一層である。最大幅0.9m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ14］

調査区の北側で検出され、ＳＤ13の北側約７ｍに位置する。溝は平面形がＬ字形を呈し、東側調査区外から西に18m走ったのち、北に屈曲し10m走る。ＳＤ17、ＳＤ18と一部重複する。検出長は約28mである。埋土はにぶい黄褐色礫細砂の一層である。最大幅0.9m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ15］

調査区の北側で検出され、ＳＤ14の北側約１ｍに位置する。溝は平面形がＬ字形を呈し、東西に８ｍ走ったのち北に屈曲し３ｍ走る。検出長は約11mである。埋土はにぶい黄褐色礫混じり細砂の一層である。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ16］

調査区の北側で検出され、ＳＤ15の北側約１ｍに位置する。溝は東側調査区外から西に15m走ったのち、北西に１ｍ屈曲し走る。検出長は約16mである。埋土はにぶい明黄褐色礫混じり細砂の一層である。最大幅1.0m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ17］

調査区の北西側で検出され、ＳＤ14、ＳＤ18と重複する。溝は東西に９ｍ走ったのち、

北に屈曲し４ｍ走る。検出長は約13ｍである。埋土はにぶい黄褐色礫混じり細砂の一層である。最大幅0.7ｍ、深さ0.1ｍを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ18］

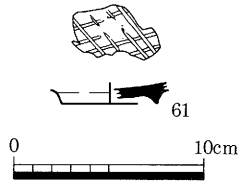
調査区の北側で検出され、ＳＤ14、ＳＤ17と重複する。溝は西側調査区外から東に18ｍ走る溝と東側調査区外から北西方向に14ｍ走る溝が重複したものであるが前後関係は不明である。埋土はオリーブ褐色粗砂とにぶい黄褐色礫混じり細砂である。最大幅1.5ｍ、深さ0.2ｍを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ19］（第40図、図版18）

調査区の北東側で検出され、ＳＤ18の北側約４ｍに位置する。溝は北側調査区外から南東方向に４ｍ走る。埋土はにぶい黄褐色礫混じり粘土である。最大幅1.0ｍ、深さ0.1ｍを測る。

遺物は瓦器椀底部(61)が出土した。



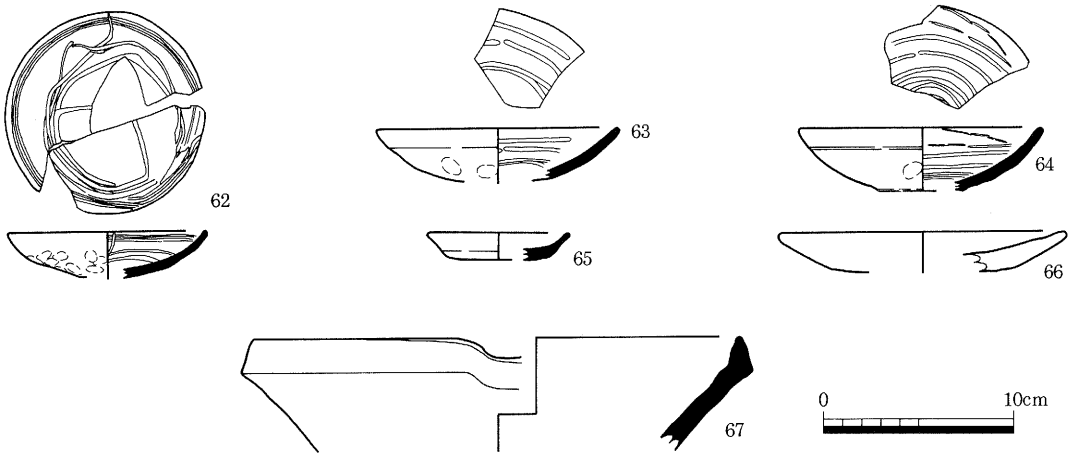
第40図　ＯＳＫ　ＳＤ19
出土遺物実測図

（３）　井戸

［ＳＥ２］（第41図、図版17・18）

調査区の南東側で検出され、ＳＢ４の北西側２ｍに位置する。平面形は長楕円形を呈する、素掘りの井戸である。規模は長径3.0ｍ、短径1.9ｍ、深さ2.5ｍを測る。

遺物は瓦器椀(62～64)、瓦質皿(65)、土師質皿(66)、須恵質片口鉢(67)が出土した。

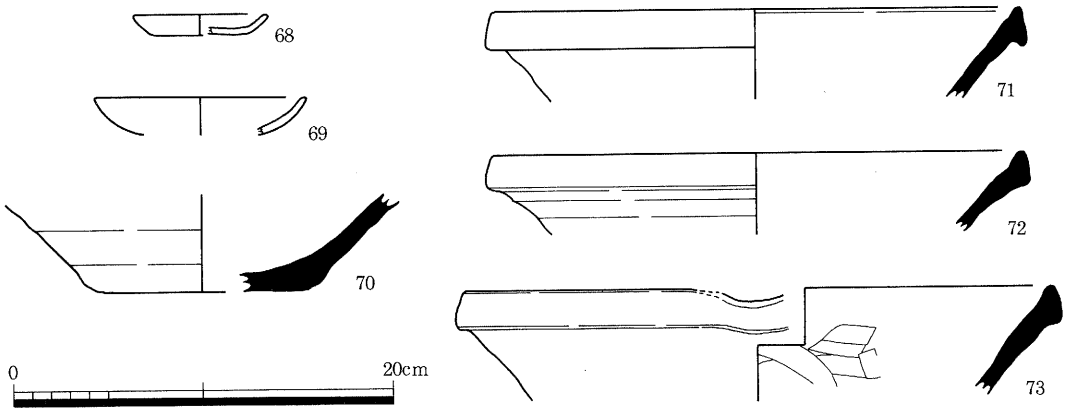


第41図　ＯＳＫ　ＳＥ２出土遺物実測図

（４）　土坑

［ＳＫ５］（第42図、図版18）

調査区の南側、ＳＢ４の北西側梁行に接して検出された。平面形は不定形な長楕円形を呈する。埋土は褐色礫混じり細砂で炭化物を含んでいる。規模は長径0.7ｍ、短径0.3ｍ、



第42図　ＯＳＫ　ＳＫ５出土遺物実測図

深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿(68・69)、須恵質練鉢(70～72)・片口練鉢(73)が出土した。

［ＳＫ６］

調査区の南側、ＳＫ５の北側４mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土は浅黄色礫混じりシルトの一層である。主軸方向はN－４°－Wを示す。規模は長径1.7m、短径0.6m、深さ0.3mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＫ７］(図版17)

調査区の南東端、ＳＤ６の南側１mに位置する。平面形は楕円形を呈する。埋土は浅黄色礫混じり細砂の一層である。主軸方向はN－21°－Wを示す。規模は長径1.5m、短径1.0m、深さ0.3mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＫ８］

調査区の南東端、ＳＤ６の北側１mに位置する。平面形は不整形を呈する。埋土は浅黄色礫混じり細砂の一層である。主軸方向はN－60°－Wを示す。規模は長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.3mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

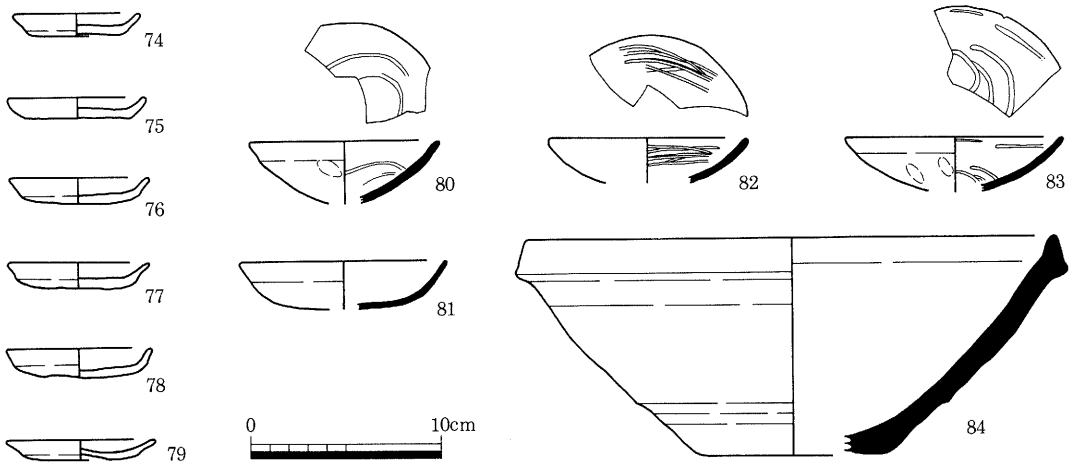
［ＳＫ９］(図版17)

調査区の南東端、ＳＤ７の南西端に位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。埋土は浅黄色礫混じり細砂の一層である。主軸方向はN－50°－Ｅを示す。規模は長径1.5m、短径1.0m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

（５）　包含層(第43図、図版18)

包含層からは中世土器を中心に出土した。土師質皿(74～79)はいずれも口縁部は底部から短く外傾する。瓦器椀(80～83)は(81)を除き暗文を有するものである。(84)は須恵質の



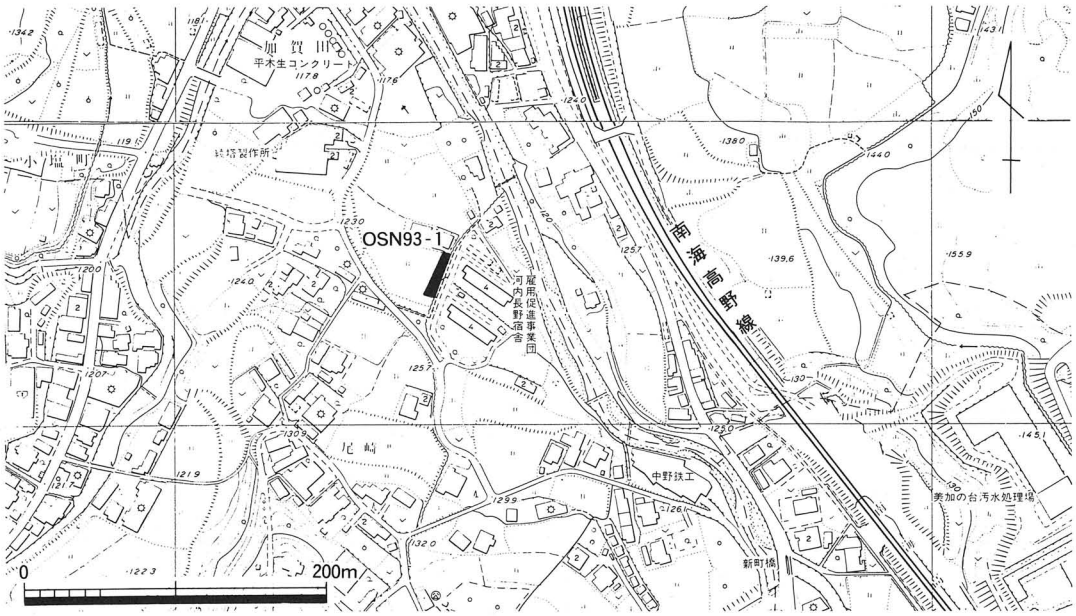
第43図　ＯＳＫ　包含層出土遺物実測図

練鉢である。

4　まとめ

調査の結果、ＳＤ８から南東側の遺構群から出土する瓦器椀は尾上編年Ⅳ－３～５に該当する14世紀後半を中心とするものである。しかしＳＤ９以降の溝群は方位を異にし、少ない出土の瓦器椀からではあるが、ＳＤ８から南東側の遺構群とは時期も異にし、やや遡るようである。

第４節　尾崎北遺跡（ＯＳＮ93－１）



第44図　ＯＳＮ　調査区位置図（1/5000）

１　概略（第44・45図）

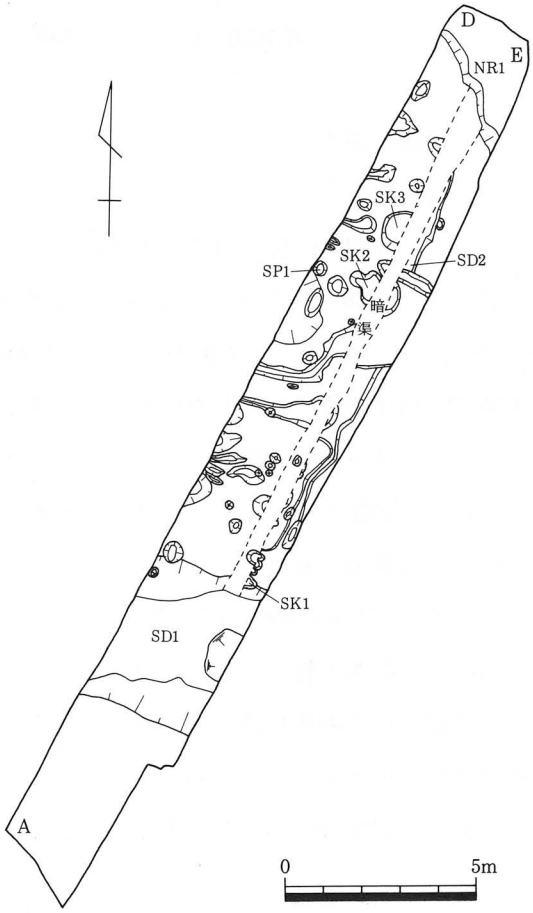
調査地は天見川による谷の出口、川の左岸の河岸段丘上、標高120m付近に位置する。

調査は国道371号線バイパス工事によって発見された尾崎遺跡の近くで倉庫建築が計画されたことに伴って実施された。調査面積85m²、実施期間は平成５年７月26日～８月13日である。

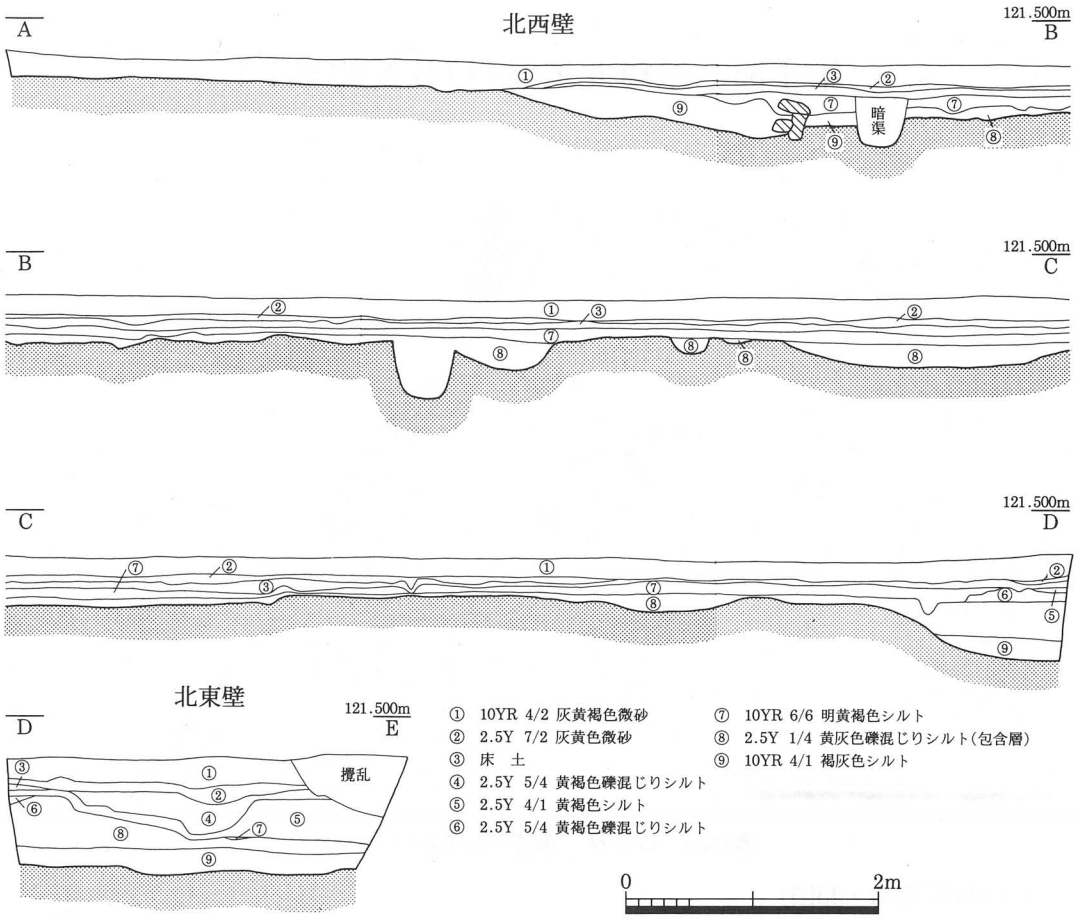
２　層序（第46図）

当調査区は東に振った南北に細長いもので、南西端５m付近から北東端に向かって標高を下げ、北東端近くで更に谷状を呈する。

この為、層厚は北東端に向かって厚くなっている。埋土は河川堆積の極細砂とシルトの互層を成し、包含層は礫混じりシルトである。



第45図　ＯＳＮ　遺構配置図（1/200）



第46図　ＯＳＮ　北西壁・北東壁土層断面実測図(1/60)

3　遺構と遺物

(1)　溝

［ＳＤ１］(第47・49図、図版19・20)

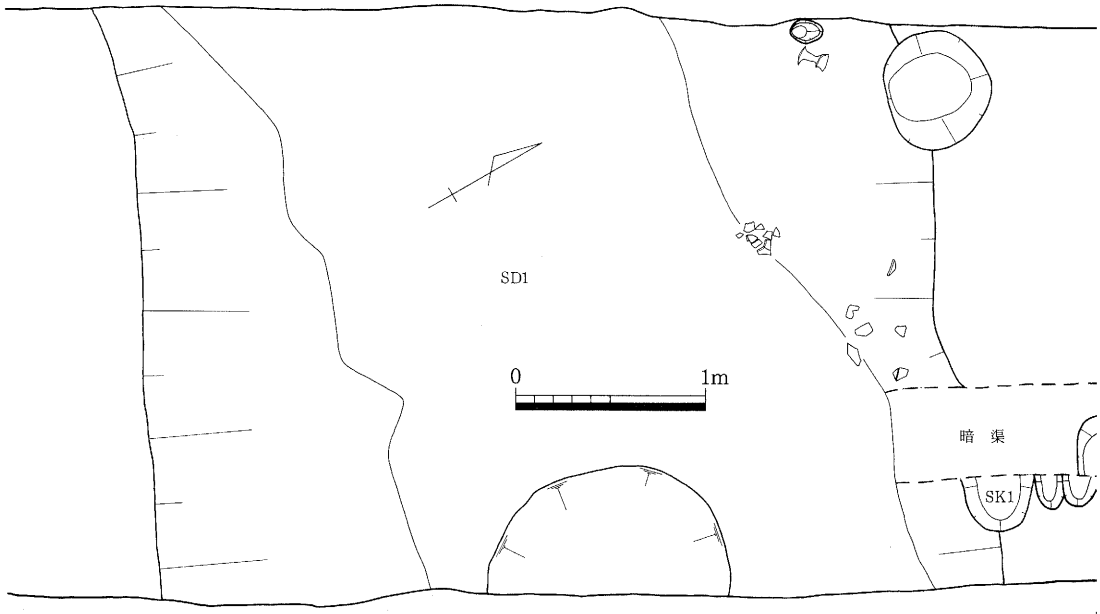
調査区の南側で検出された調査区を横断する溝である。検出幅が4.0mと広く、深さは0.4mを測った。埋土は明黄褐色シルトと褐灰色シルトからなる。溝の北側肩部付近から土師器の高坏や甕が出土した。尚、この溝より南側からは遺構は確認されなかった為、遺跡を画する溝の可能性がある。

遺物は土師器の高坏(４)・坏部(１)・脚部(２・３)・甕口縁部(５～７)、須恵器の坏蓋(８)、更に製塩土器脚部(９)が出土した。

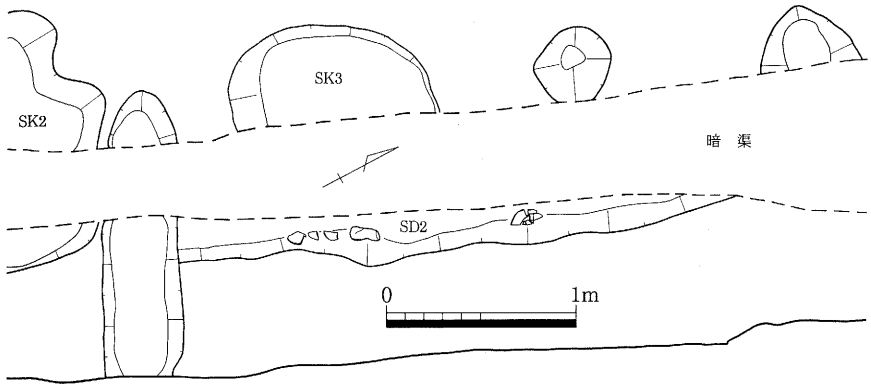
［ＳＤ２］(第48・49図、図版21)

調査区の北側で検出された。調査区を縦断する後世の攪乱の為、全容は不明である。検出長は約３ｍで西側肩部は削平されている。残存幅0.3m、深さ0.1mを測る。溝の東側肩部付近から中世土器が出土した。

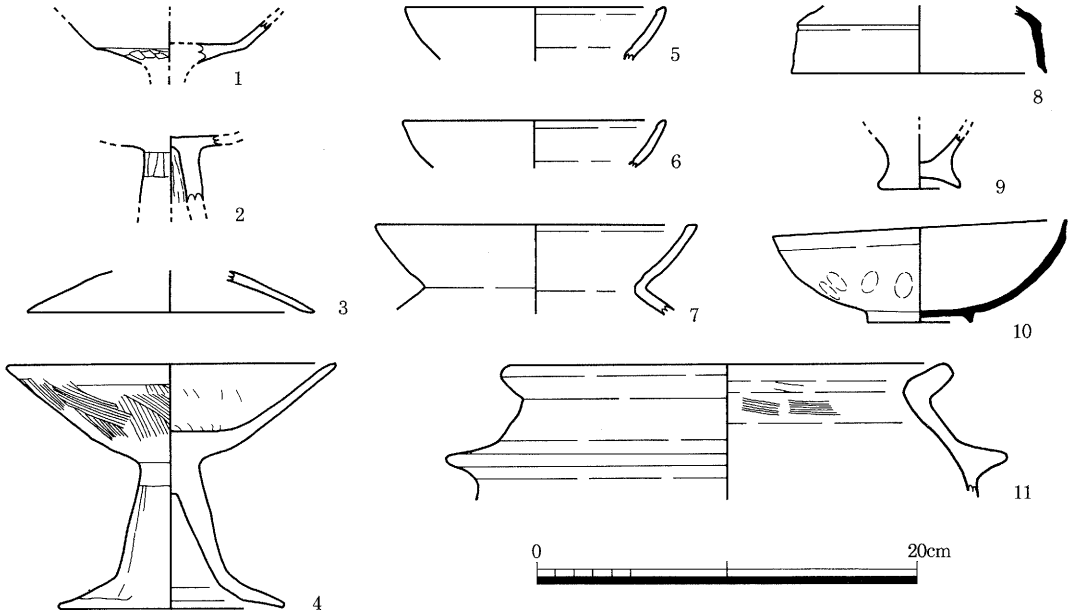
遺物は瓦器椀(10)、土師質土釜(11)が出土した。



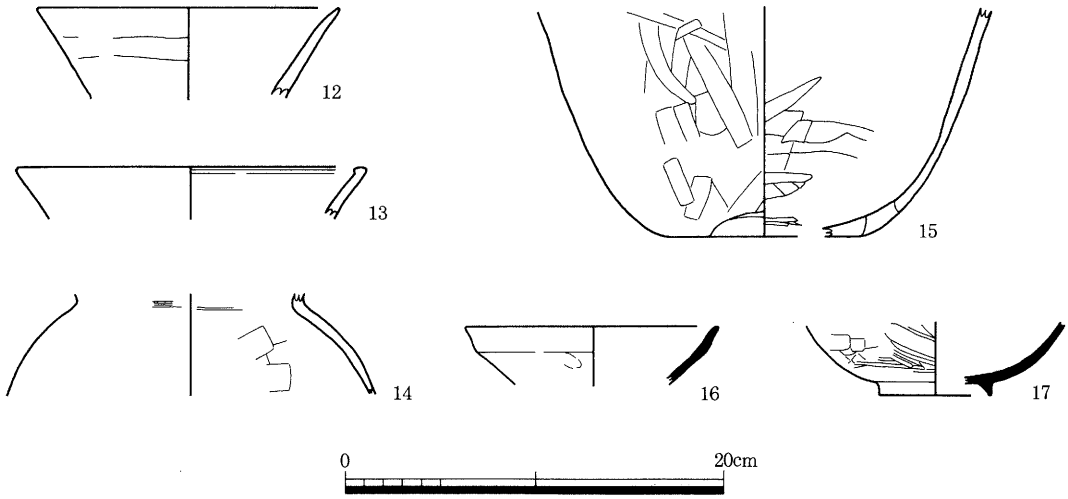
第47図　ＯＳＮ　ＳＤ１遺構実測図(1/40)



第48図　ＯＳＮ　ＳＤ２遺構実測図(1/40)



第49図　ＯＳＮ　ＳＤ１・２出土遺物実測図



第50図　ＯＳＮ　ＳＫ１～３出土遺物実測図

（２）　土坑

［ＳＫ１］（第50図、図版21）

調査区の南側、ＳＤ１の北側肩部で検出された。大半は後世の攪乱で削平され全容は判明しないが、平面形は楕円形を呈する。規模は残存長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師器の壺口縁部(12)、甕口縁部(13)、甕体部(14)、甑(15)が出土した。

［ＳＫ２］（第50図、図版21）

調査区の北側、ＳＤ１から北に約８mに位置する。土坑の中央は後世の攪乱で削平されている。平面形は不定形な楕円形を呈する。主軸方向はＮ－53°－Ｗを示す。規模は残存長径1.4m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器椀(16)が出土した。

［ＳＫ３］（第50図、図版21）

調査区の北側、ＳＫ２から北に約１mに位置する。土坑の東側は後世の攪乱で削平されている。平面形は不定形な楕円形を呈する。規模は残存長径1.1m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器椀(17)が出土した。

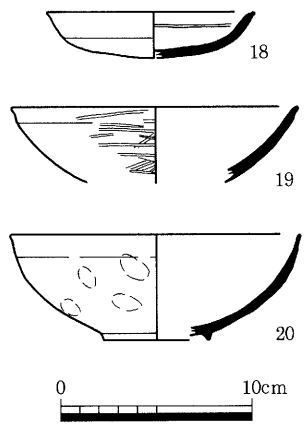
（３）　遺物出土ピット

調査範囲が狭く建物を復元するまでには至っていないが、遺物を伴うピットが検出されている。

［ＳＰ１］（第51図、図版21）

調査区の北側、ＳＫ２から西に約１mに位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は残存長径0.4m、短径0.3m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器皿(18)、瓦器椀(19・20)が出土した。



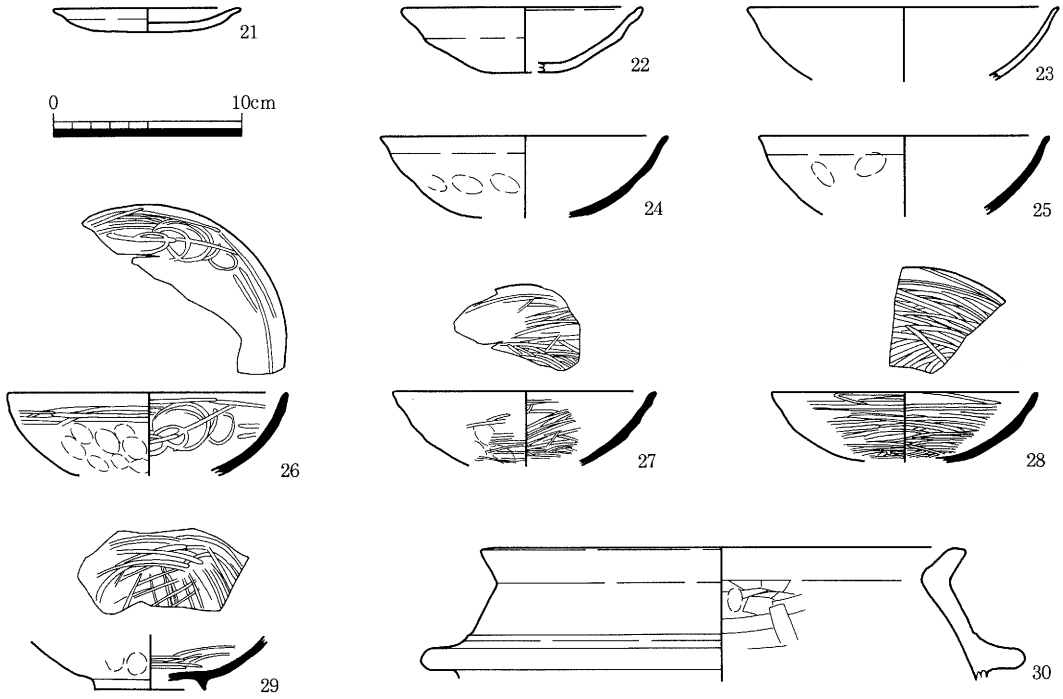
第51図　ＯＳＮ　ＳＰ１
出土遺物実測図

（４）　自然流路

［ＮＲ１］(第52図、図版21)

調査区の北側端で南西側の肩部が検出された。流路は北西に振るようである。埋土はシルト層が主で一部礫が混じる。規模は深さ0.9mを測る。

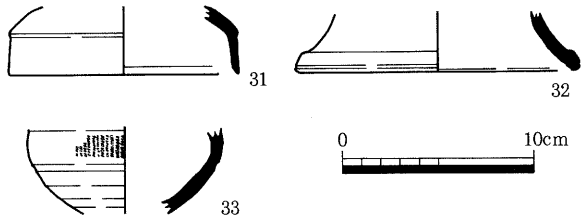
遺物は中世土器が主体である。土師質皿(21)、土師質坏(22)、土師質椀(23)、瓦器椀(24～29)、土師質土釜(30)などが出土した。



第52図　ＯＳＮ　ＮＲ１出土遺物実測図

（５）　包含層(第53図、図版21)

包含層の出土遺物で実測できたのは須恵器が主体で坏蓋(31)、壺脚部(32)、瑯(33)である。これら以外に110ｇの鉄滓、中世土器、輸入陶磁器の破片が出土した。



第53図　ＯＳＮ　包含層出土遺物実測図

４　まとめ

当遺跡はジョウノマエ・尾崎遺跡とは距離的に少し離れ、出土遺物から時期も相違する。

なによりも古墳時代中期の遺構・遺物が出土している。土師器では布留式Ⅲの甕・高坏が出土している。須恵器は少し時期が下がるようである。中世の出土土器は瓦器椀から尾上編年Ⅲ－１・２の時期で、ジョウノマエ遺跡とほぼ同時期のようである。

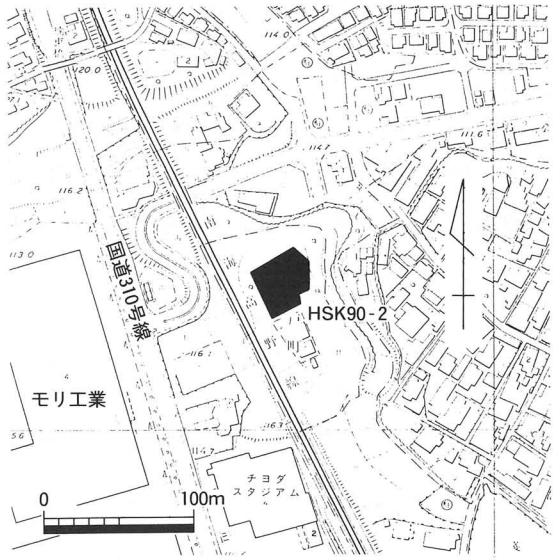
第５節　菱子尻遺跡（ＨＳＫ90－２）

１　概略（第54・55図）

調査地は南海電鉄千代田駅の北側約300m、塩谷川が東側を流れる標高116mの小丘陵の末端部に位置する。

当遺跡の既往の調査は当調査地の南側約100mのボーリング場の建設時の事前調査だけである。この時は位置的に谷の部分であったことから、縄文・弥生・中世の遺物を若干出土しただけであった。この為当遺跡についての全容は把握されていない。

今回の調査地は、明治時代まで木戸



第54図　ＨＳＫ　調査区位置図（1/5000）

第55図　ＨＳＫ　遺構配置図（1/300）

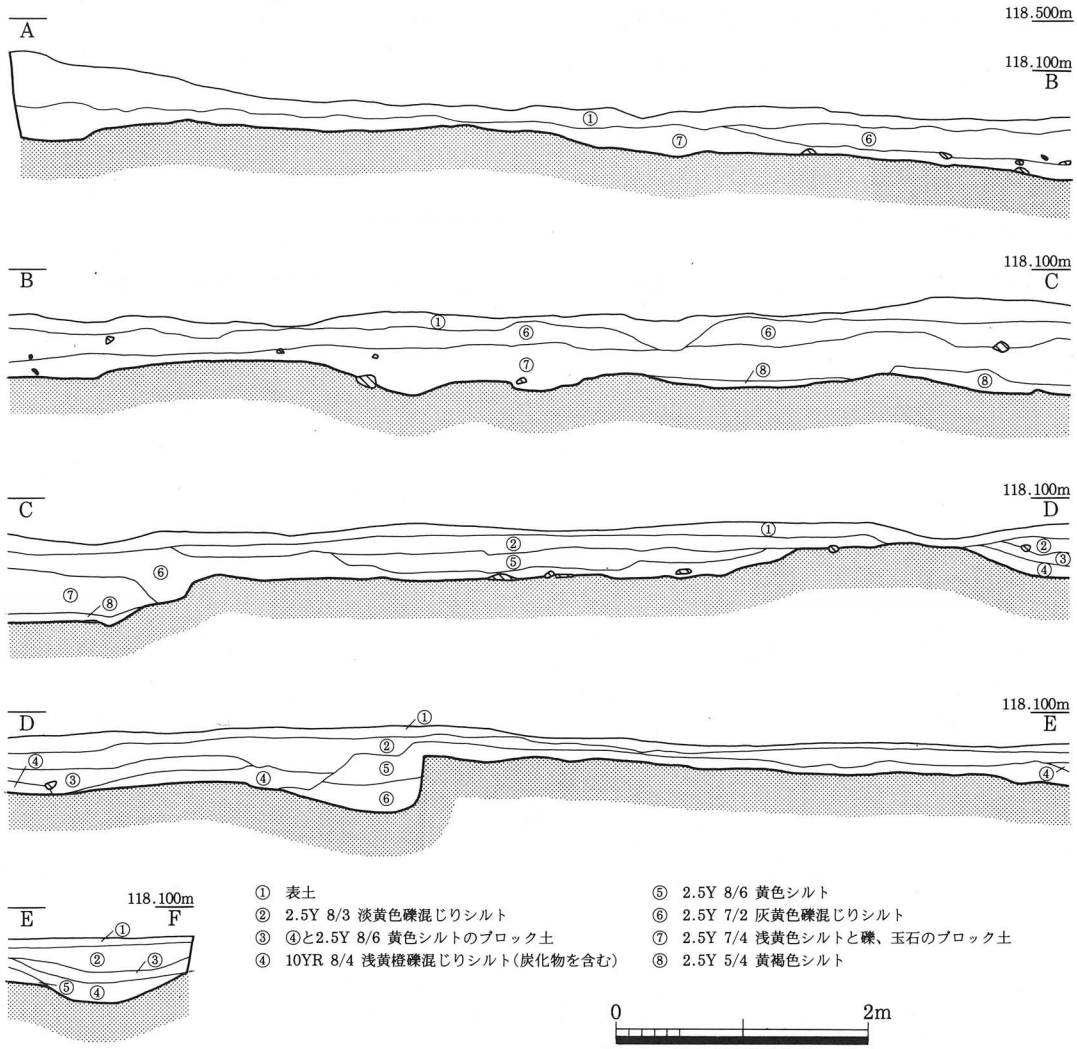
神社と神宮寺の大仙院が所在した場所であり、近世の遺構が存在する可能性があった。

調査は共同住宅建設に伴うもので調査面積約1000㎡、実施期間は平成２年７月23日～８月31日である。

調査の結果、遺構の大部分は多数の不定形な土坑状の落ち込みで、性格の不明なものが多い。直線に走る溝が２条あり、他に遺物を伴う土坑状の遺構が検出された。

2　層序（第56図）

遺構は表土下約0.3～0.6mの地山面から検出された。表土から地山までの層厚は、丘陵上であることから平均的に薄い。



第56図　ＨＳＫ　南西壁土層断面実測図（1/60）

3　遺構と遺物

（１）　溝

［ＳＤ１］

調査区の南西側辺の中央で検出され、調査区外からＮ－60°－Ｅの方向に真っすぐ走る。

検出長は17.5m、最大幅0.9m、深さ0.1mを測る。埋土は単層で明黄色礫混じりシルトであった。

実測可能な遺物は出土しなかった。

［ＳＤ２］（図版23）

調査区の南西側辺の北側で検出された。ＳＤ１の北側約16mを平行するように西側調査区外からＮ－60°－Ｅの方向に走る。検出長20.5m、最大幅0.9m、深さ0.2mを測る。埋土は上層がにぶい黄色礫混じりシルトであった。

実測可能な遺物は出土しなかった。

（２）　土坑

［ＳＫ１］（第58図、図版24）

調査区の南東側辺に位置し、一端は調査区外に広がる。平面形は不定形な楕円形を呈する。規模は長径2.3m、短径1.6m、深さ0.3mを測る。主軸方向はＮ－27°－Ｗを示す。

遺物は白磁の仏飯具（５）が図示できた。

［ＳＫ２］（第58図、図版24）

調査区の南側、ＳＫ１の北西約６mに位置しＳＸ２と重複する。平面形は不定形な楕円形を呈する。規模は長径0.8m、短径0.7m、深さ0.2mを測る。主軸方向はＮ－70°－Ｗを示す。

遺物は16弁の菊弁の軒丸瓦（６）が図示できた。

［ＳＫ３］（第57・58図、図版24）

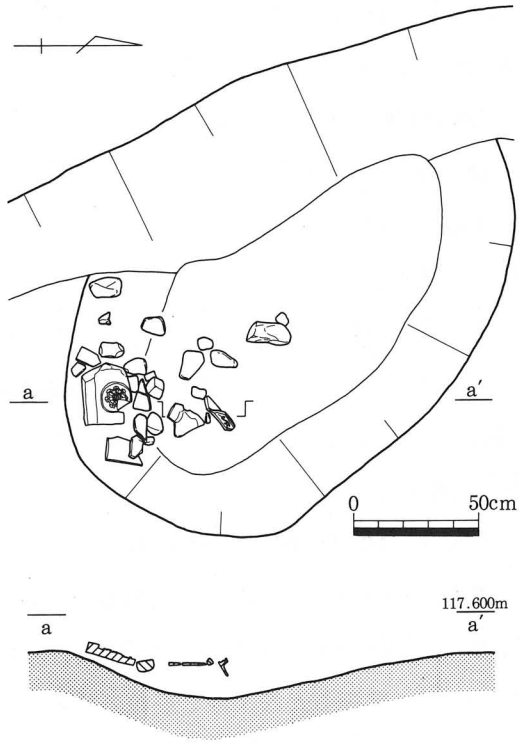
調査区の中央部、ＳＤ１の北約７mに位置しＳＸ３と重複する。平面形は不定形な楕円形を呈する。規模は長径2.0m、短径1.3m、深さ0.2mを測る。主軸方向はＮ－45°－Ｗを示す。

遺物は土坑内から川原石と瓦類が出土し、輪宝文の面戸瓦（７）が図示できた。

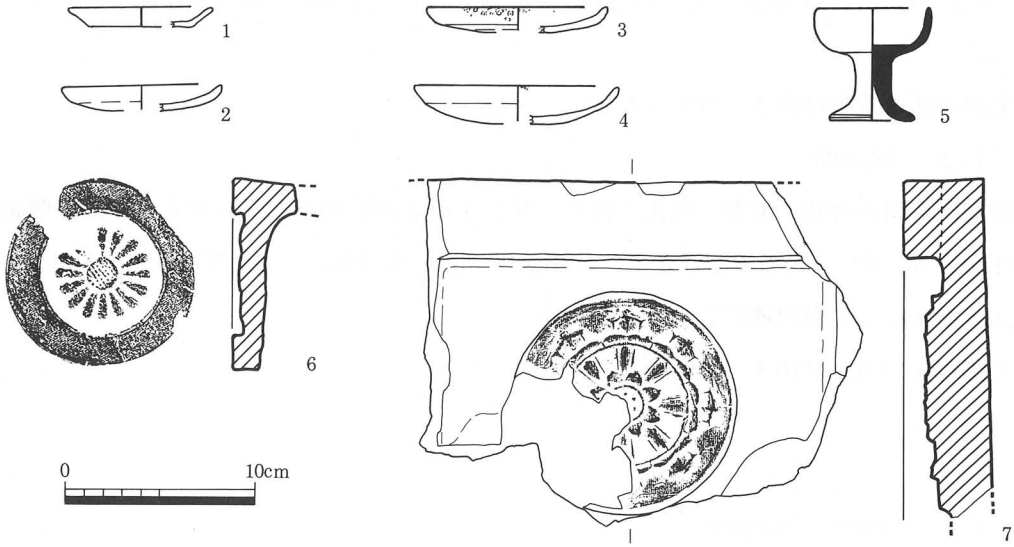
［ＳＫ４］（第58図、図版24）

調査区の北側、ＳＸ３の北西端に接して検出された。平面形は不定形な楕円形を呈する。規模は長径1.8m、短径1.4m、深さ0.2mを測る。主軸方向はＮ－59°－Ｅを示す。

遺物は土師質皿（１～４）が図示できた。



第57図　ＨＳＫ　ＳＫ３遺構実測図(1/30)



第58図　ＨＳＫ　ＳＫ１～４出土遺物実測図

（３）　その他

［ＳＸ１］（第61図、図版24）

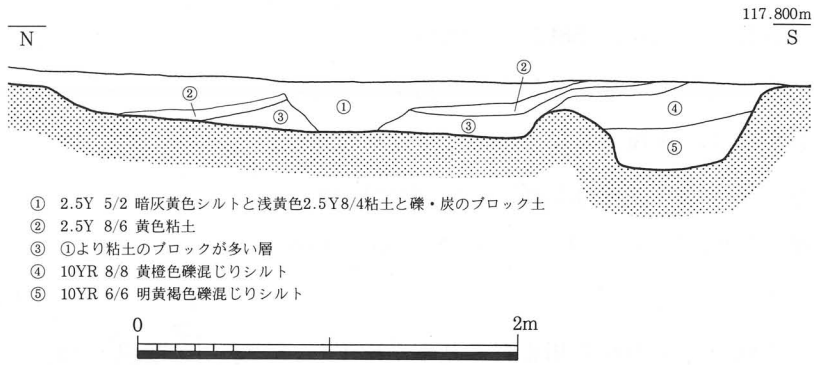
調査区の南端、ＳＫ１の西側約３ｍに位置する。平面形は不定形を呈する。規模は長軸6.3m、短軸2.5m、深さ0.3mを測る。

土坑内から出土した銅銭の寛永通寶(17)が図示できた。

［ＳＸ２］（第59・61図、図版24）

調査区の南端、ＳＸ１の北側約２ｍに位置する。平面形が不定形な落ち込みで南西側調査区外に広がる。規模は検出長軸11.2m、短軸4.3m、深さ0.4mを測る。埋土は５層から成る。

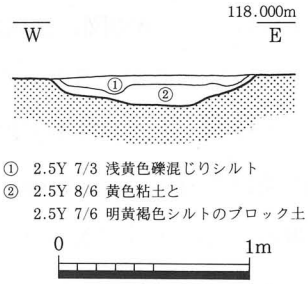
遺構内からは瓦類が出土し、軒丸瓦(14)、軒平瓦(15・16)が図示できた。



第59図　ＨＳＫ　ＳＸ２遺構断面実測図(1/40)

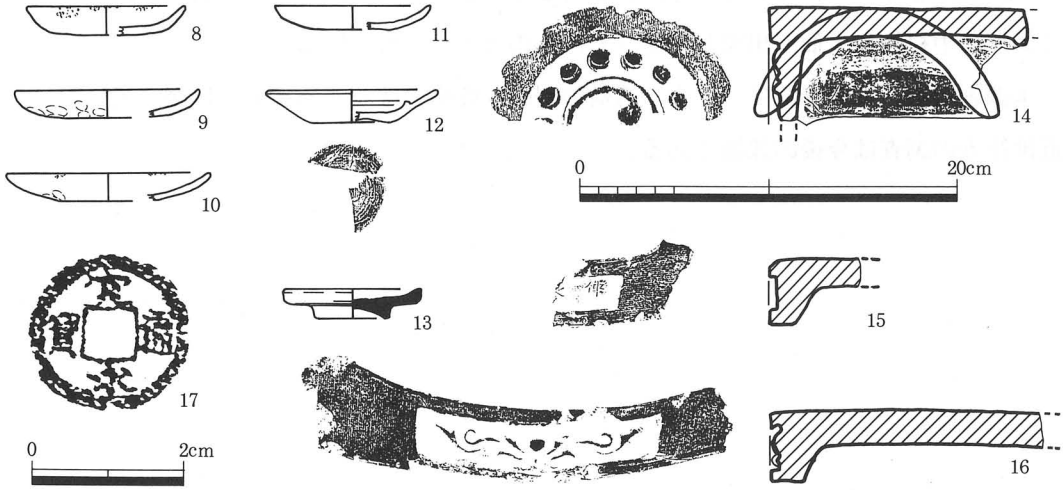
［ＳＸ３］（第60・61図、図版24）

調査区の中央部に位置し、北西端がＳＫ４に接する。平面形は溝状の長楕円形を呈する。規模は長軸11.9m、短軸2.3m、深さ0.16mを測る。埋土は２層から成る。上層は浅黄色礫混じりシルト、下層は黄色粘土と明黄褐色シルトのブロック土である。



第60図　ＨＳＫ　ＳＸ３
遺構断面実測図(1/40)

遺構内から出土した土師質皿(11)、土師質灯明皿(12)、陶器



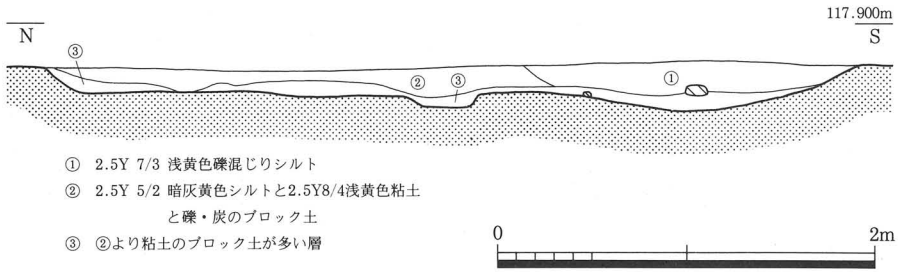
第61図　ＨＳＫ　ＳＸ１～４出土遺物実測図

の皿(13)が図示できた。

［ＳＸ４］(第61・62図、図版24)

調査区の南西側辺中央部で検出され、西側調査区外に広がる。平面形は不定形を呈する。規模は検出長軸11.6m、短軸3.1m、深さ0.2mを測る。埋土は３層から成り、上層は浅黄色礫混じりシルト、中層は暗灰黄色シルトと浅黄色粘土と礫・炭のブロック土、下層は中層より粘土のブロックが多い層である。

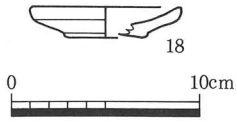
遺構内から出土した土師質皿(８～10)が図示できた。



第62図　ＨＳＫ　ＳＸ４遺構断面実測図(1/40)

(４)　包含層(第63図、図版24)

包含層からの出土土器は、破片が多く実測できたものは少なかった。この為、図示できたのは土師質の皿(18)のみである。



第63図　ＨＳＫ　包含層出土遺物実測図

４　まとめ

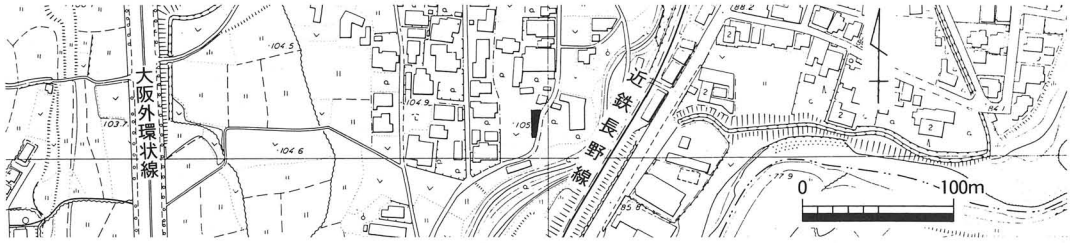
調査地付近は、前述のとおり旧木戸神社とその神宮寺と思われる正雲寺大仙院の跡地である。調査地は小字名と神社跡地との位置関係から、この正雲寺大仙院の跡地に比定される。

正雲寺大仙院は明治23年に松ヶ丘中町の松林寺に合併されている。元禄５年(1692)の寺社改帳によれば「正雲寺　大仙院　　桁行７間半　梁行４間　　屋根　藁葺　四方庇　瓦

造」の規模をもっていた。この寺は、慶安2年(1649)に寺ヶ池の改修と新田の開発をしたこの地の中村祐和大仙が出家して建立したものと伝えられている。

本調査では、上記寺院に対応する遺構の明確な性格を確認するまでには至っていない。近世社寺の調査は今後の課題である。

第６節　市町東遺跡（ＩＣＨ90－１）



第64図　ＩＣＨ　調査区位置図(1/5000)

１　概略(第64・65図)

調査地は市町の石川の左岸の中位段丘面上、標高105mに位置する。

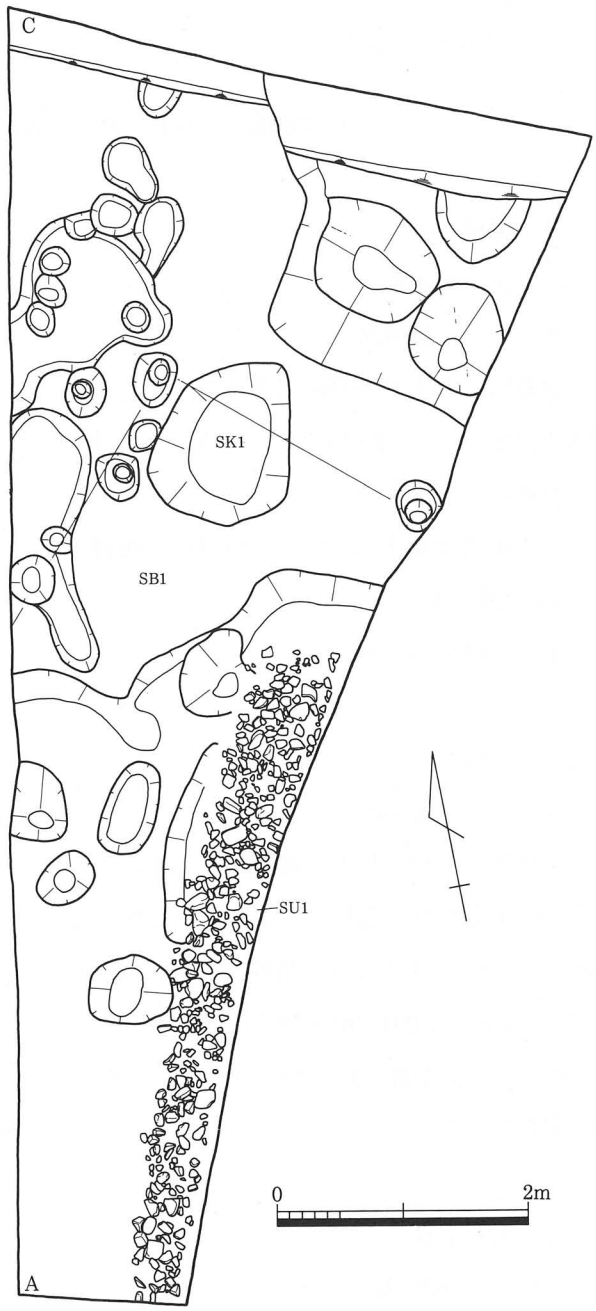
遺跡は平成２年５月の試掘調査で発見された。

本調査は、共同住宅の建設に先立ち平成２年９月３日～９月20日に実施した。行政上では市町397番地で、調査面積は30㎡である。

今回は面積も少なく全容の判明するものは少なかったが、柱穴状のピット、土坑、更に集石遺構が見られた。柱穴状のピットは一部直角に繋がり建物になる可能性がある。

土坑内からは中世の土器が出土し、集石遺構も同様の土器が出土した。

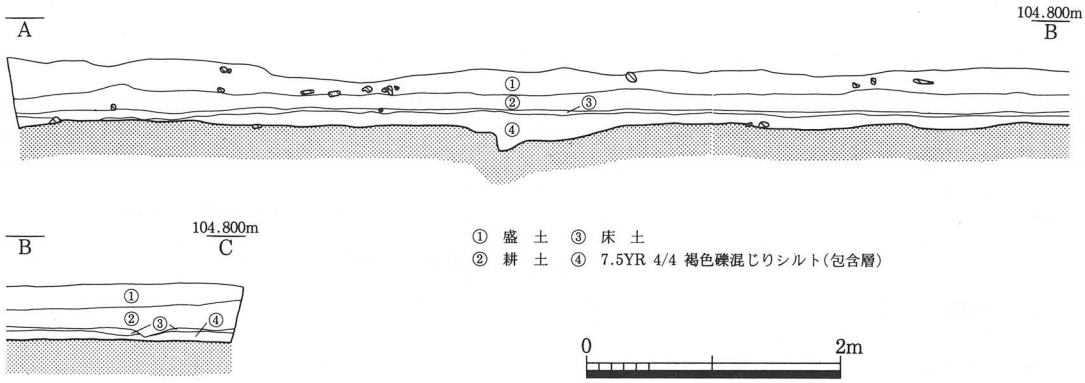
また、柱穴状のピットからは、土器の出土はなく時代は確定できなかった。しかし包含層中からは弥生時代の甕・壺などの土器の一部が出土し、更に石器(石包丁・不定形石器)も出土していることから、弥生時代中期の可能性もある。



第65図　ＩＣＨ　遺構配置図(1/60)

2　層序(第66図)

調査区は宅地で、上層から現代の盛土、旧耕土、床土、そして包含層である褐色礫混じりシルトの層順となっていた。



第66図　ＩＣＨ　南西壁土層断面実測図(1/60)

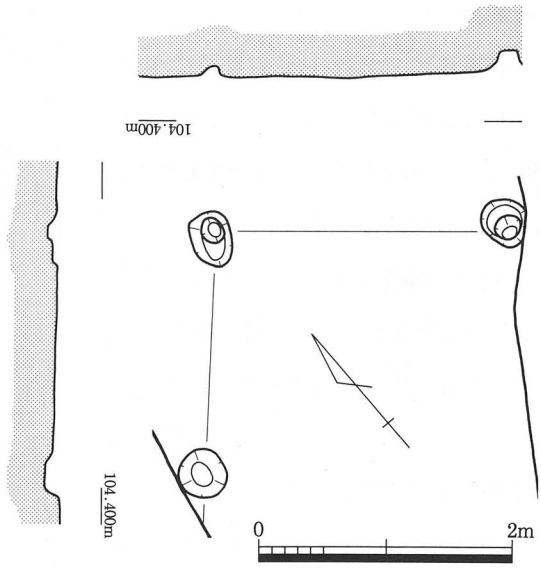
3　遺構と遺物

(1)　掘立柱建物

［ＳＢ１］(第67図)

調査区の中央で一部検出された。桁行１間(2.3m)以上×梁行１間(1.9m)以上の建物である。桁行方向はＮ－50°－Ｗを示す。柱穴の掘方は楕円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.14mを測る。

遺物は出土しなかった。



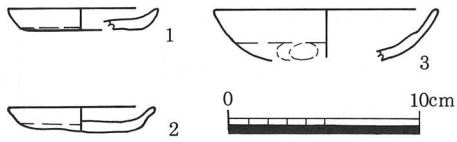
第67図　ＩＣＨ　ＳＢ１遺構実測図(1/60)

(2)　土坑

［ＳＫ１］(第68図、図版25・26)

調査区中央でＳＢ１と重複する。平面形はやや不定形な長楕円形を呈する。主軸方向はＮ－32°－Ｅを示す。規模は長径1.4m、短径1.1m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿(１・２)、土師質埦(３)が実測できた。



第68図　ＩＣＨ　ＳＫ１出土遺物実測図

(3)　集石遺構

［ＳＵ１］(図版26)

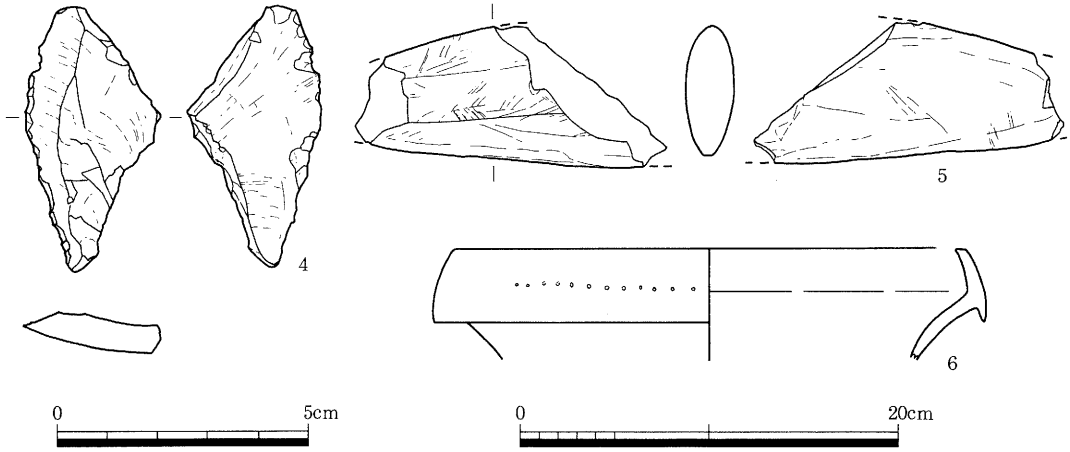
調査区の東側壁に沿って検出された。遺構は検出長約５ｍ、検出幅は0.7mでその範囲

に最大径21㎝×12㎝×４㎝、最小径2㎝×1㎝×１㎝を測る玉石が敷かれたように詰まっていた。主軸方向はＮ－26°－Ｅを示す。

実測可能な遺物は出土しなかった。

（４） 包含層（第69図、図版26）

中世土器や弥生土器の破片が小量出土した。遺物はサヌカイト製削器（４）、石包丁（５）、弥生時代中期壺口縁部（６）が実測できた。



第69図　ＩＣＨ　包含層出土遺物実測図

４　まとめ

市町東遺跡は、調査の結果から、弥生時代から中世にかけての複合遺跡である可能性が高い。特に弥生時代の中期の遺跡は市内では塩谷遺跡と三日市遺跡しかなく、出土した土器が中期でも中頃のものであり、石川流域の弥生時代の遺跡としては重要な位置を占めると考えられる。

また、ＳＵ１は中世以降の可能性が高く、調査地の東側に接して走る東高野街道との関係が予想される。遺跡の範囲も市町の所在するこの台地一帯に広がる可能性が高い。

報告書抄録

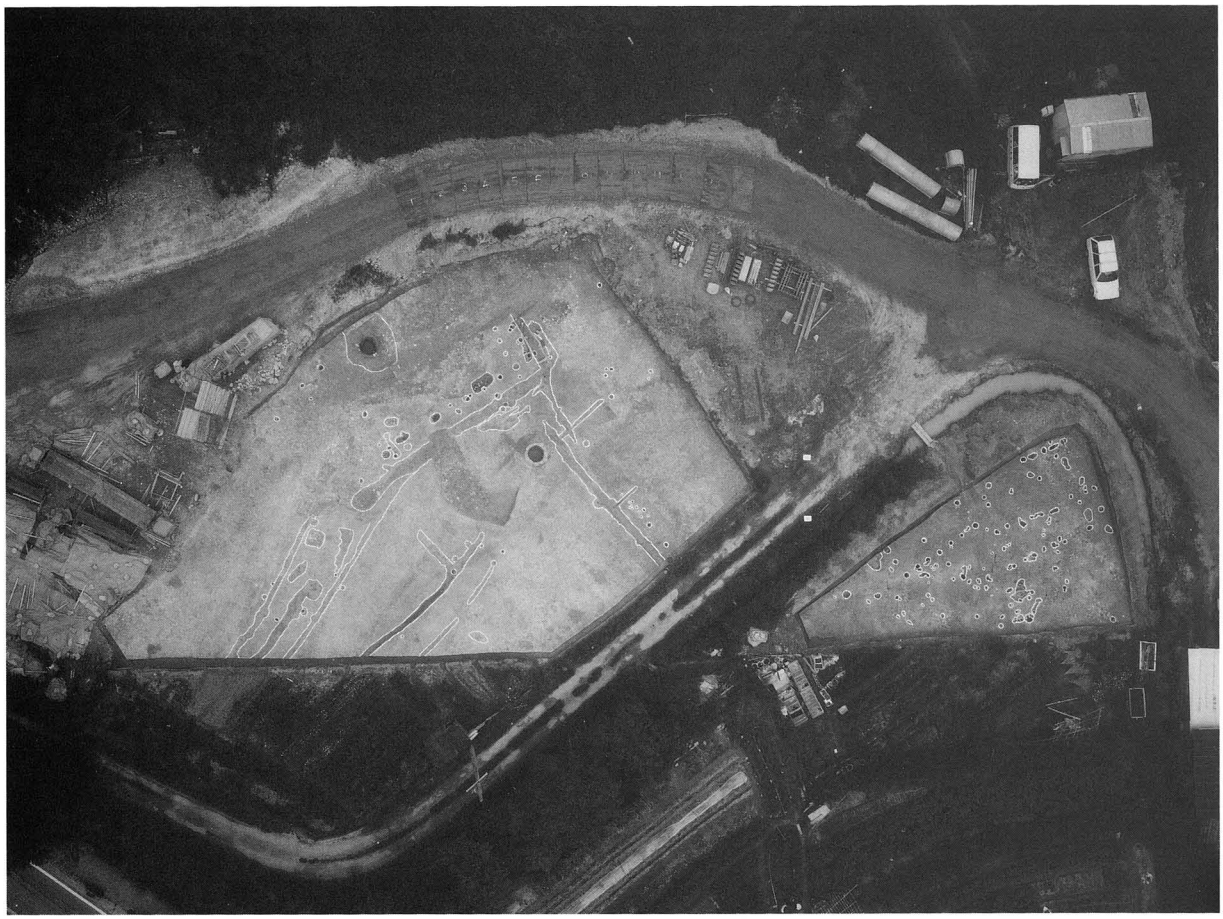
ふりがな	じょうのまえいせき　おざきいせき　おざききたいせき　ひしこじりいせき　いちちょうひがしいせき
書名	ジョウノマエ遺跡　尾崎遺跡　尾崎北遺跡　菱子尻遺跡　市町東遺跡
副書名	河内長野市遺跡調査会報 XIII
シリーズ名	河内長野市遺跡調査会報
シリーズ番号	XIII
編著者名	尾谷雅彦
編集機関	河内長野市遺跡調査会
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396－3　TEL 0721-53-1111
発行年月日	1996年3月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
ジョウノマエ遺跡（じょうのまえいせき）	河内長野市加賀田（かわちながのしかがた）	27216	府120 河 91	34°25″25′	135°34″25′	1988.04.26 ～ 1988.05.24	950m²	国道371号線バイパス工事に伴う事前調査
尾崎遺跡（おざきいせき）	河内長野市加賀田（かわちながのしかがた）	27216	府119 河 90	34°25″29′	135°34″22′	1987.12.02 ～ 1987.12.25	950m²	国道371号線バイパス工事に伴う事前調査
				34°25″30′	135°34″21′	1993.04.01 ～ 1993.04.21	750m²	ガソリンスタンド建設に伴う事前調査
尾崎北遺跡（おざききたいせき）	河内長野市加賀田（かわちながのしかがた）	27216	府127 河 98	34°25″37′	135°34″19′	1993.07.26 ～ 1993.08.13	85m²	倉庫建設に伴う事前調査
菱子尻遺跡（ひしこじりいせき）	河内長野市木戸町（かわちながのしきどちょう）	27216	府 65 河 54	34°28″03′	135°34″06′	1990.07.23 ～ 1990.08.31	1000m²	共同住宅建設に伴う事前調査
市町東遺跡（いちちょうひがしいせき）	河内長野市市町（かわちながのしいちちょう）	27216	府125 河 96	34°27″45′	135°34″51′	1990.09.03 ～ 1990.09.20	30m²	共同住宅建設に伴う事前調査

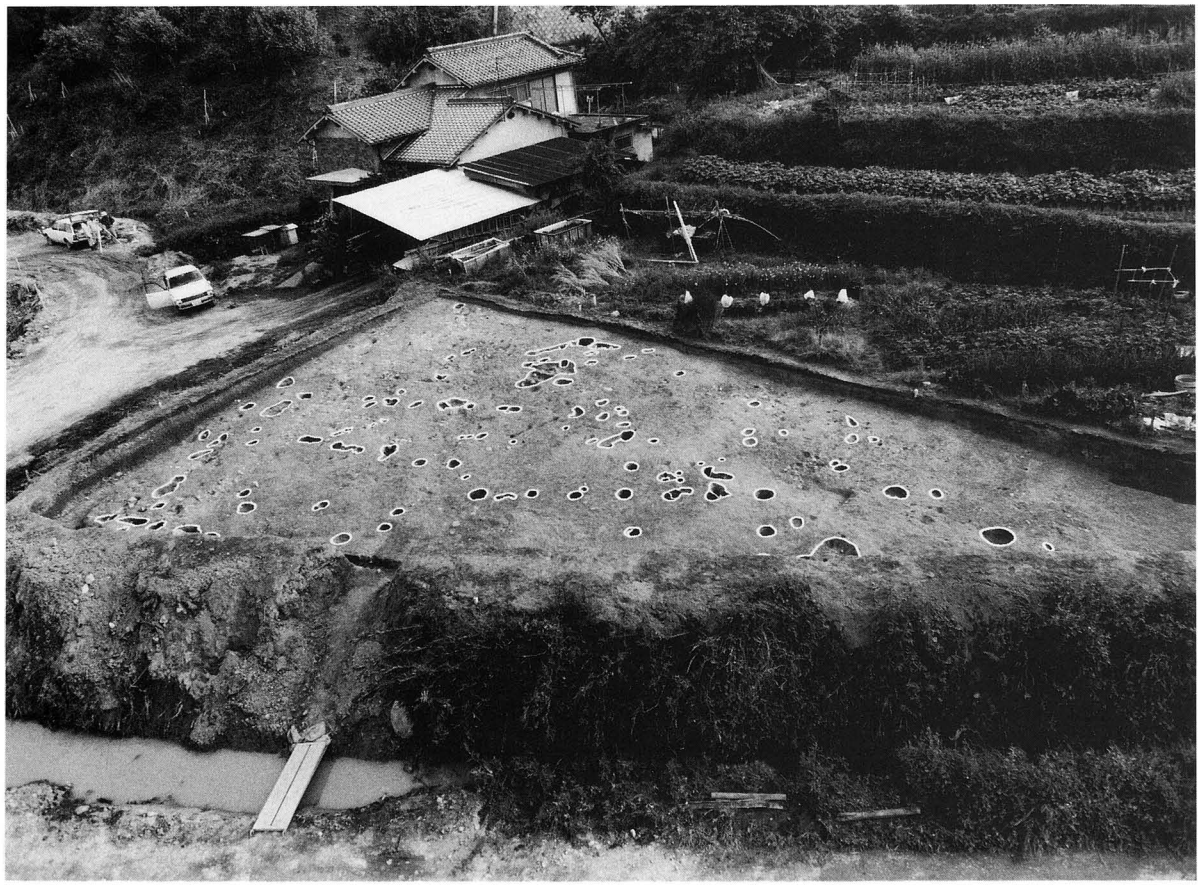
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ジョウノマエ遺跡	城館	中世	掘立柱建物 2 溝 10 井戸 2	瓦器 土師質土器	
尾崎遺跡	集落	古墳～中世	掘立柱建物 4 溝 5 井戸 1	瓦器　瓦質土器 土師質土器 須恵質土器	平安時代の大型建物を検出
			溝 14 井戸 1	瓦器 土師質土器 須恵質土器	
尾崎北遺跡	散布地	古墳	溝 2	土師器　須恵器 瓦器　土師質土器	
菱子尻遺跡	散布地	縄文～中世	溝 2	土師質土器　白磁 銅銭　瓦	
市町東遺跡	散布地	弥生 中世	掘立柱建物 1 集石遺溝 1	弥生土器　石器 土師質土器	

図　　版

図版1　遺構　ジョウノマエ遺跡（JNM88）第1・2調査区

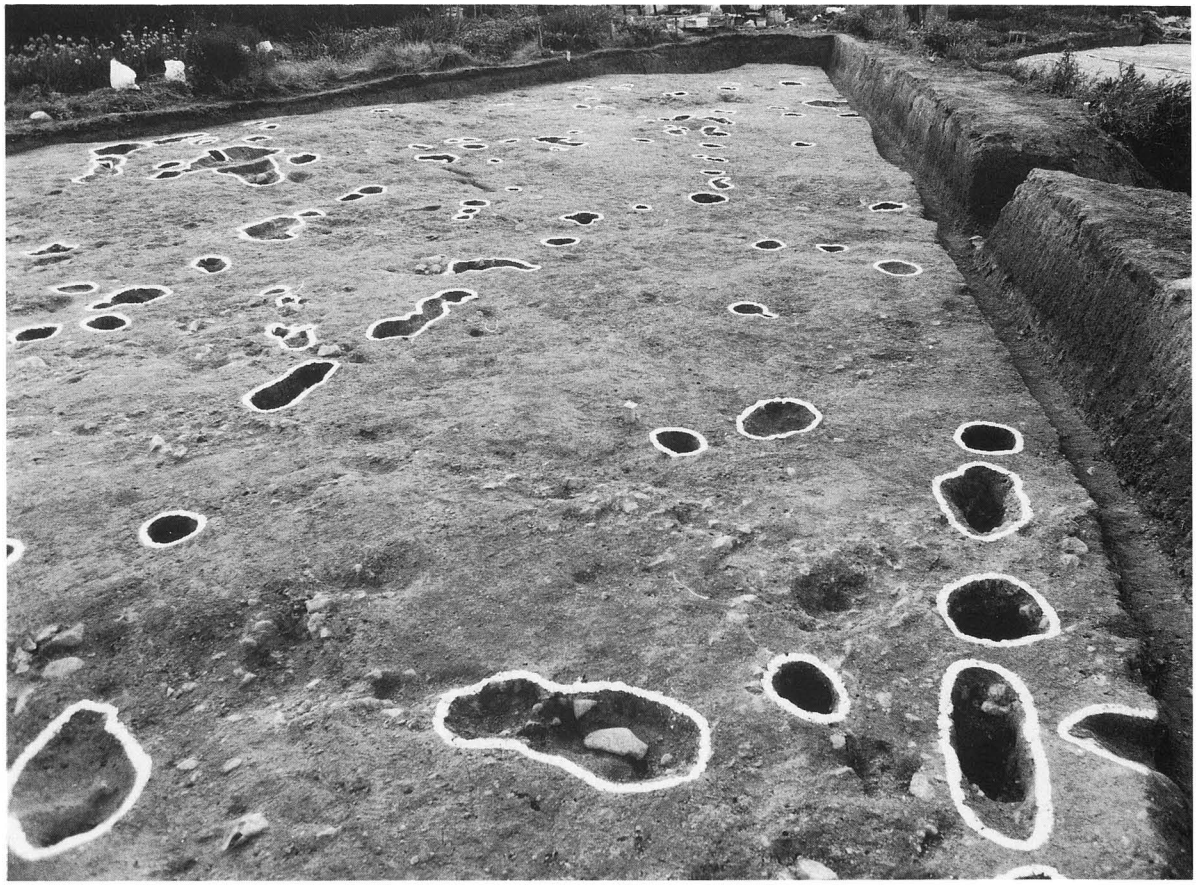


第1・2調査区全景（真上から）

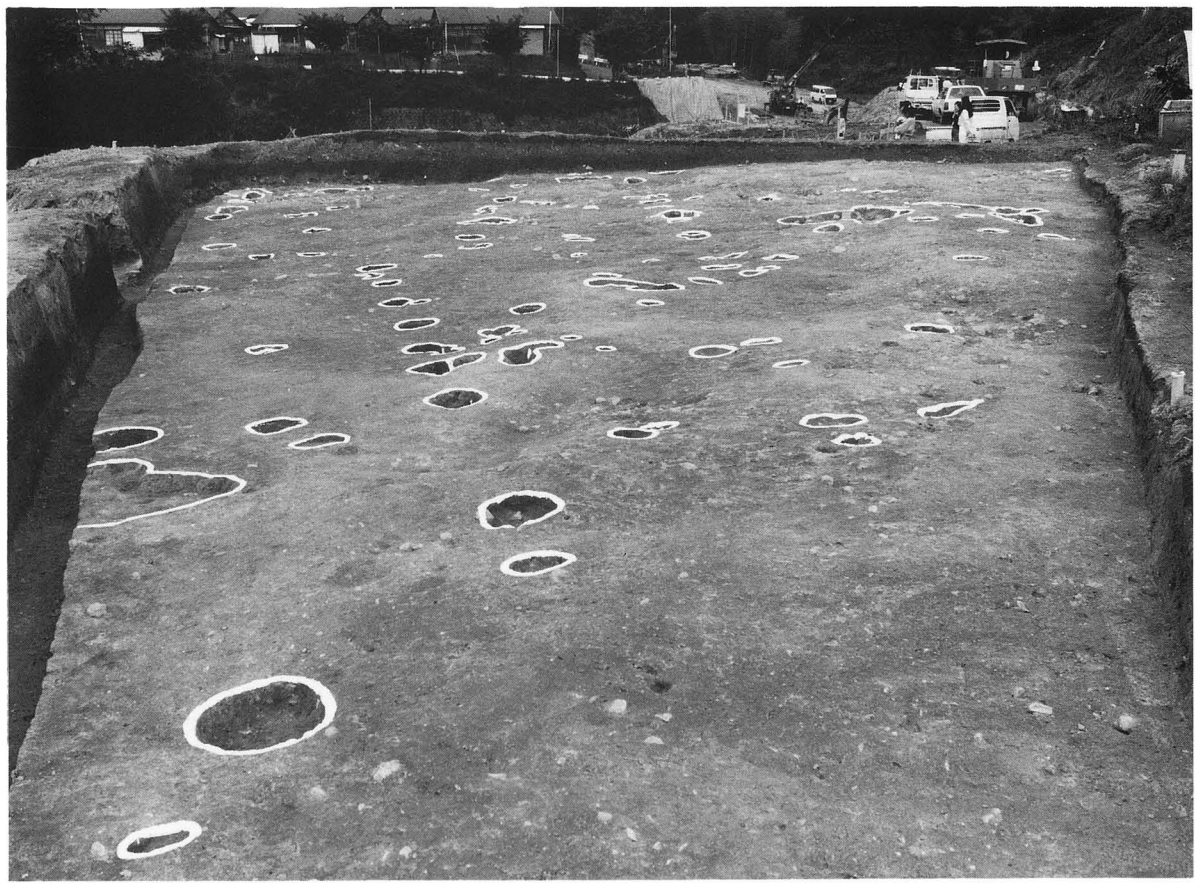


第1調査区全景（北から）

図版2　遺構　ジョウノマエ遺跡（ＪＮＭ88）第1調査区

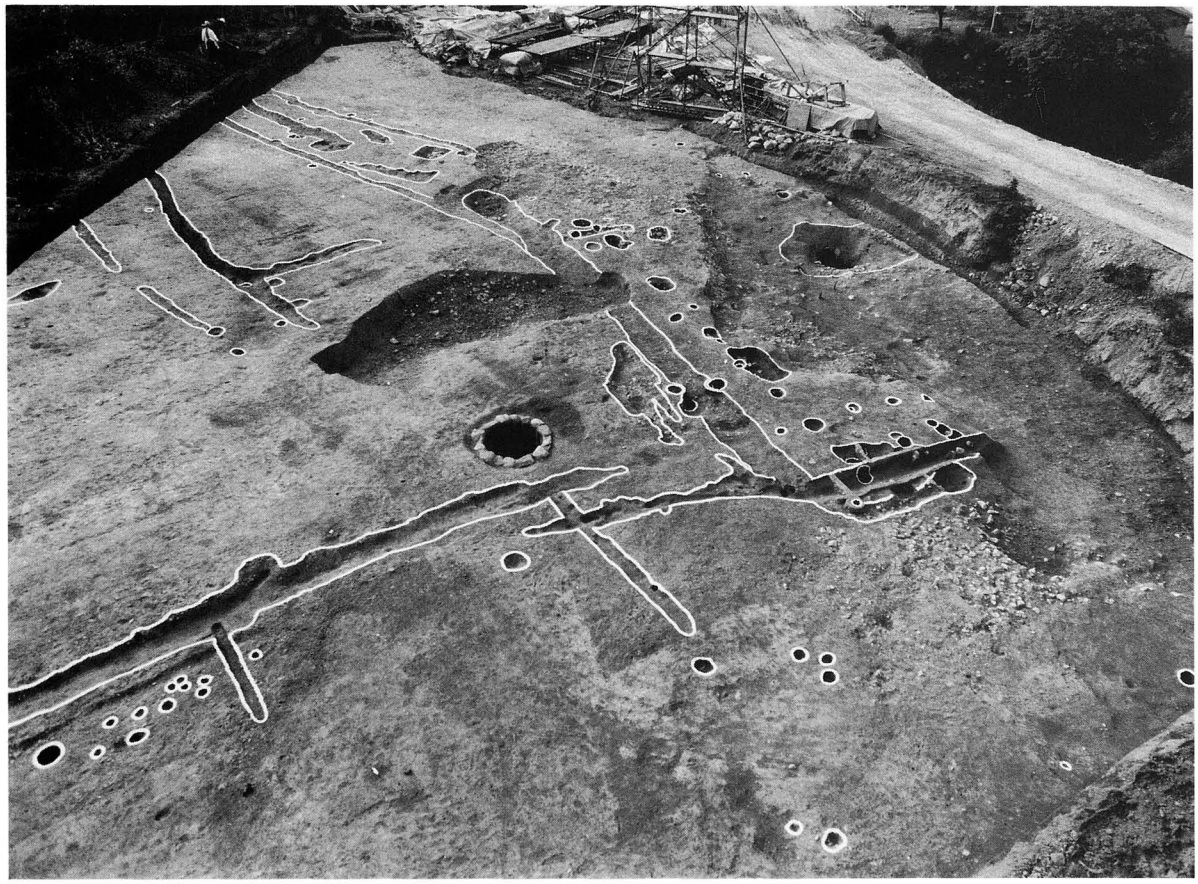


全景（南から）



ＳＢ１（西から）

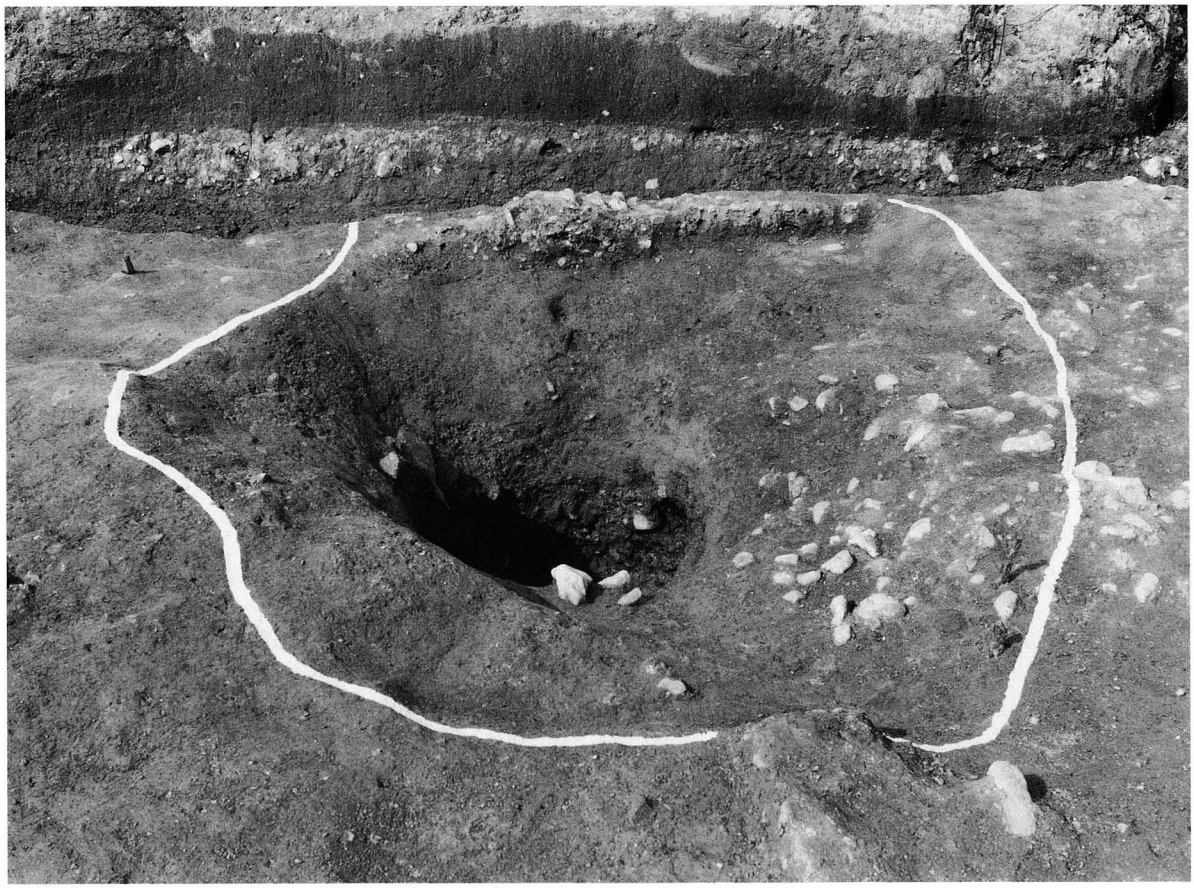
図版3　遺構　ジョウノマエ遺跡（JNM88）第2調査区



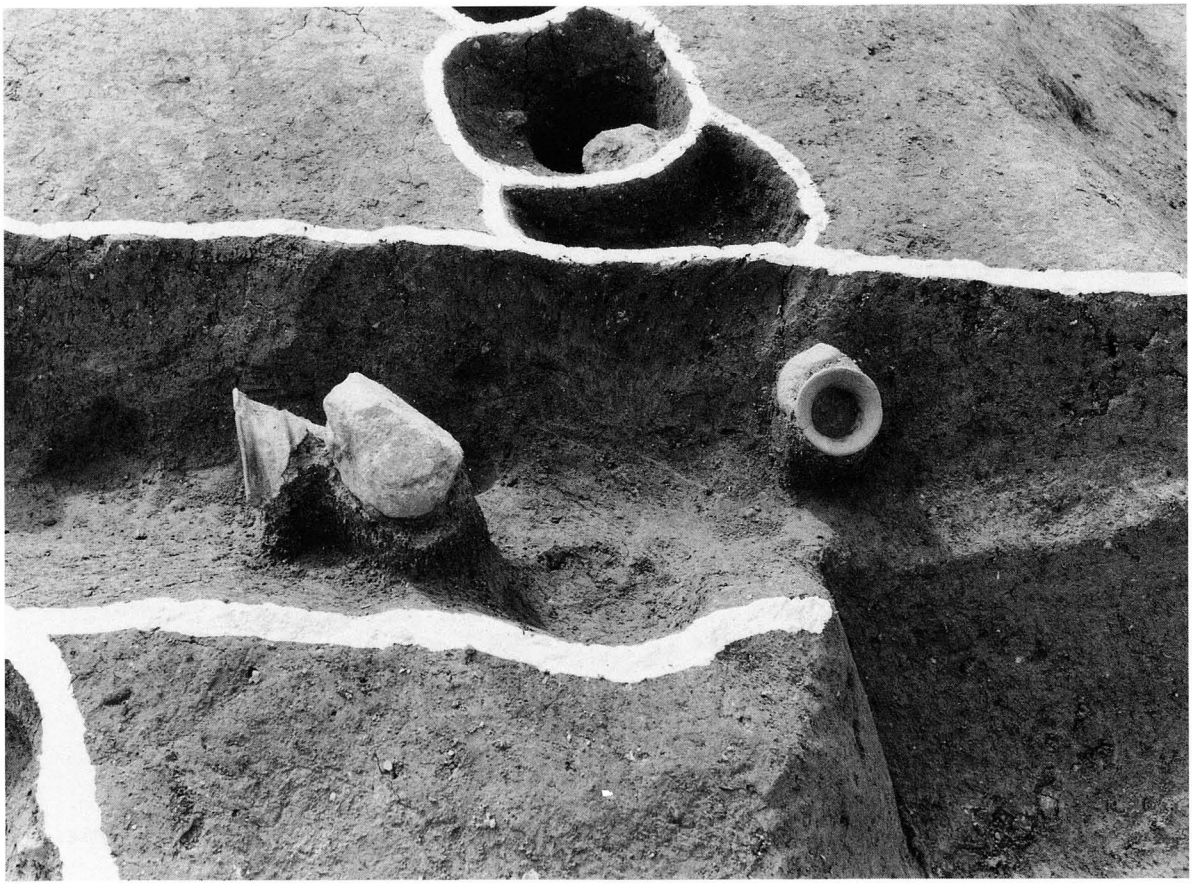
全景（南東から）

全景（西から）

図版4　遺構　ジョウノマエ遺跡（JNM88）第2調査区

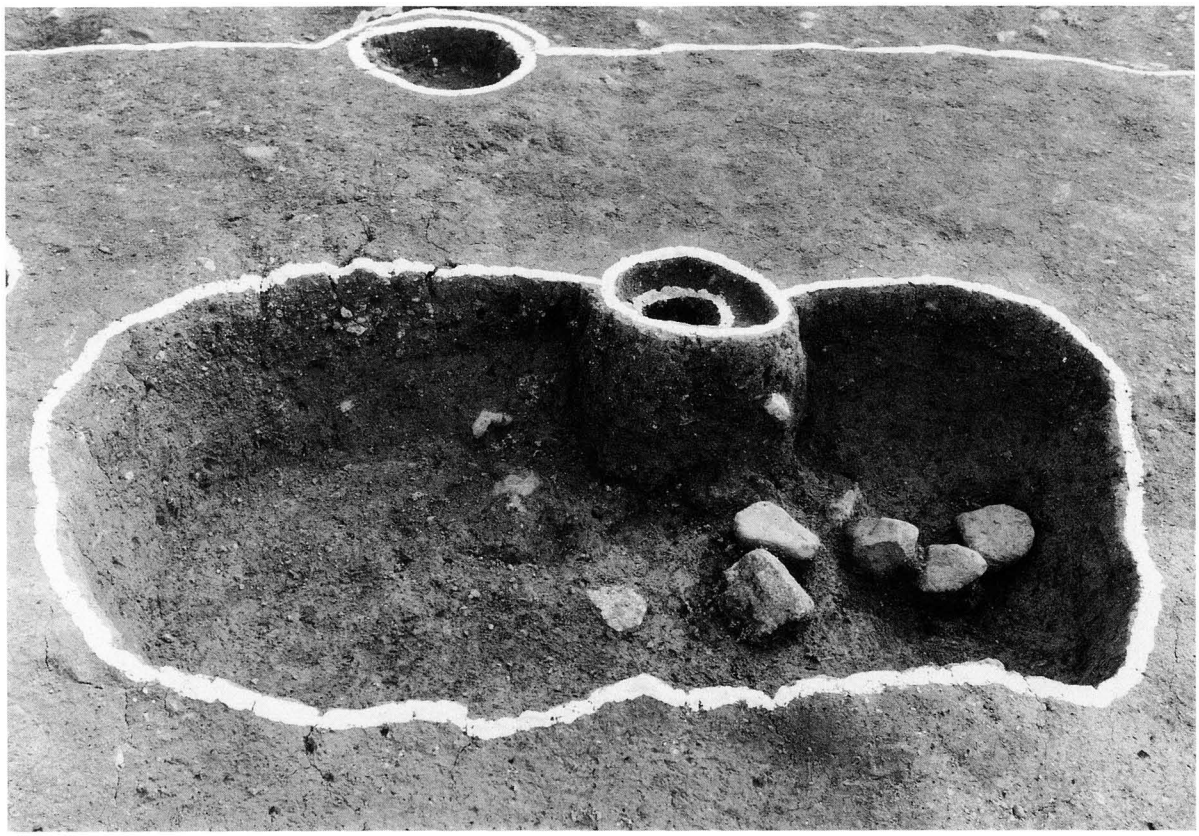


ＳＥ３（西から）

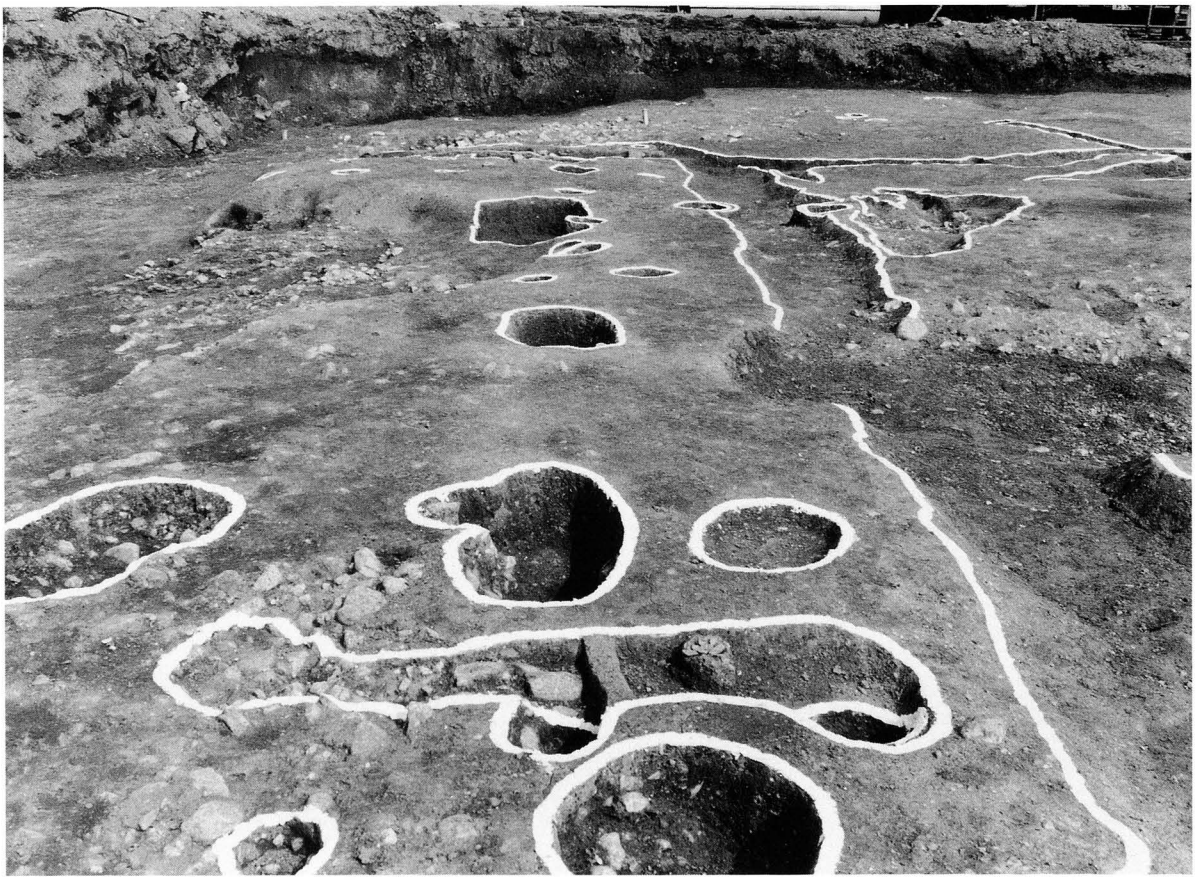


ＳＤ10（北から）

図版5　遺構　ジョウノマエ遺跡（ＪＮＭ88）第2調査区

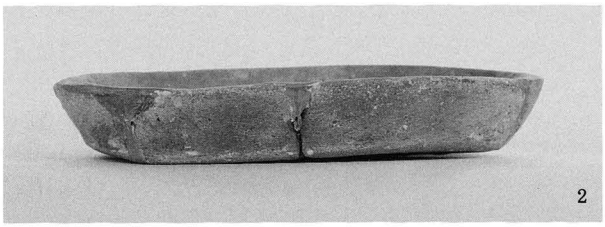


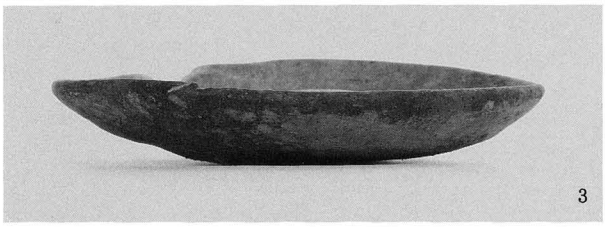
ＳＫ３（北から）

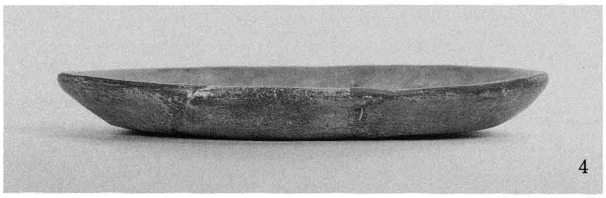


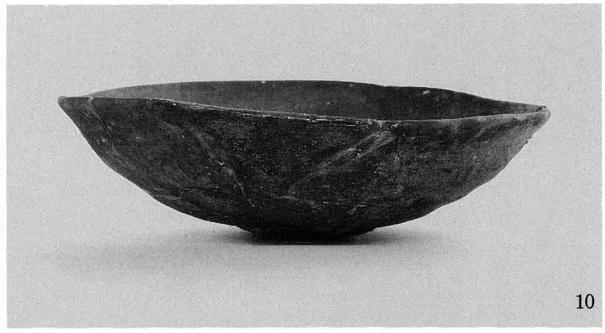
ＳＫ４（西から）

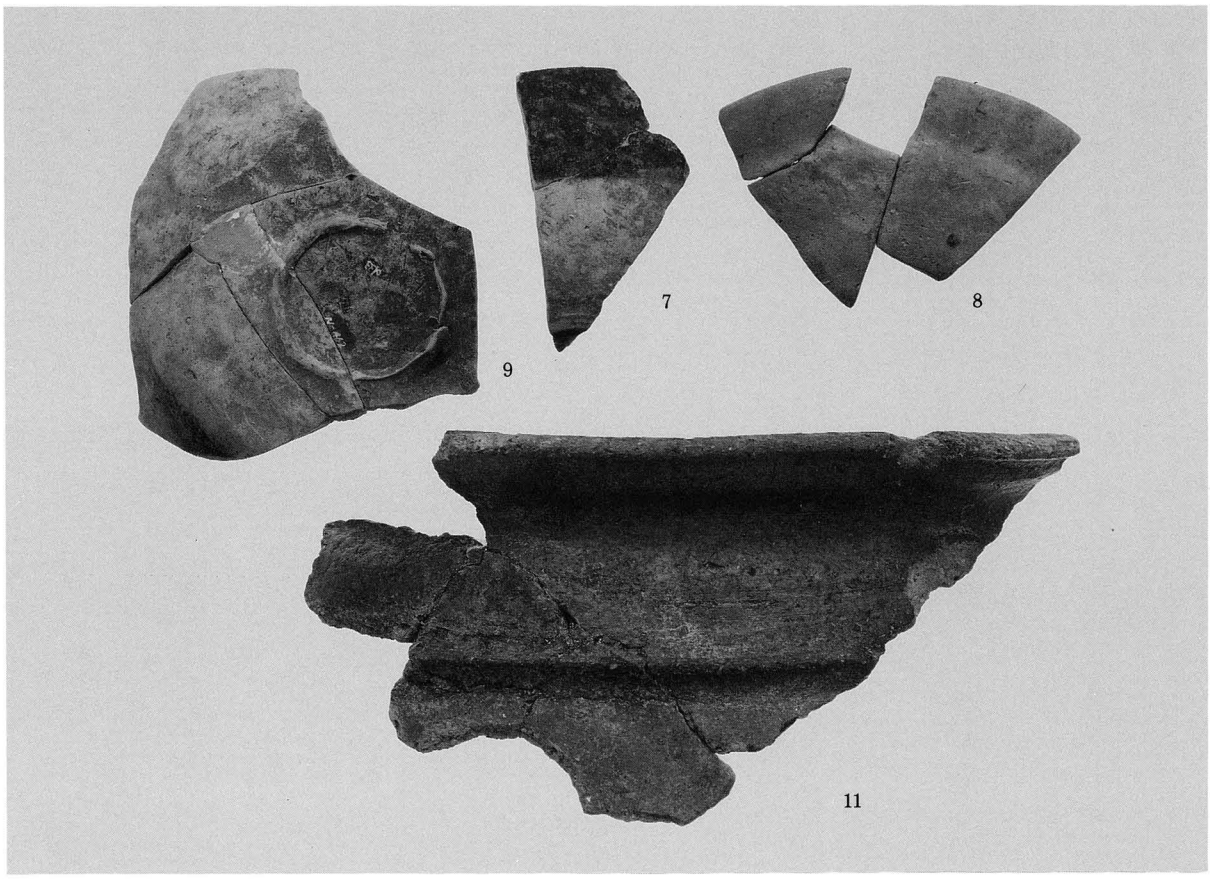
図版6　遺物　ジョウノマエ遺跡（JNM88）第1・2調査区









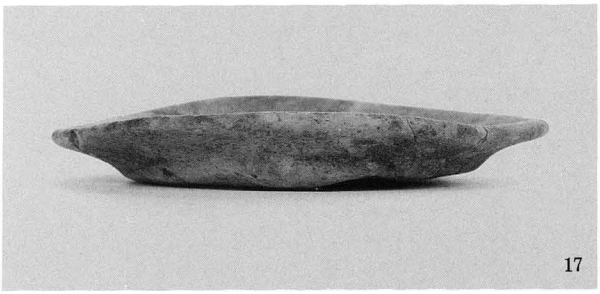


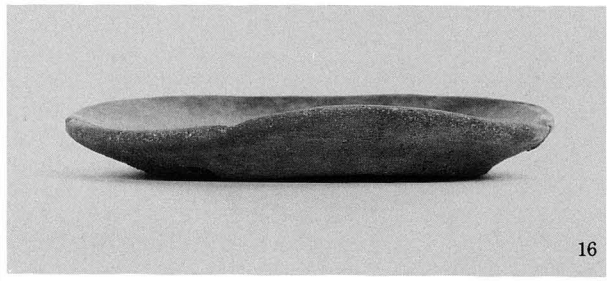
SB（1）、SD8（4）、SD9（2・6）、SD10（3・5・7～11）

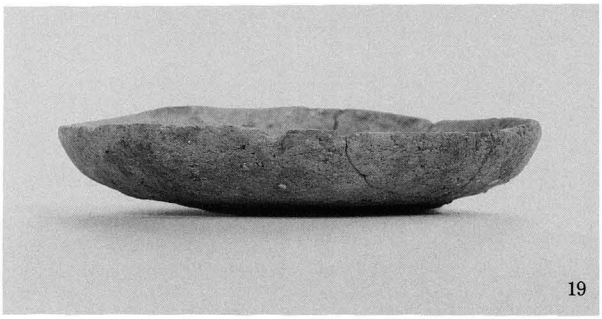
図版7　遺物　ジョウノマエ遺跡（ＪＮＭ88）第1・2調査区

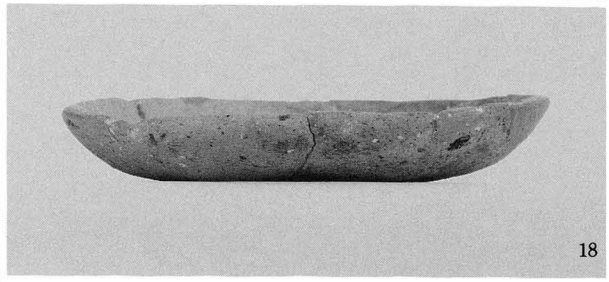
13

12


17

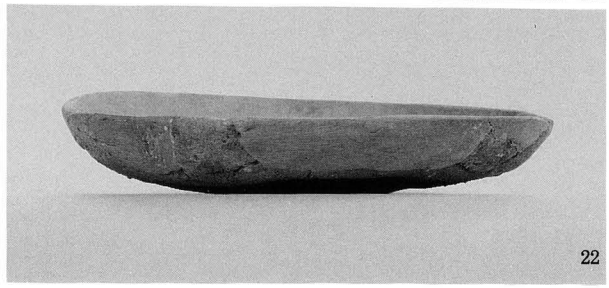

16

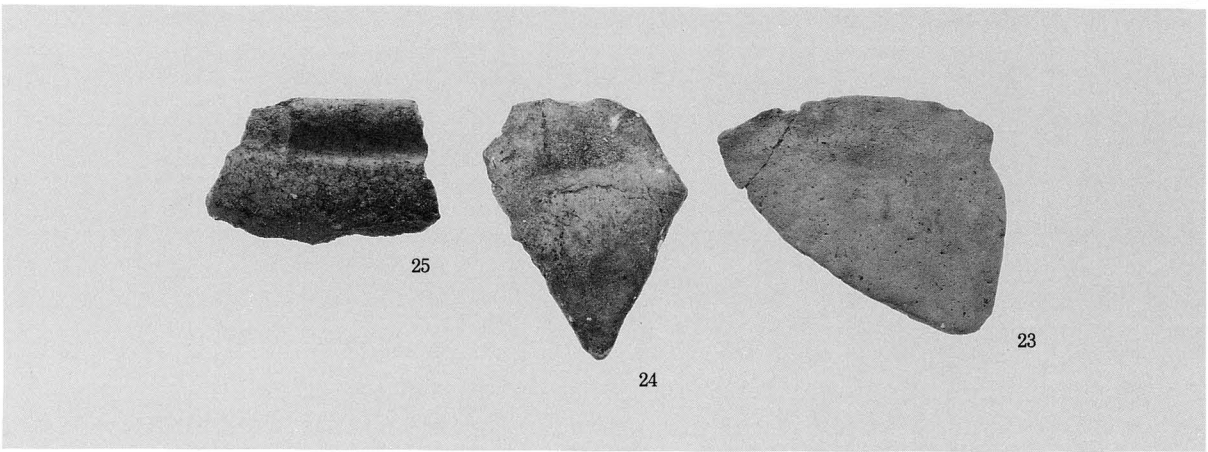

19


18

20

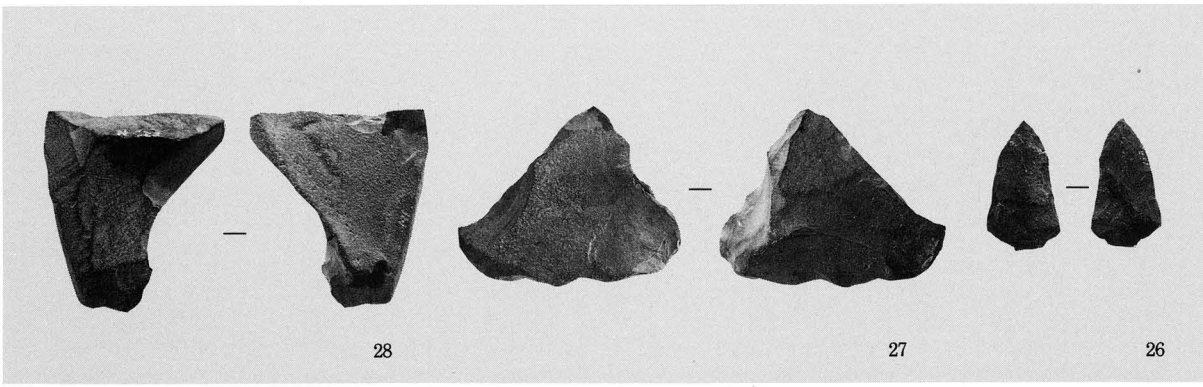
21

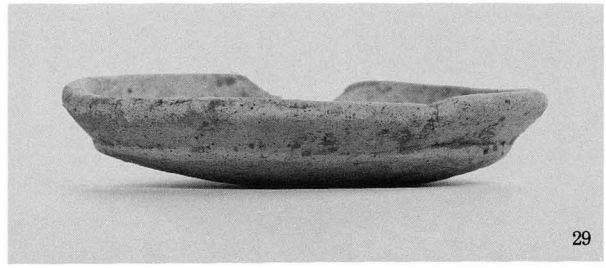

22

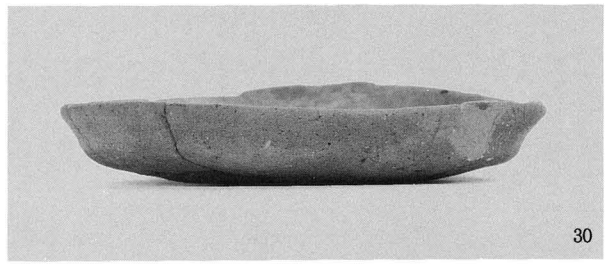

25
24
23

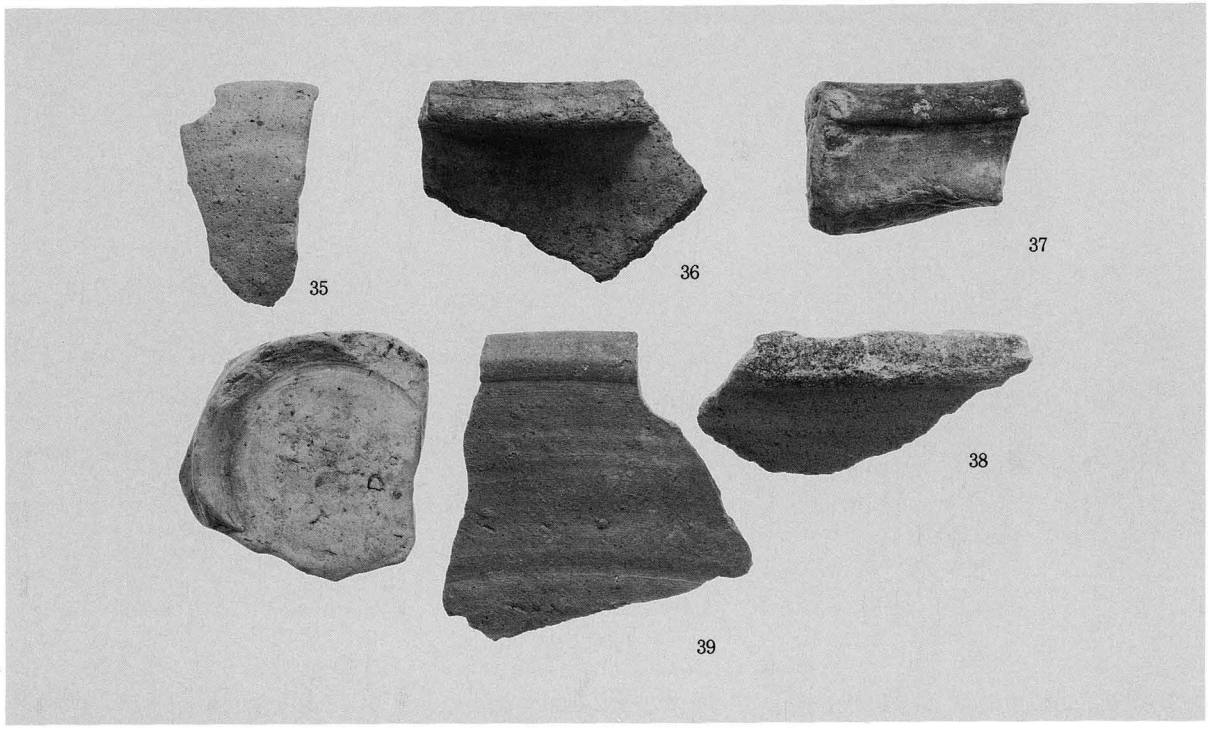
ＳＥ３（12・13）、ＳＫ４（16）、ＳＫ５（17）、ＳＰ２（23）、ＳＰ３（24）、ＳＰ４（18）、ＳＰ５（25）
ＳＰ６（19～22）

図版8　遺物　ジョウノマエ遺跡（JNM88）第1・2調査区





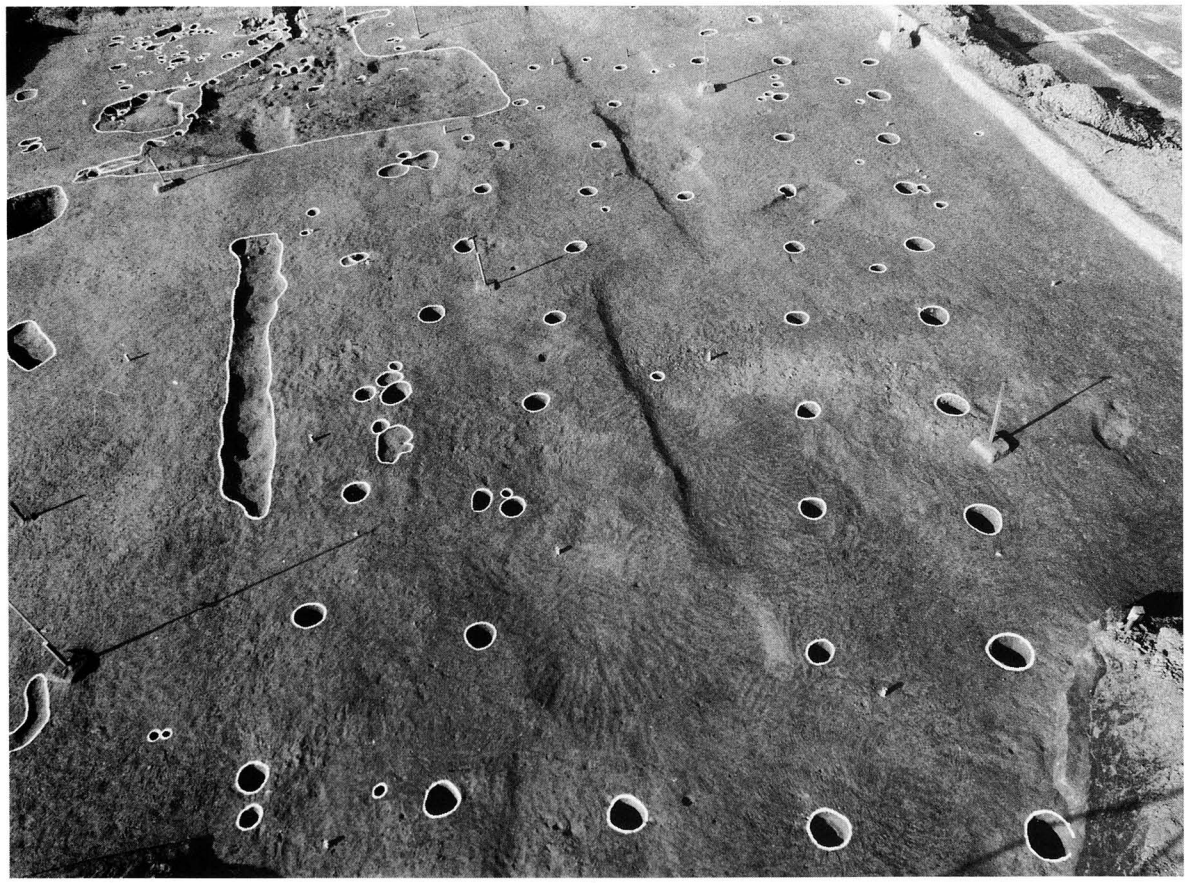




包含層（26～33・35～39）

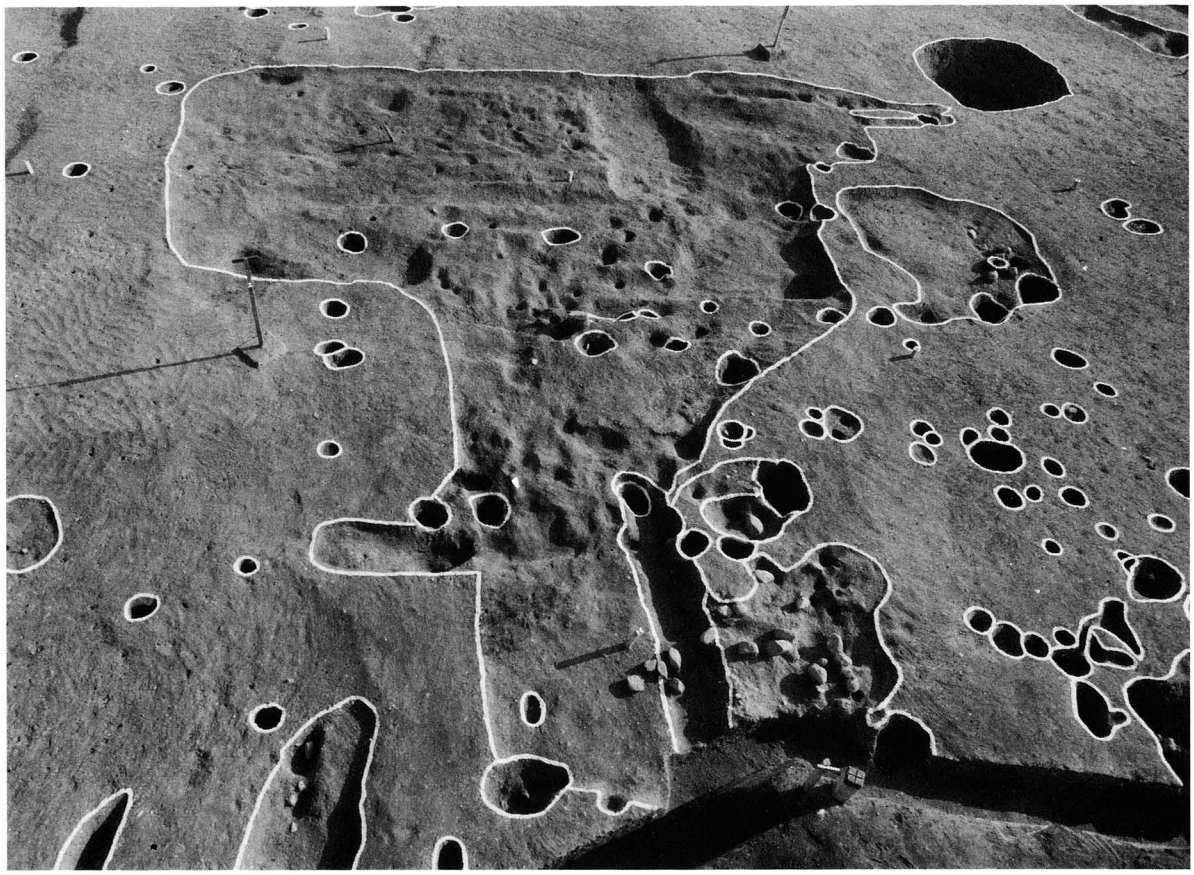
図版9　遺構　尾崎遺跡（OSK87）

全景（北から）



SB1（南から）

図版10　遺構　尾崎遺跡（ＯＳＫ87）

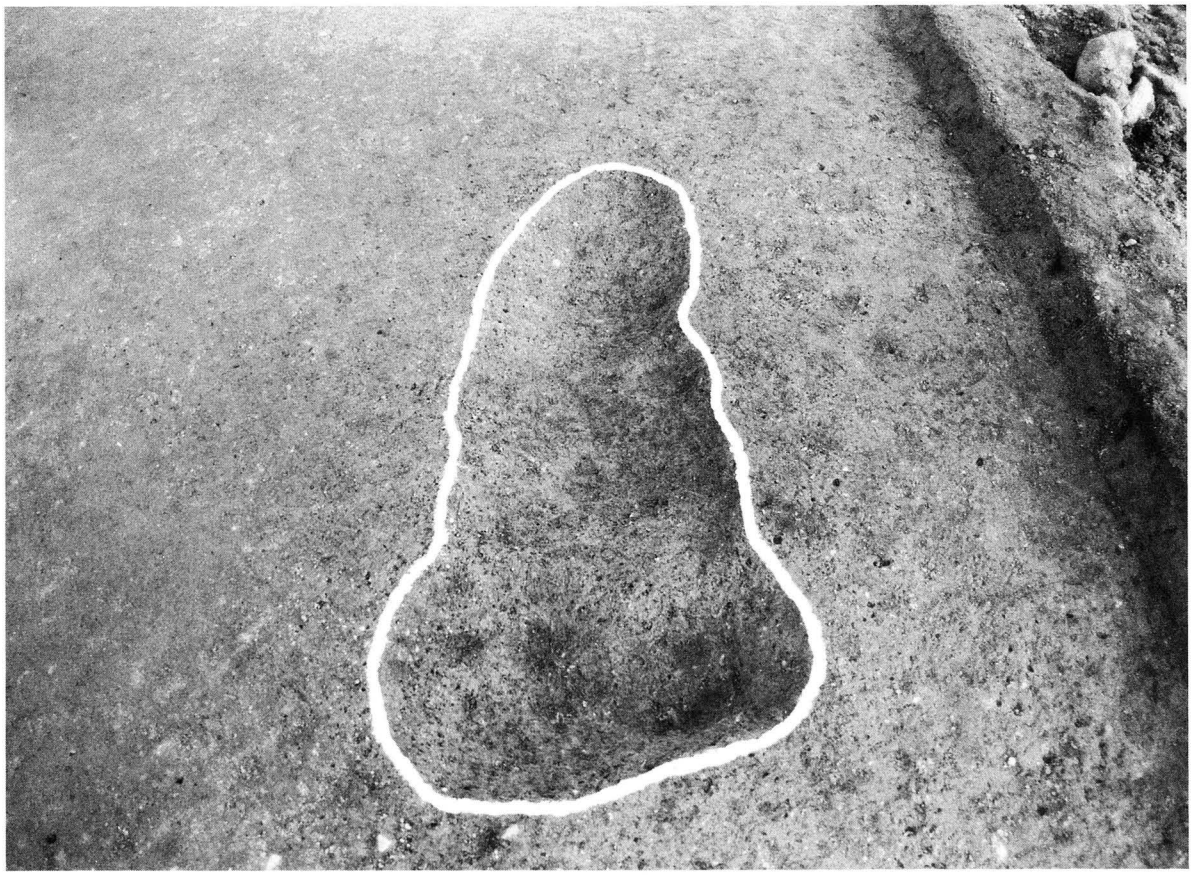


ＳＢ２～４、ＳＸ１（北から）

ＳＤ２（北西から）

図版11　遺構　尾崎遺跡（ＯＳＫ87）

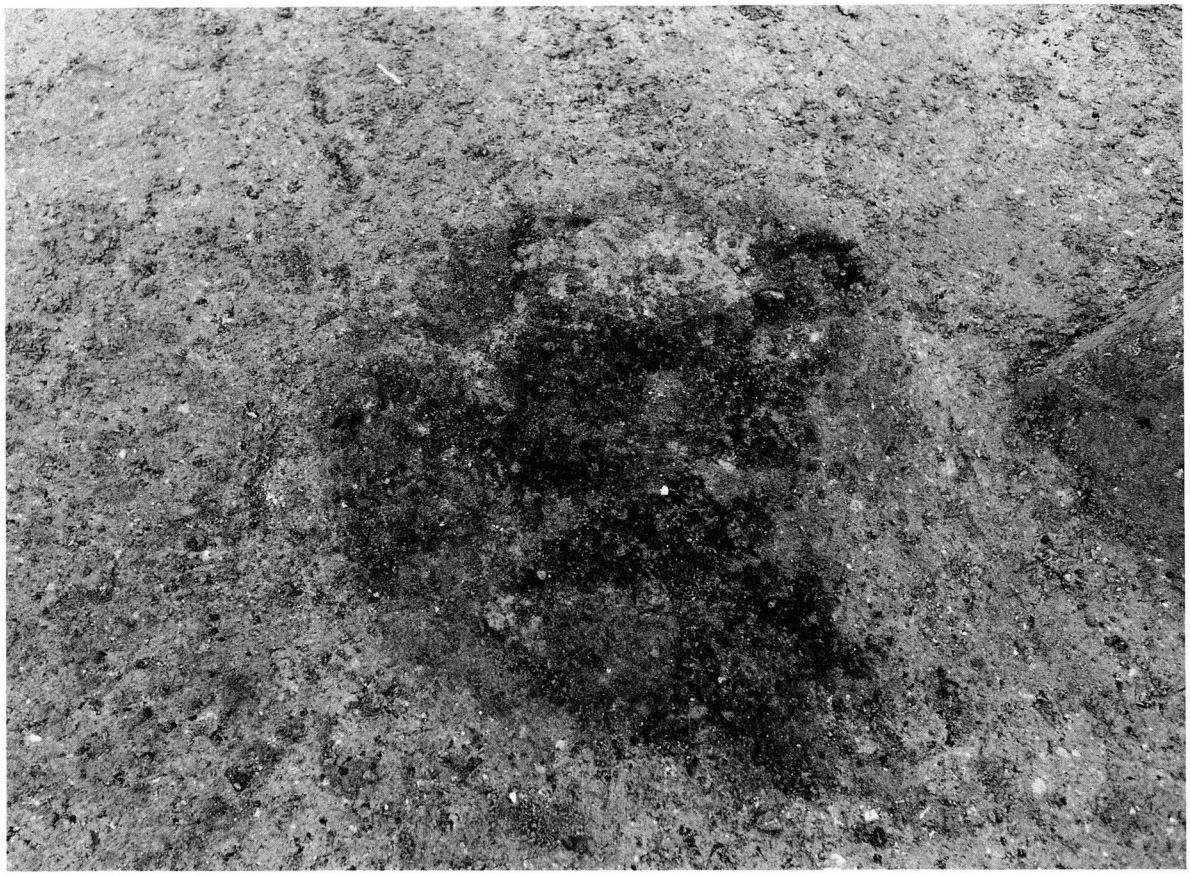
ＳＥ１（北から）



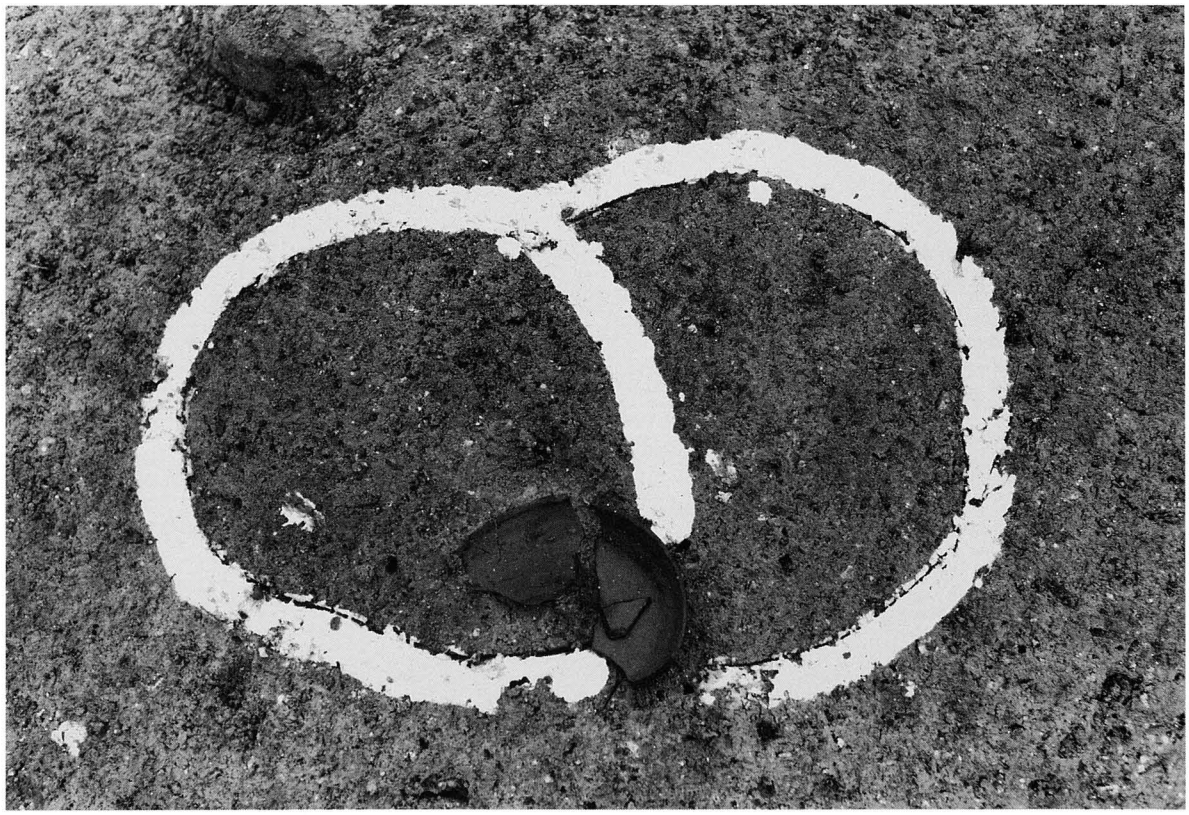
ＳＫ１（北から）

図版12　遺構　尾崎遺跡（OSK87）

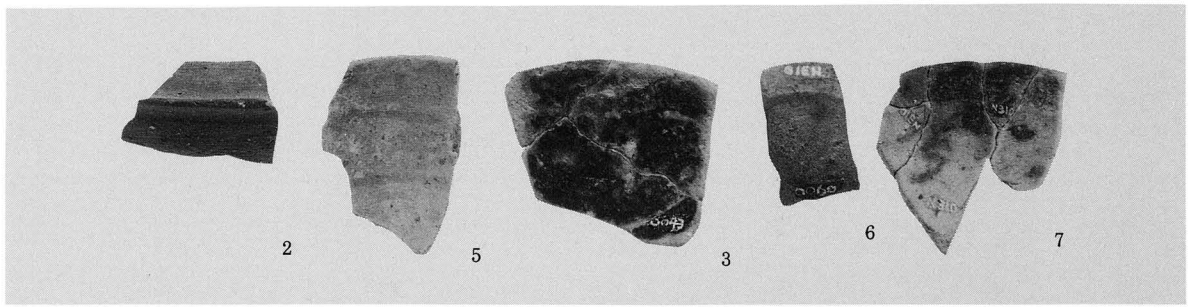
SK2（西から）



SK3

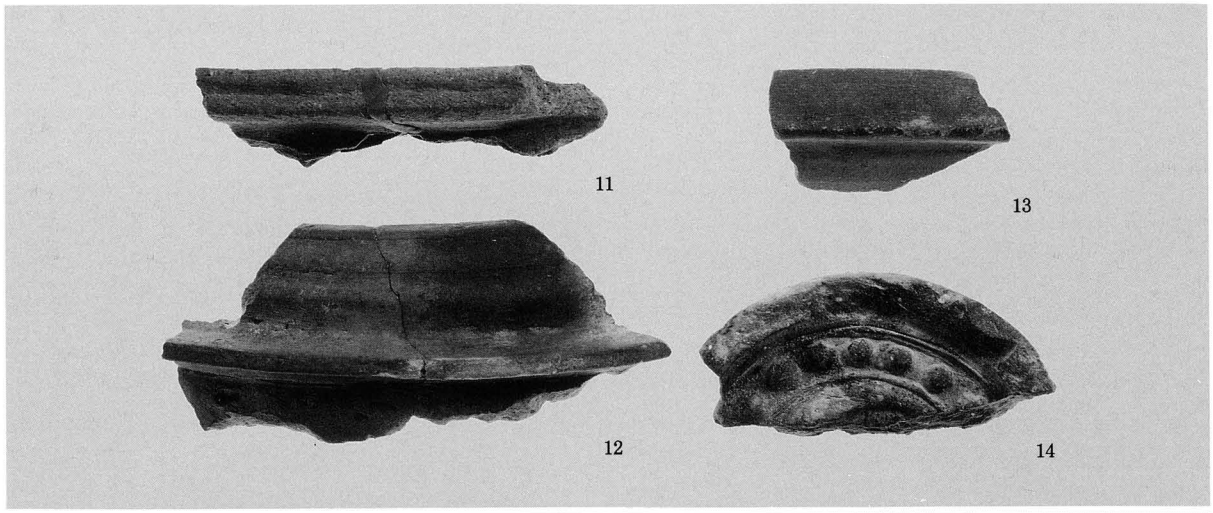


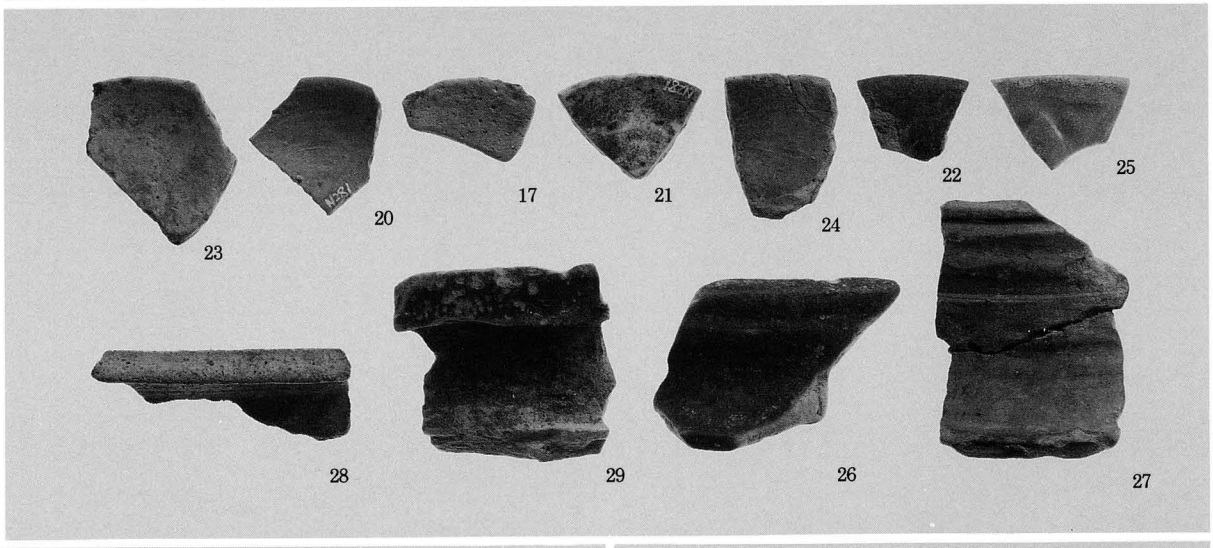
ＳＰ１（西から）

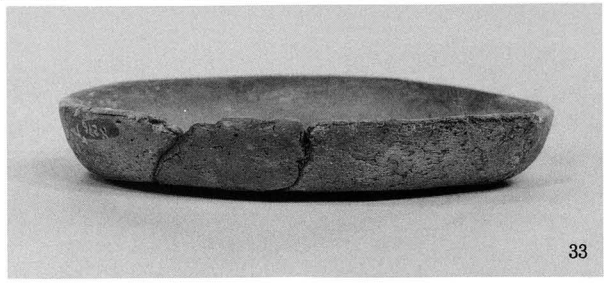


ＳＢ１（１・２）、ＳＢ３（３～５）、ＳＤ４（６・７）、ＳＥ１（８～10）

図版14　遺物　尾崎遺跡（ＯＳＫ87）

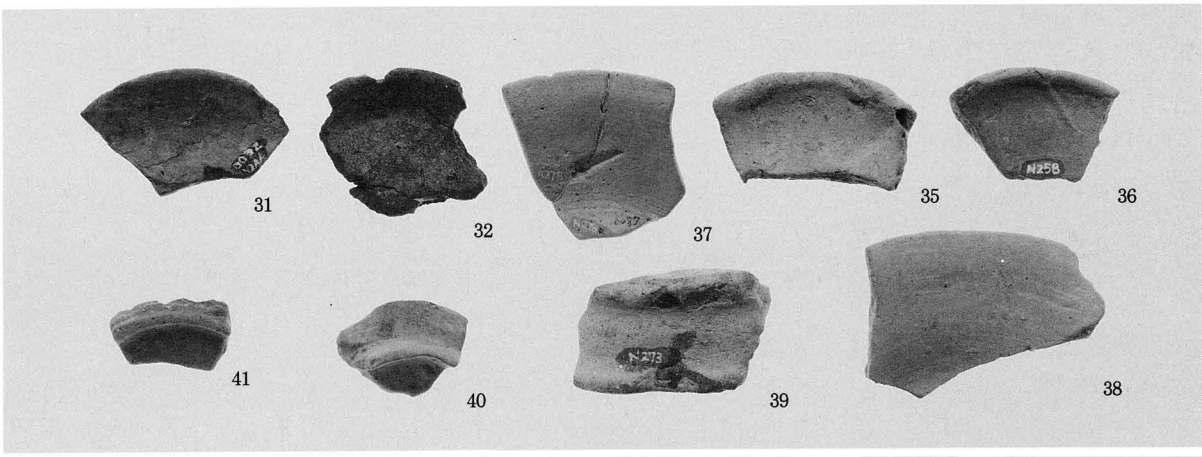


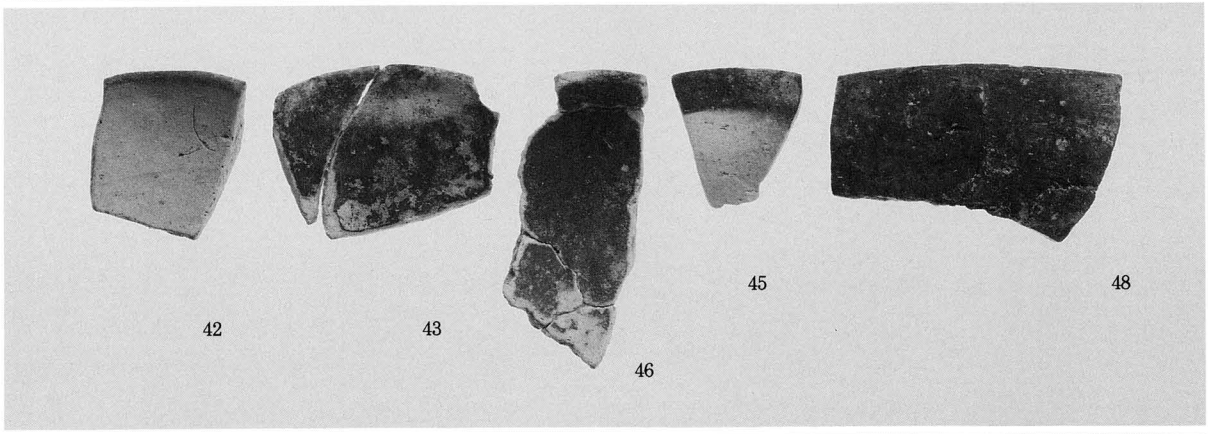


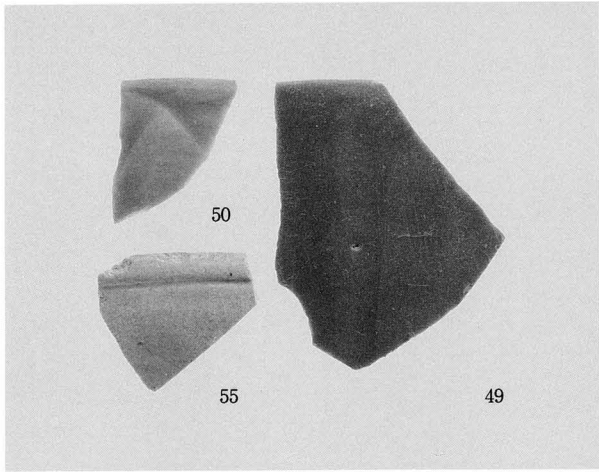


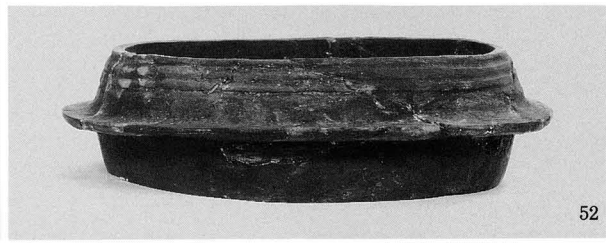
ＳＥ１（11～14）、ＳＰ１（15）、ＳＸ１（16～29）、包含層（30・33）

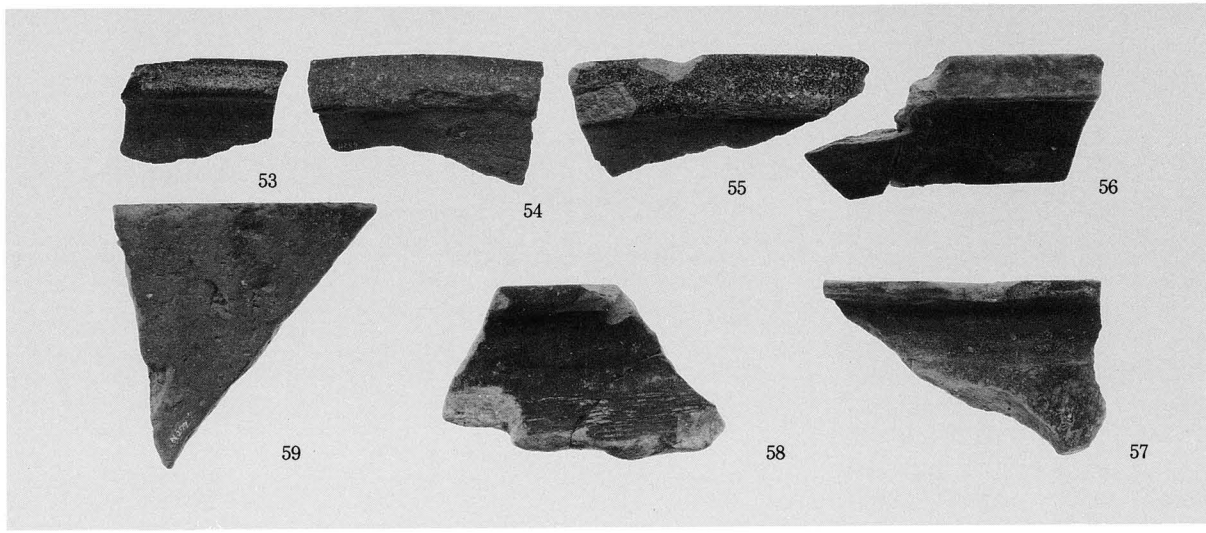
図版15　遺物　尾崎遺跡（OSK87）











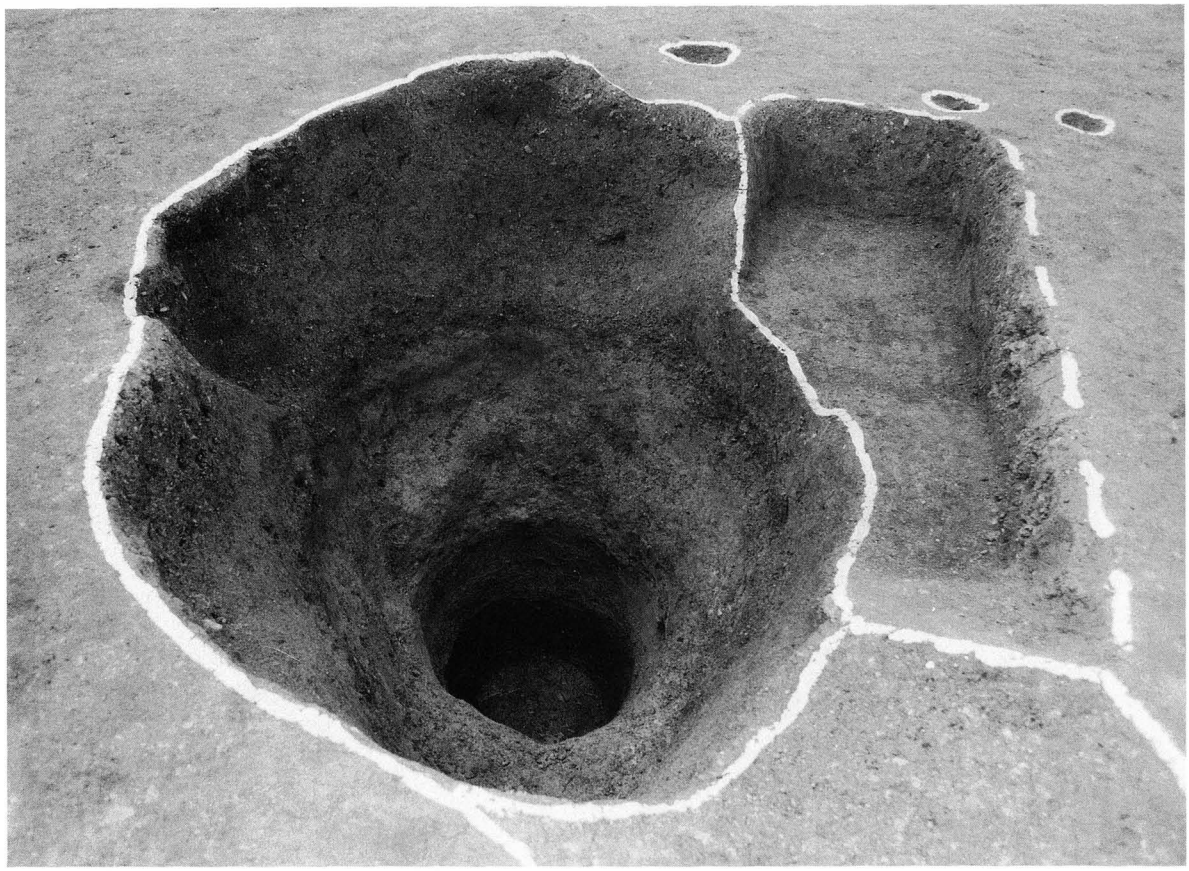
包含層（31・32・35～46・48～50・52～59）

図版16　遺構　尾崎遺跡（OSK93－1）

全景（西から）

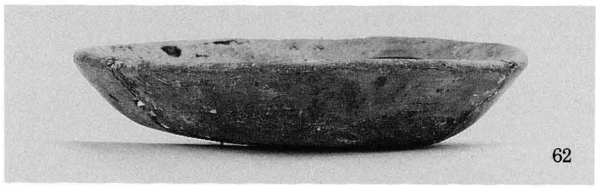
図版17　遺構　尾崎遺跡（ＯＳＫ93－１）

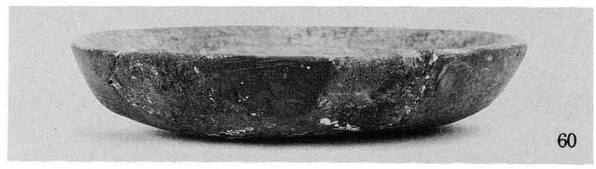
ＳＤ３・６・７、ＳＥ２、ＳＫ７・９（東から）

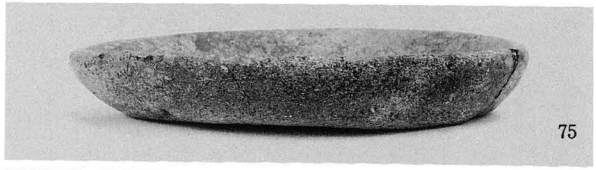


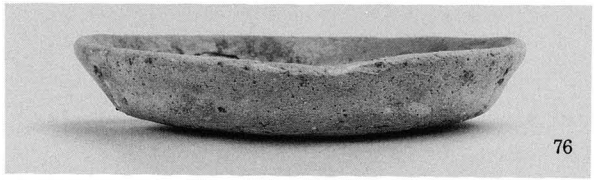
ＳＥ２（南から）

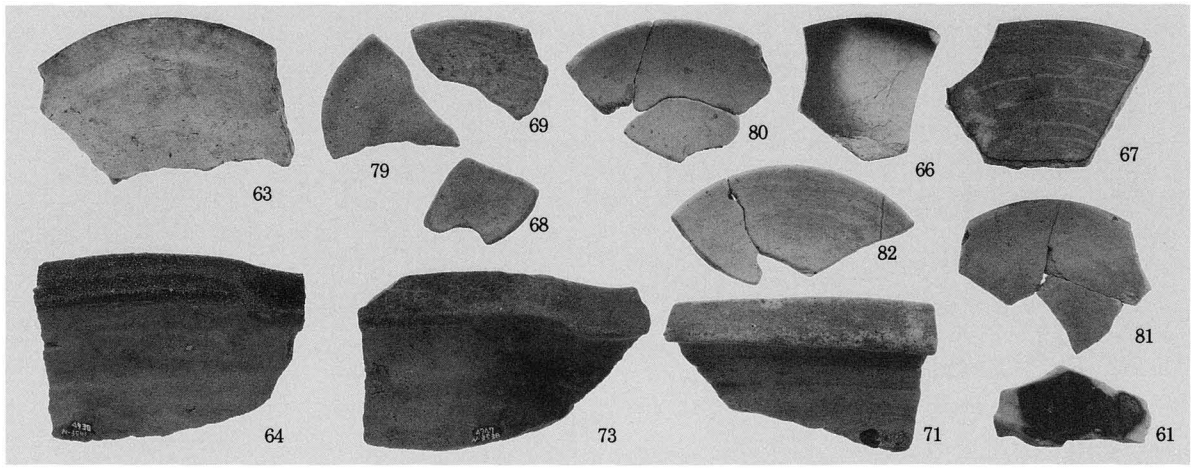
図版18　遺構・遺物　尾崎遺跡（ＯＳＫ93－1）





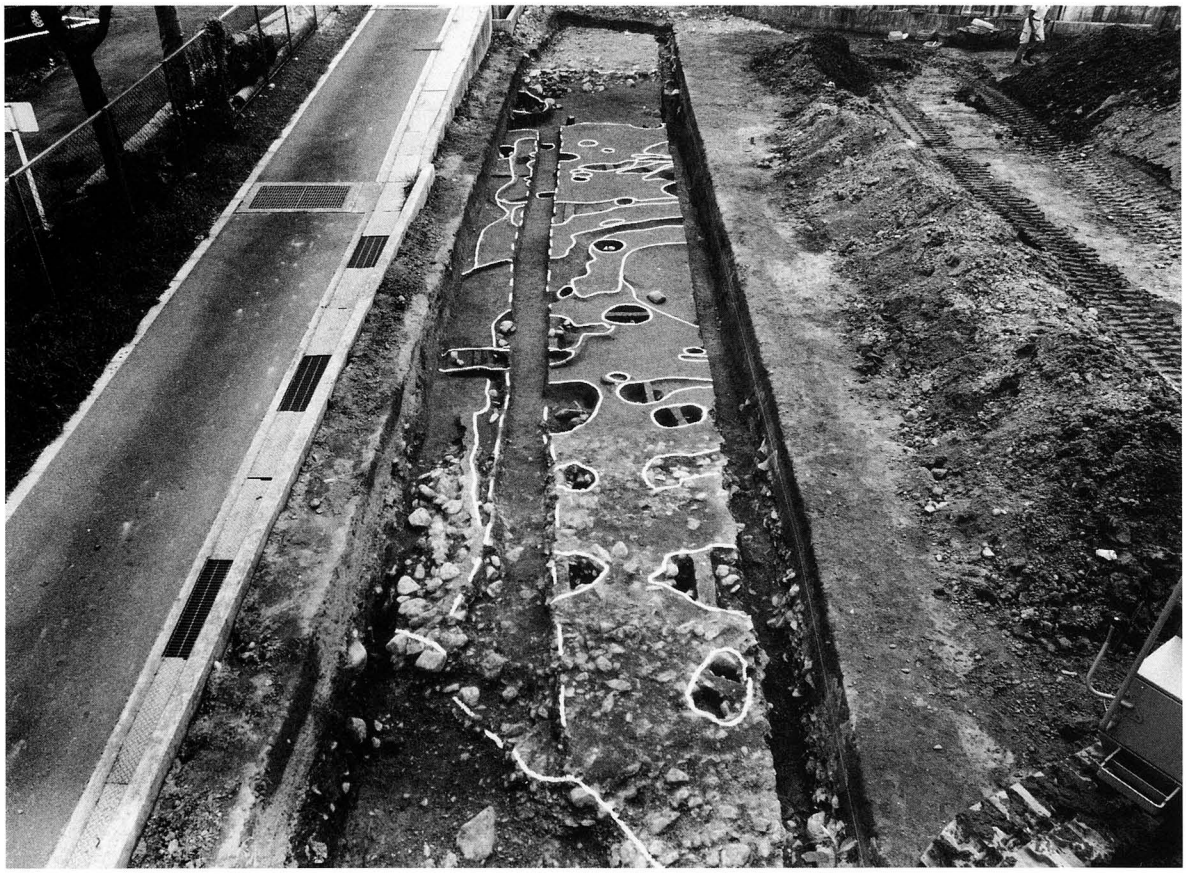




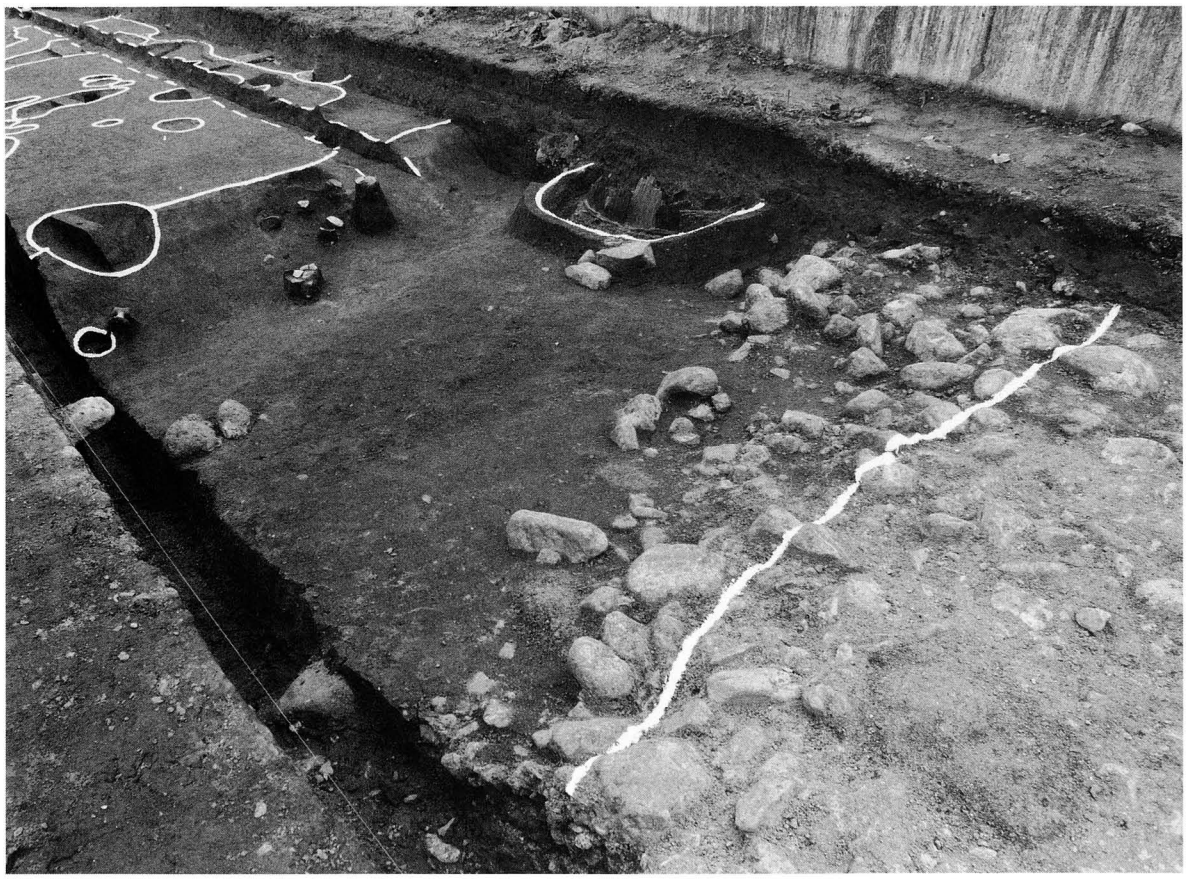


ＳＤ18（東から）、ＳＤ３（60）、ＳＤ19（61）、ＳＥ２（62～67）、ＳＫ５（68・69・71・73）
包含層（74～76・79～84）

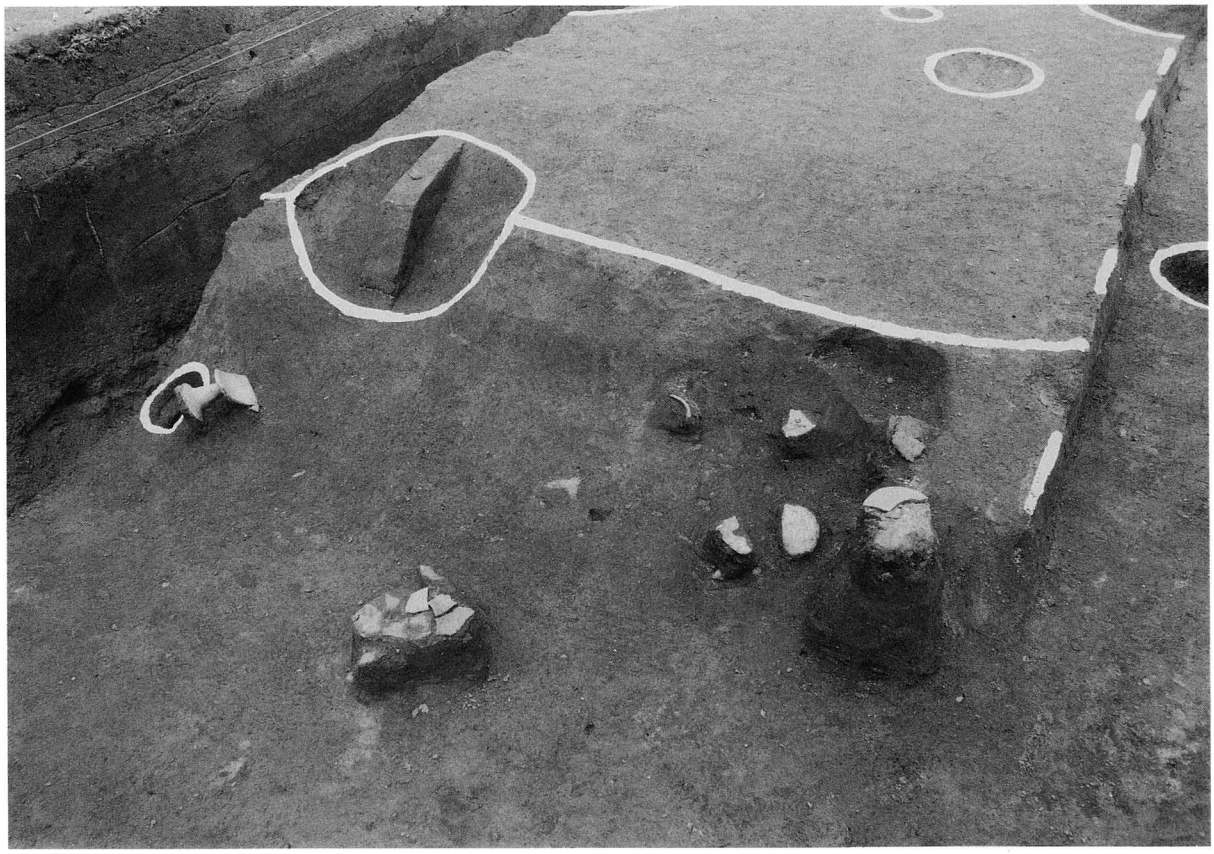
図版19　遺構　尾崎北遺跡（ＯＳＮ93－１）



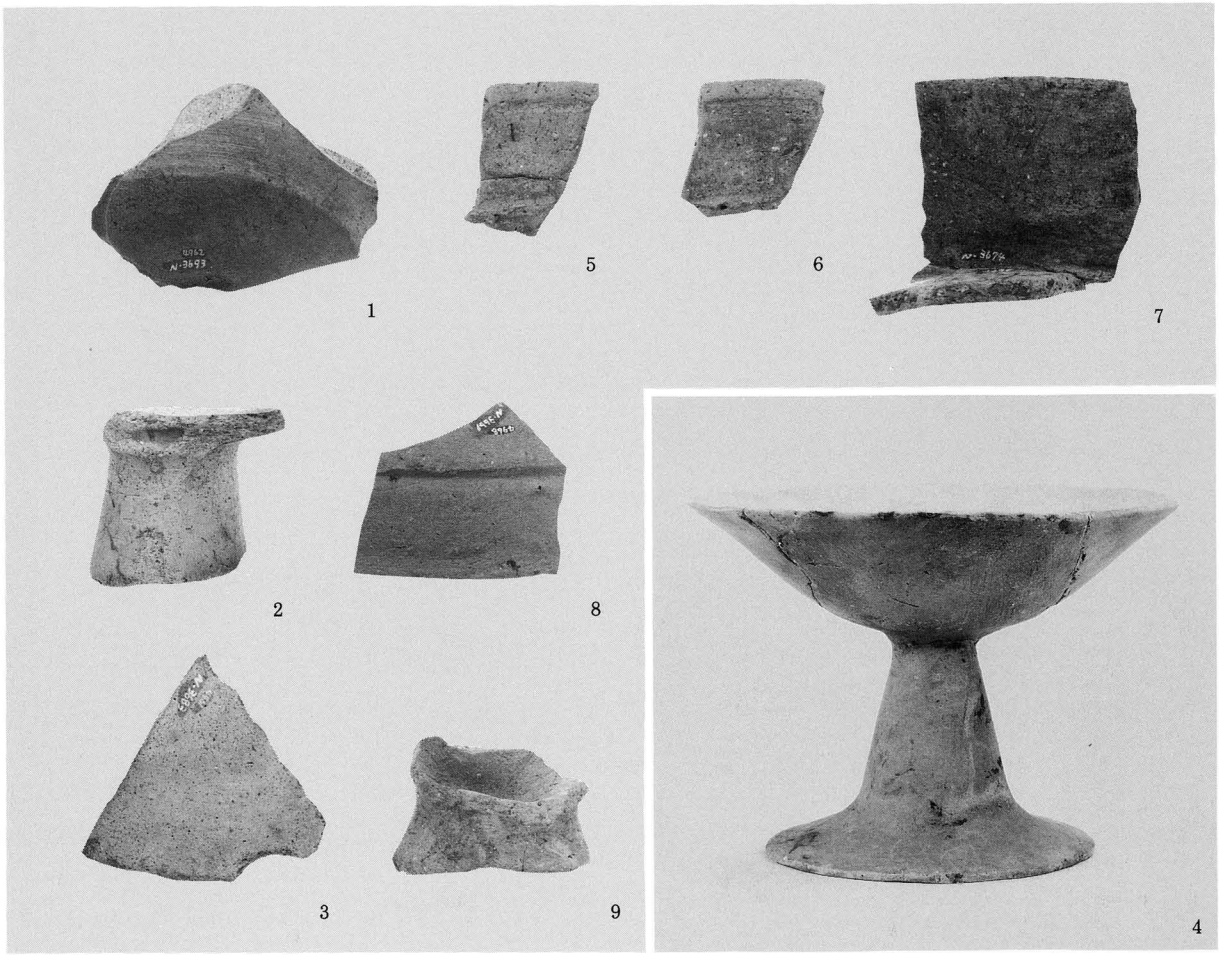
全景（北から）



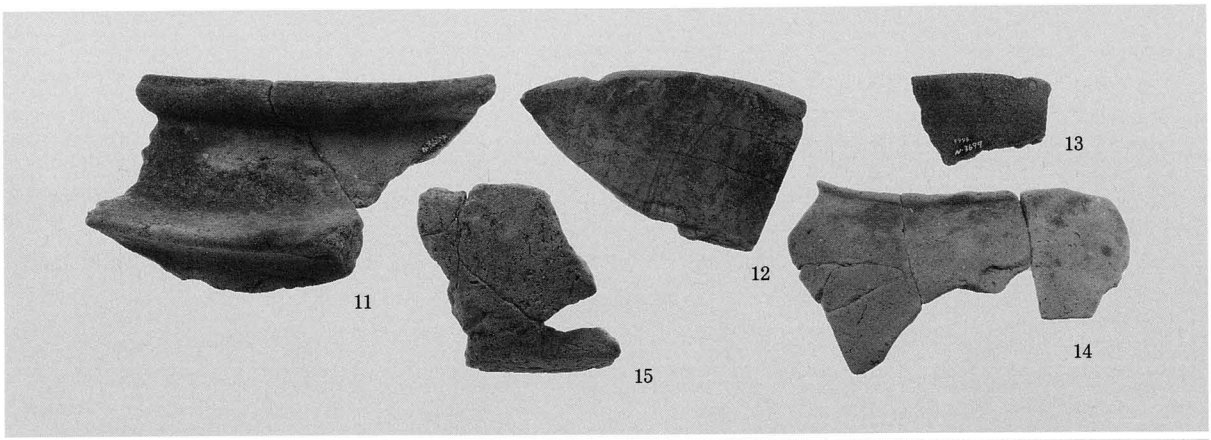
ＳＤ１（南から）

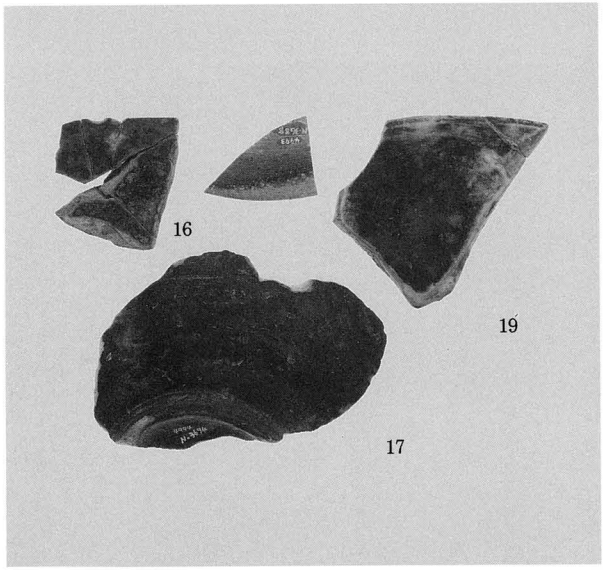


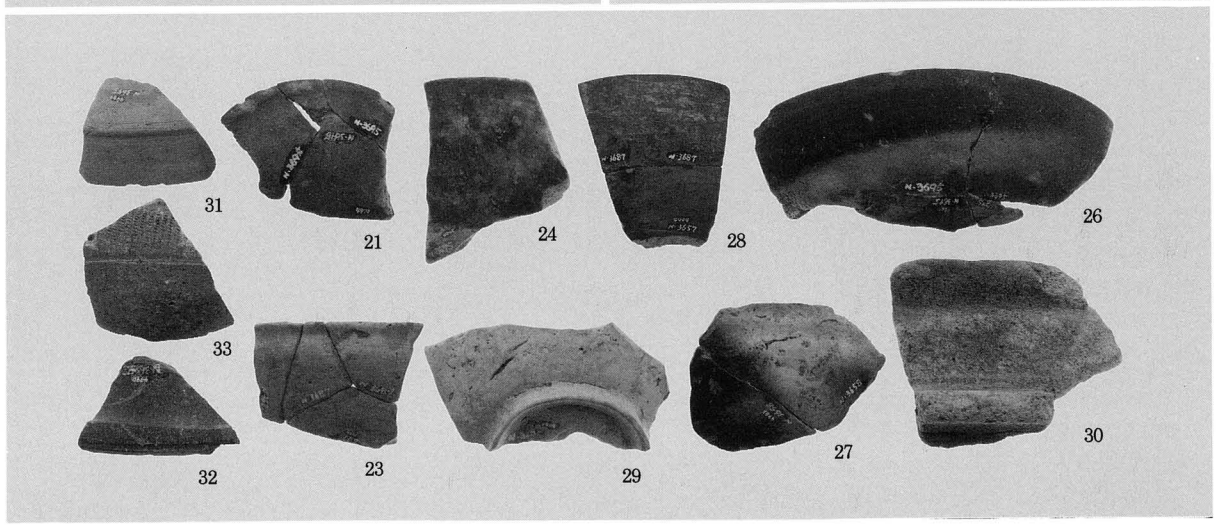
ＳＤ１遺物出土状況（南から）



ＳＤ１（1～9）

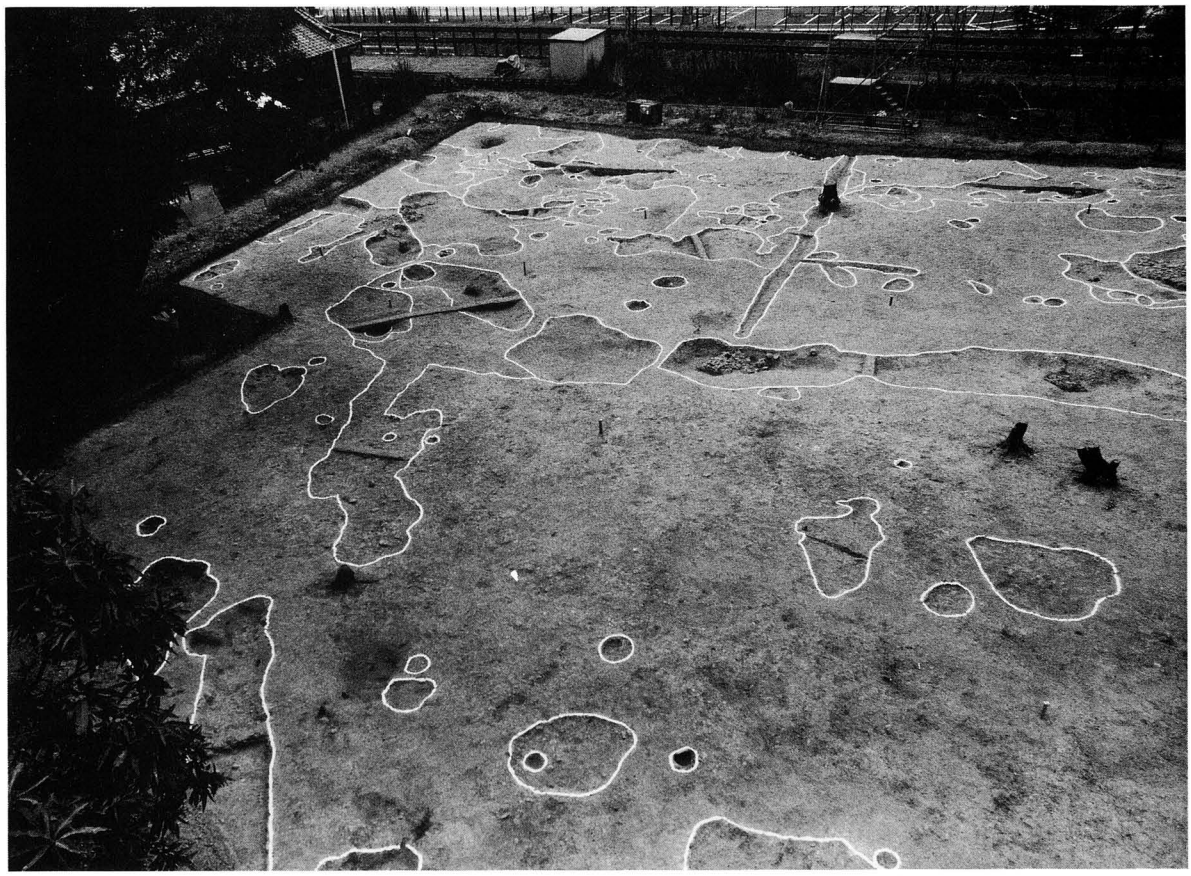




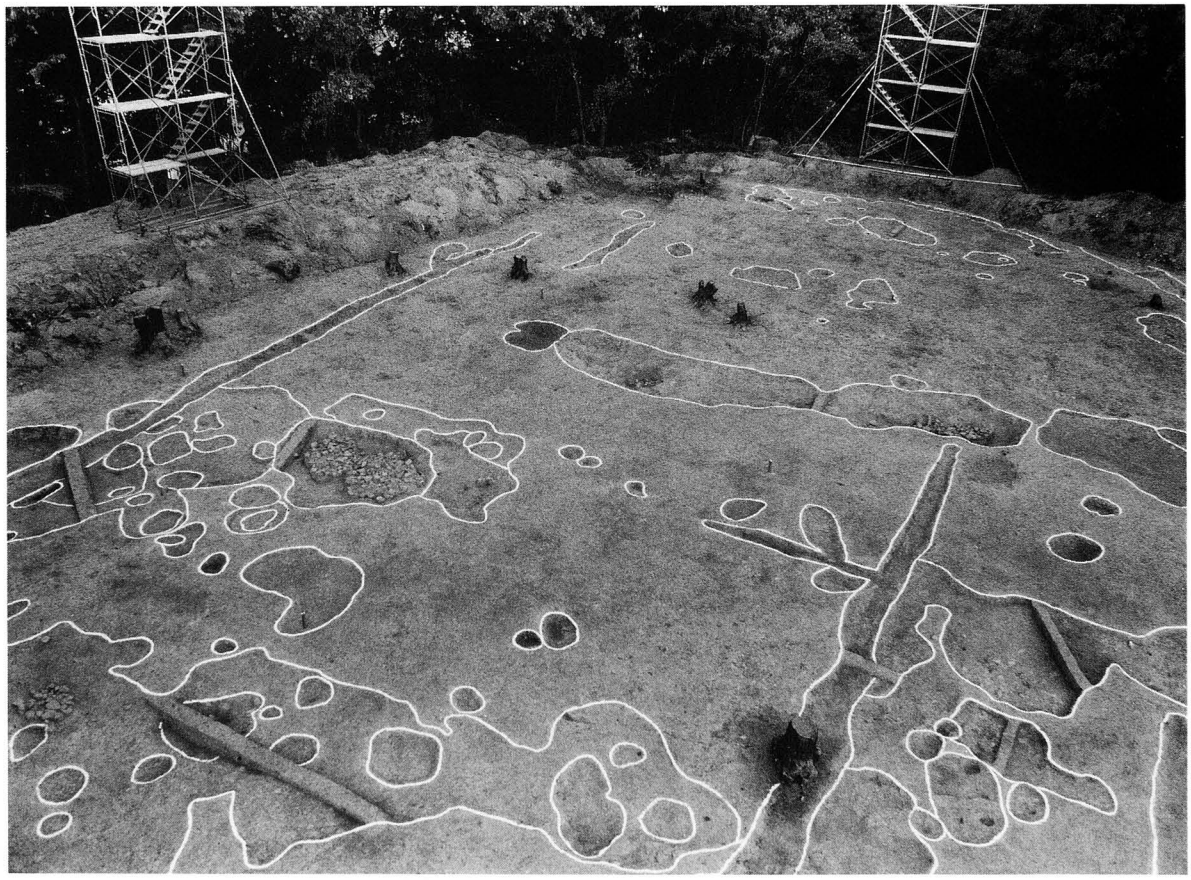


ＳＤ２（10・11）、ＳＫ１（12～15）、ＳＫ２（16）、ＳＫ３（17）、ＳＰ１（18～20）
ＮＲ１（21～24・26～30）、包含層（31～33）

図版22　遺構　菱子尻遺跡（HKS90－2）

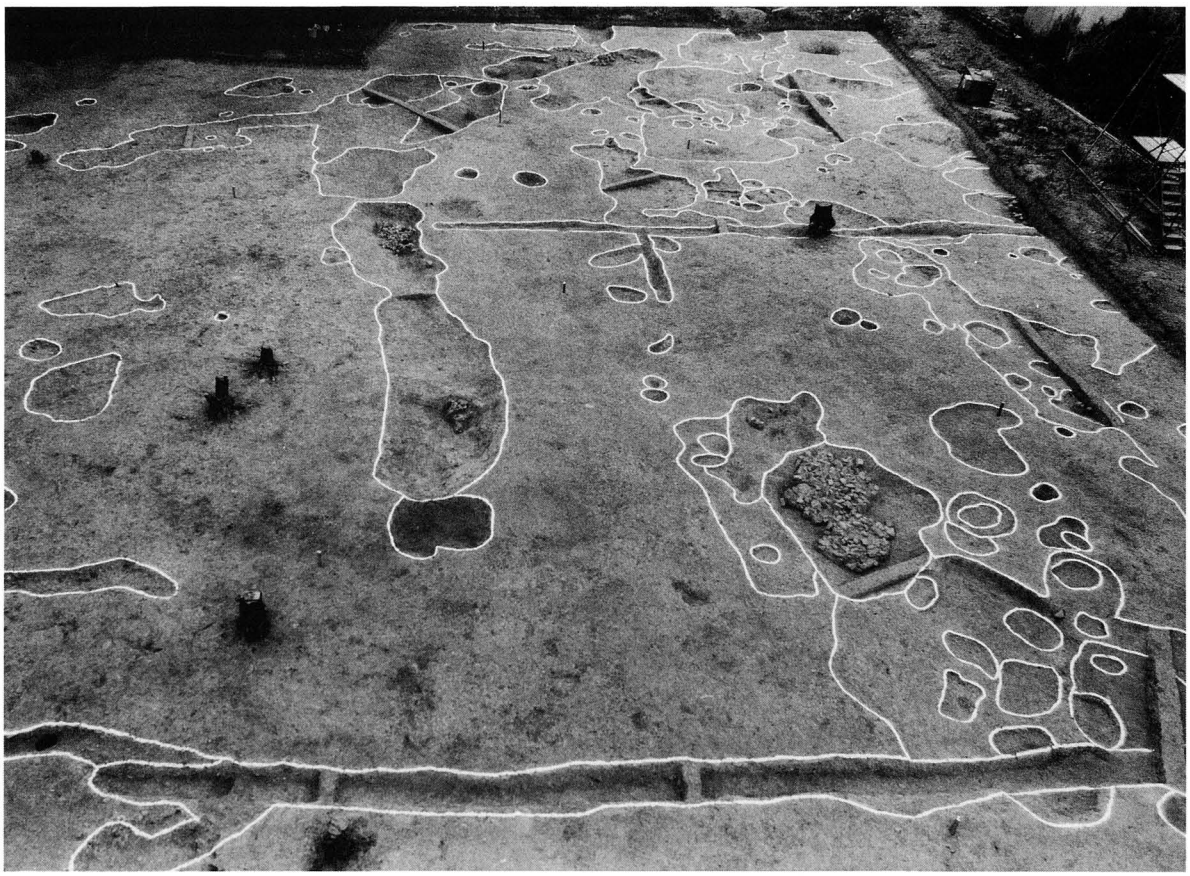


全景（北から）

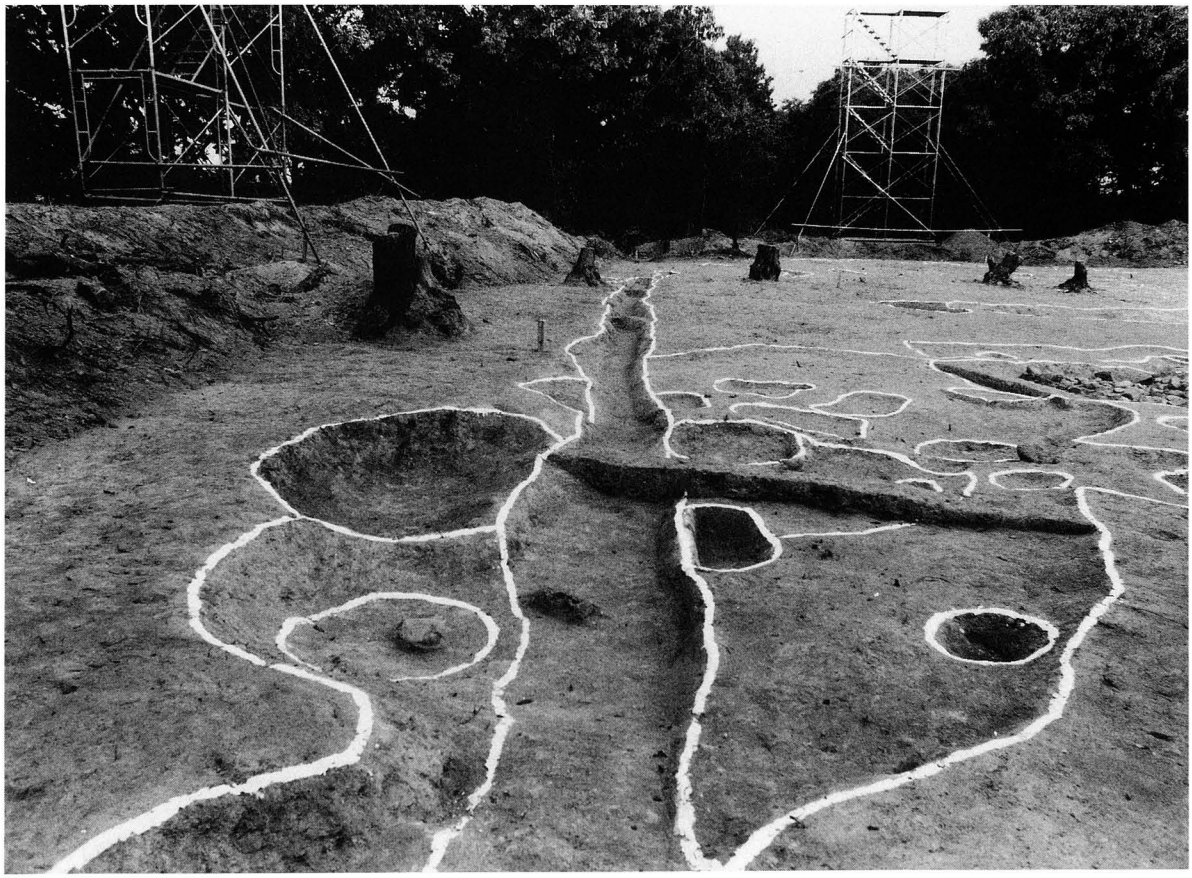


全景（南から）

図版23　遺構　菱子尻遺跡（HKS90－2）

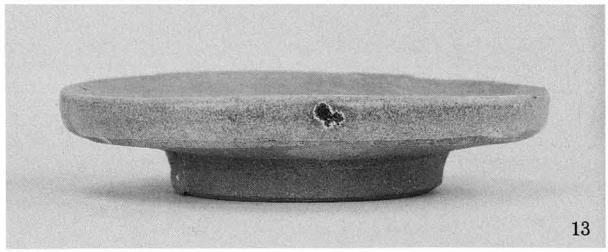


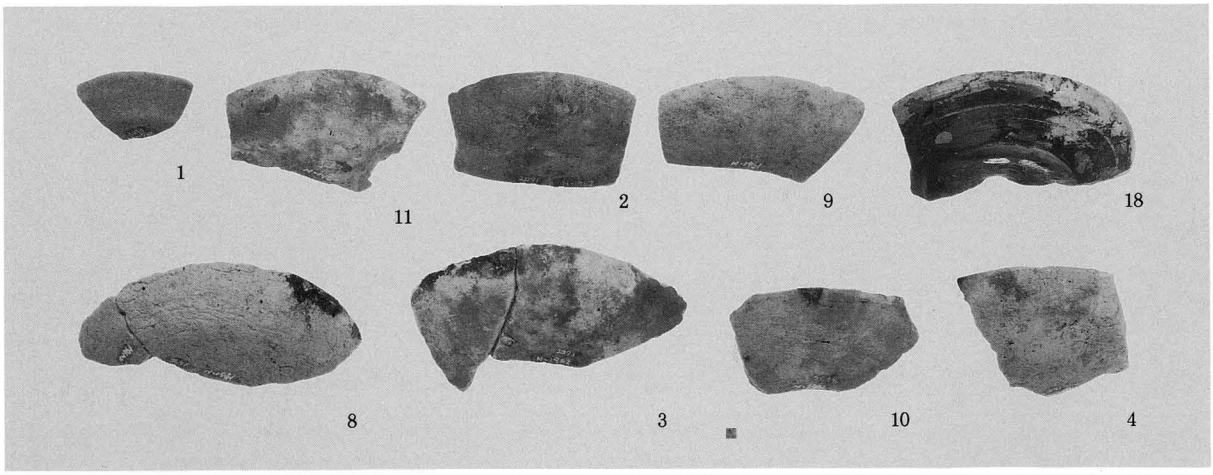
全景（西から）

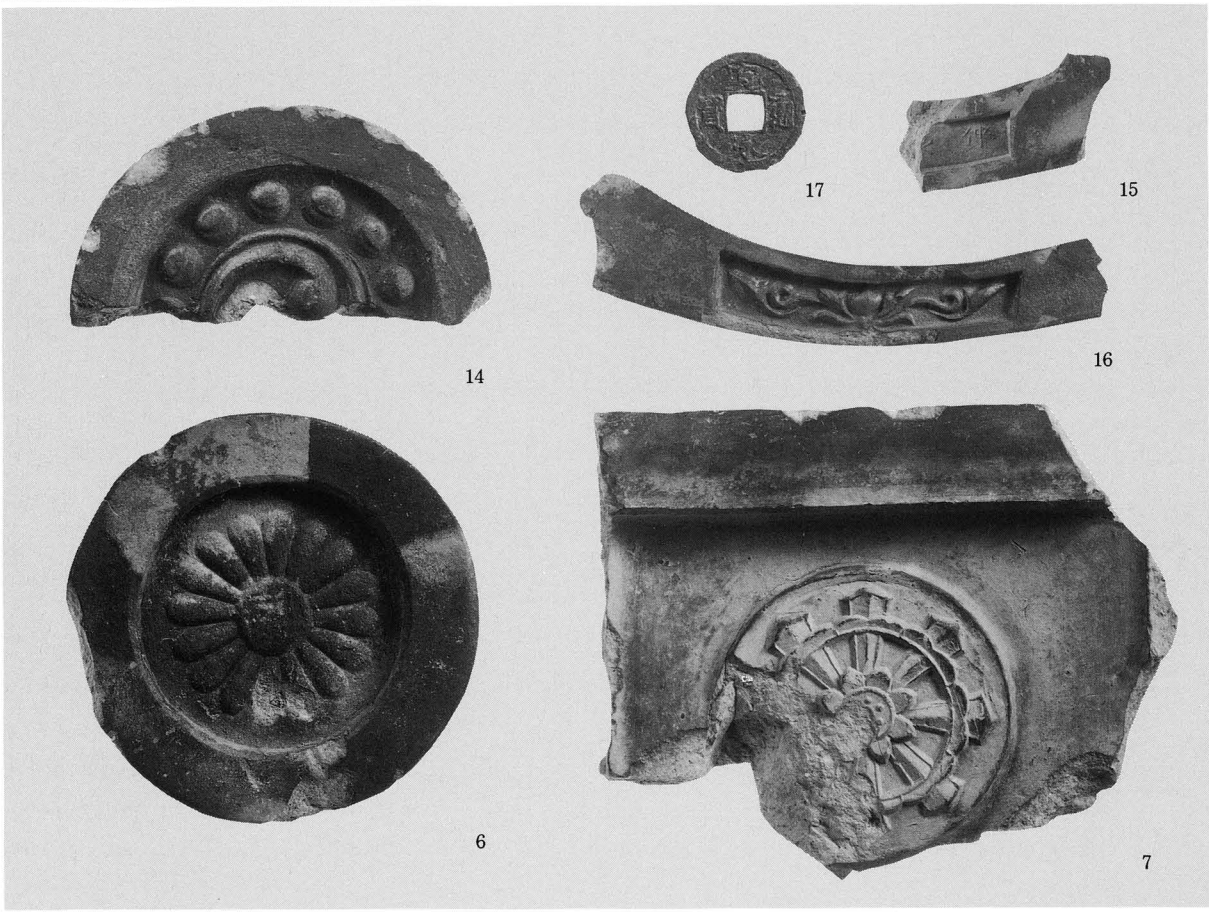


SD2（南西から）

図版24　遺物　菱子尻遺跡（HKS90－2）

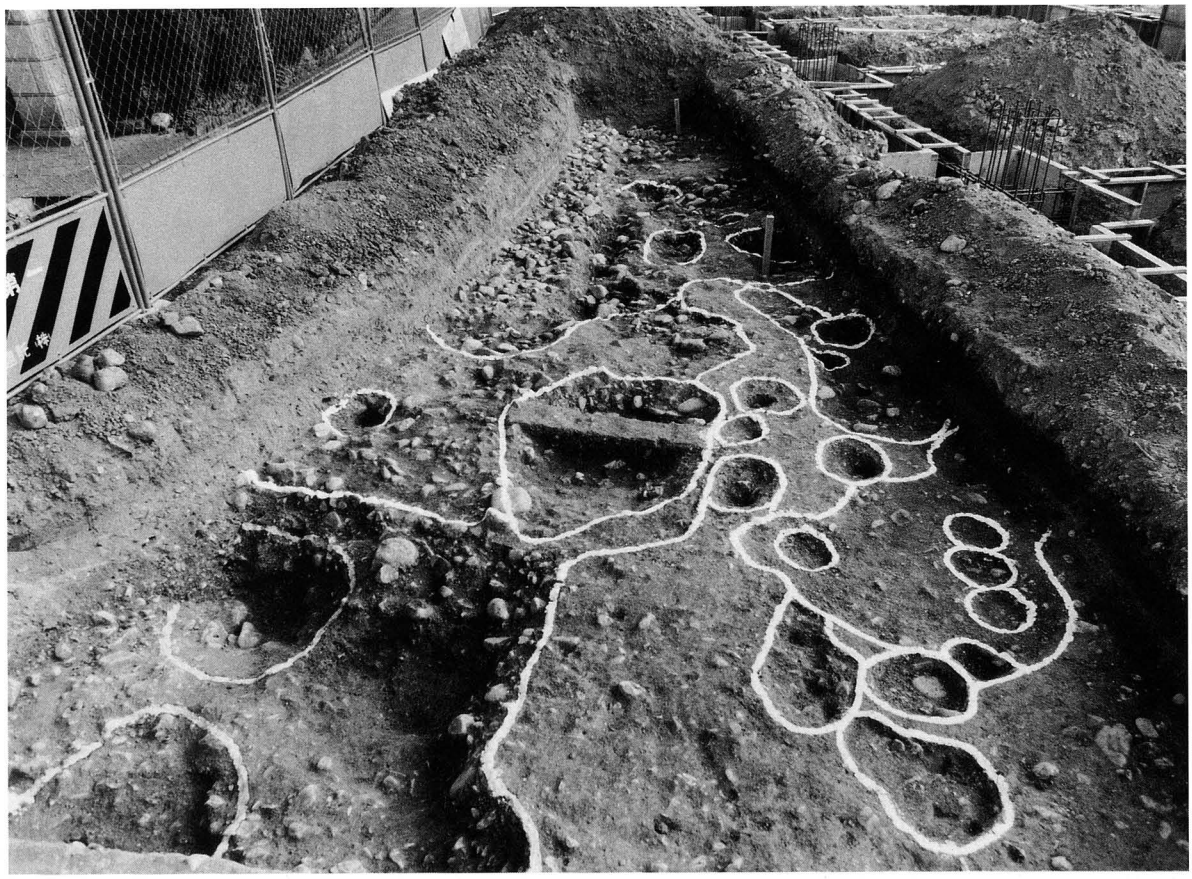




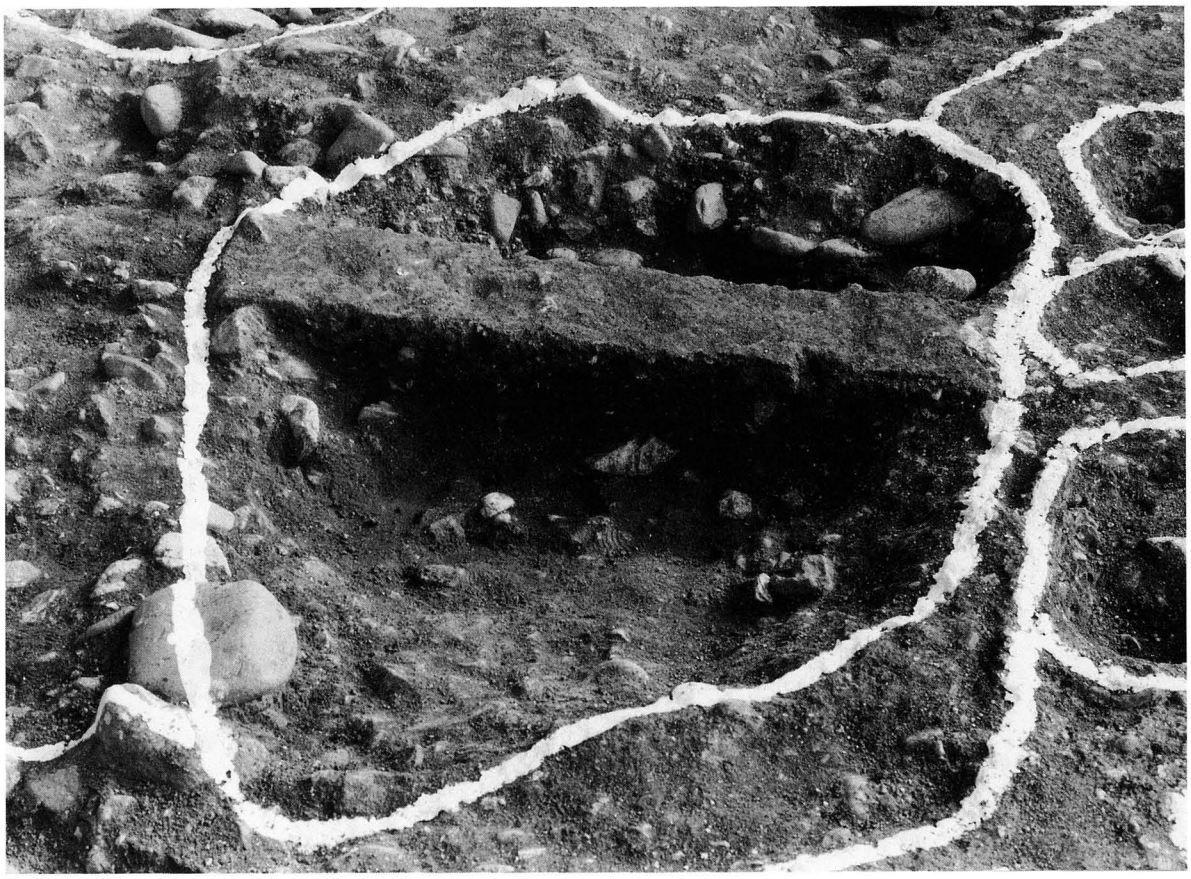


ＳＫ１（５）、ＳＫ２（６）、ＳＫ３（７）、ＳＫ４（１～４）、ＳＸ１（17）、ＳＸ２（14～16）
ＳＸ３（11～13）、ＳＸ４（８～10）、包含層（18）

図版25　遺構　市町東遺跡（ＩＣＨ90－１）

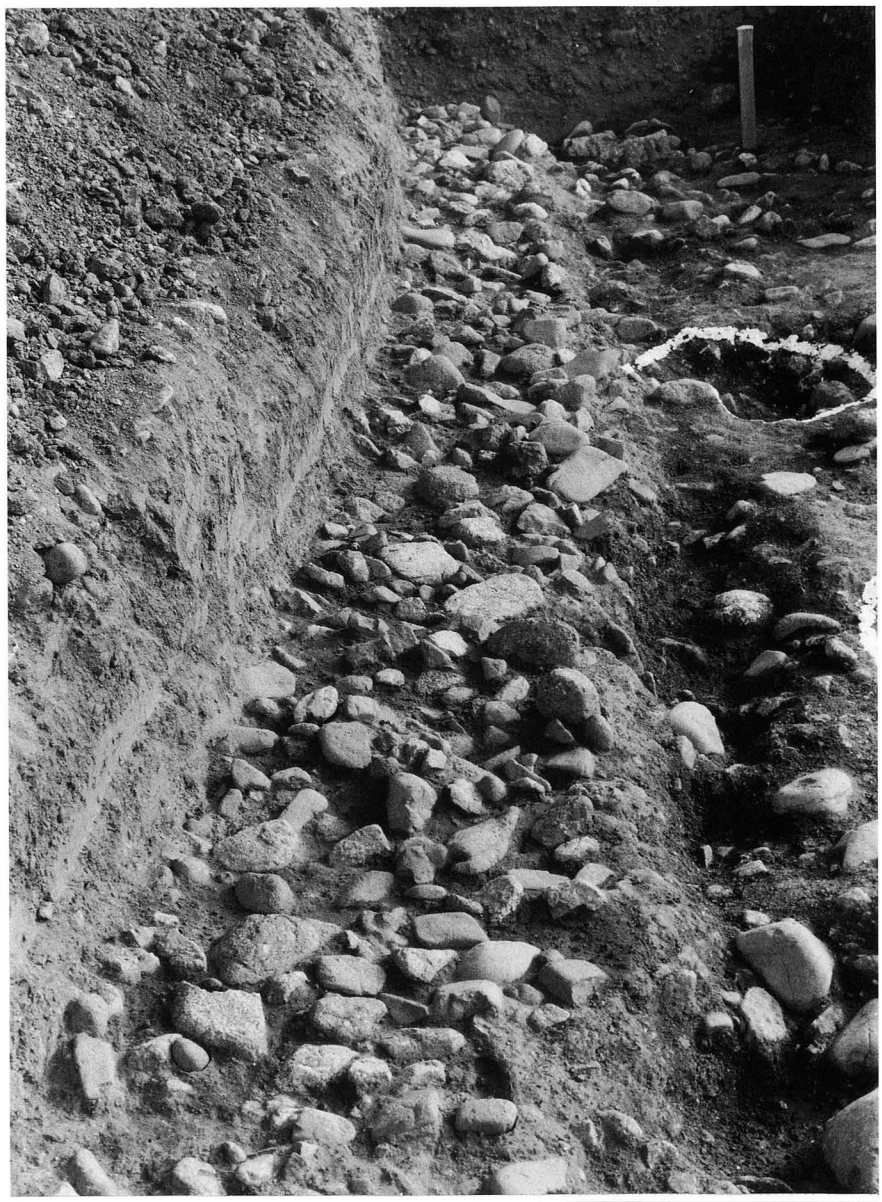


全景（北から）

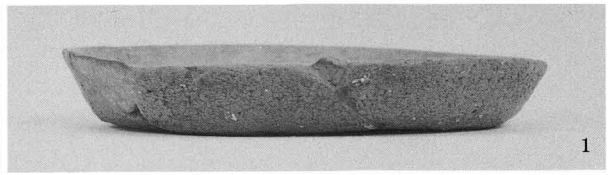


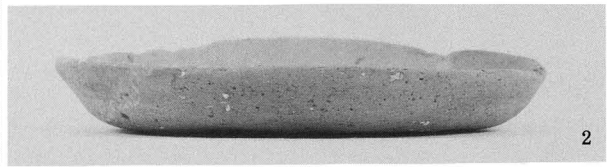
ＳＫ１（北から）

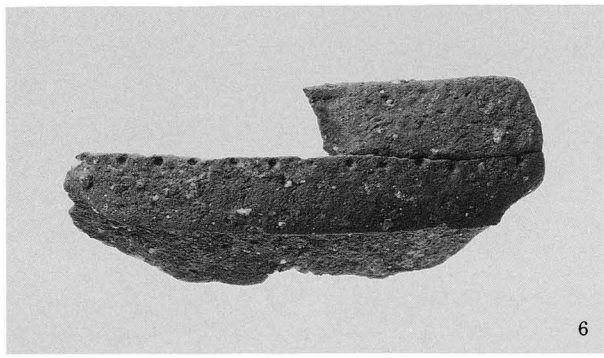
図版26　遺構・遺物　市町東遺跡（ＩＣＨ90－１）

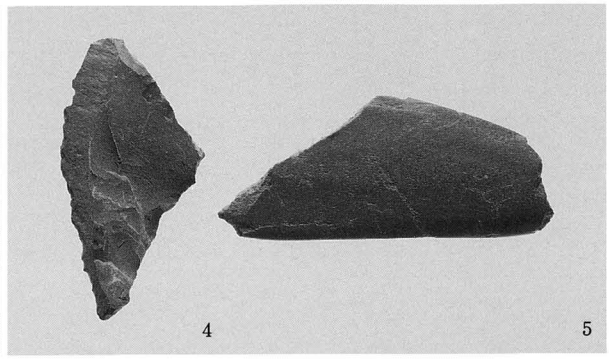


ＳＵ１（北から）▶









ＳＫ１（１～３）、包含層（４～６）

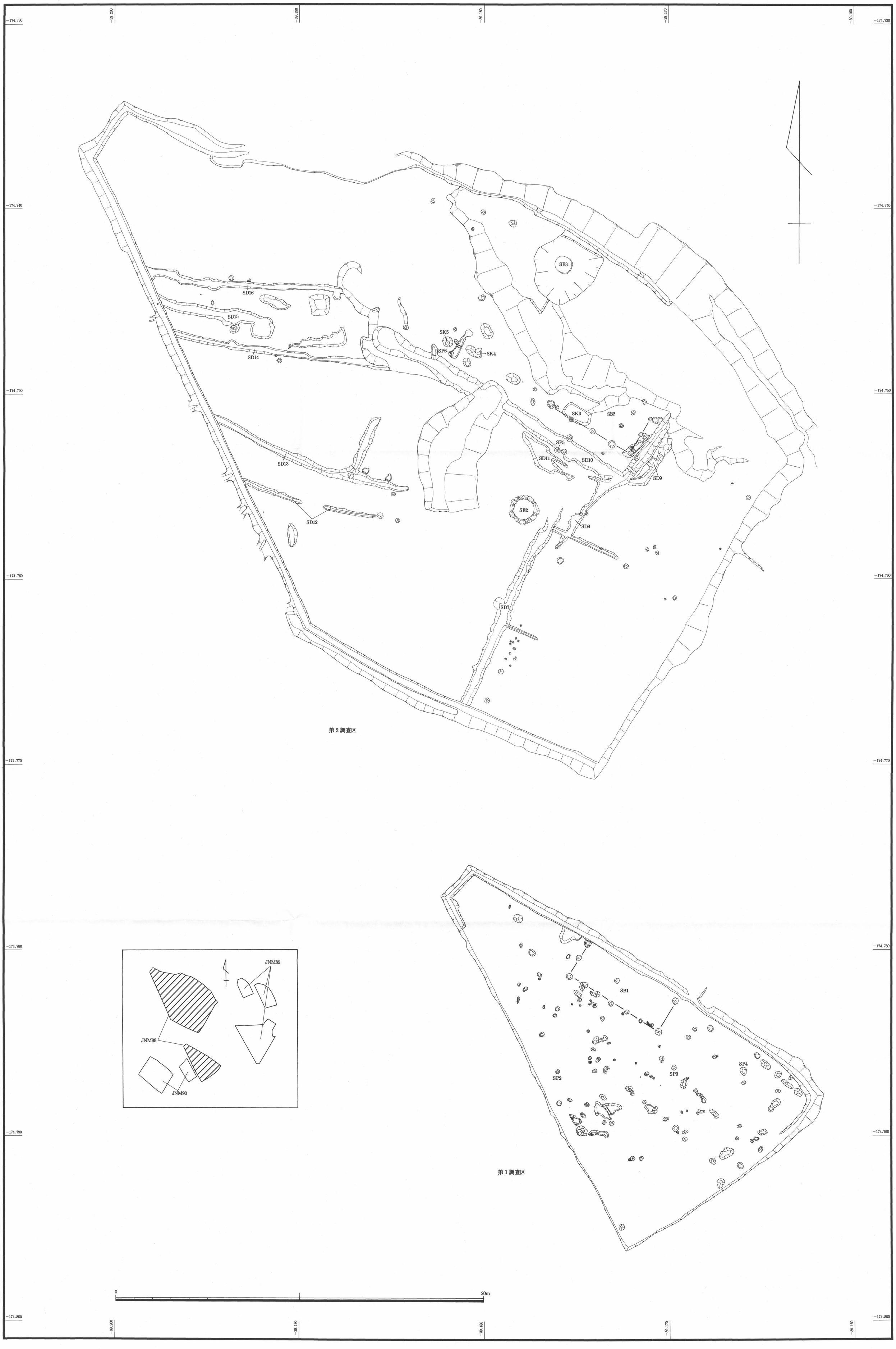
河内長野市遺跡調査会報XIII

ジョウノマエ遺跡・尾崎遺跡・尾崎北遺跡
・菱子尻遺跡・市町東遺跡

1996年3月31日発行

発　行　大阪府河内長野市原町396－3
河内長野市遺跡調査会
0721－53－1111

印　刷　中島弘文堂印刷所



付図1　JNM88遺構全体図(1/100)

付図２　尾崎遺跡遺構全体図(1/100)